

群
馬
県
埋
蔵
文
化
財
調
査
事
業
団
調
査
報
告
書
第
7
4
6
集

池ノ沢遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

上
信
自
動
車
道
吾
妻
東
バ
イ
パ
ス
事
業
に
伴
う
埋
蔵
文
化
財
発
掘
調
査
報
告
書

二〇二四

公
群
馬
県
埋
蔵
文
化
財
調
査
事
業
団
調
査
報
告
書
第
7
4
6
集



2024

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

池ノ沢遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



調査区空中写真(南東から)



調査区空中写真(北東から)

序

上信自動車道は、渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から、吾妻地域を経て長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジ付近につながる高規格道路です。この道路建設に伴う発掘調査が群馬県東吾妻町の池ノ沢遺跡において、令和4年度に行われました。

発掘調査では、縄文時代や古墳から平安時代の竪穴建物や土坑、ピット、中世の土壇墓や土坑、ピット、溝などを調査し、縄文土器や土師器、須恵器、灰釉陶器、石器、石製品や金属製品が出土しました。これらの遺構、遺物から、本遺跡には縄文時代中期に居住者があり、奈良時代を中心としたその前後の時代に集落が営まれていたことが分かりました。

今回の報告書刊行に至るまでには、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、東吾妻町教育委員会、及び地元関係者の皆さまに多大なご尽力を賜りました。感謝を申し上げます。

本報告書が地域の歴史解明の資料として活用されることを願います。

令和6年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 向田 忠正

例 言

- 1 本書は、令和4年度上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴い埋蔵文化財の発掘調査を実施した池ノ沢(いけのさわ)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 池ノ沢遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字小泉字池ノ沢230-1・532・533-1番地に所在する。
- 3 事業主体は上信自動車道建設事務所(群馬県土整備部)である。
- 4 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 5 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。






調査期間 令和4年6月1日～令和4年7月31日(履行期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)
調査担当 調査部調査1課 専門調査役 新倉明彦 専門調査役 廣津英一
遺跡掘削工事請負：株式会社測研
委託 地上測量：株式会社測研 空中写真撮影：技研コンサル株式会社
土器洗浄：有限会社高澤考古学研究所
- 6 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

整理期間 令和6年4月1日～令和6年8月31日(履行期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日)
整理担当 資料部資料3課 専門調査役 石守 晃
- 7 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 石守 晃
執筆 石守 晃
デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦(写真図版)・石守 晃(本文)
遺物観察 縄文土器・石製品：専門官(資料3課長) 藤巻幸男
土師器・須恵器：石守 晃・専門員(補佐) 矢口裕之・専門調査役 神谷佳明
陶磁器：専門調査役 大西雅広
石器：資料1課長(総括) 関口博幸・矢口裕之(石材同定)
金属製品：専門員(主任) 板垣泰之・専門調査役 関 邦一
人歯：石守 晃
遺物写真撮影 縄文土器・石製品：矢口裕之、石器：関口博幸、
金属製品：板垣泰之、古代土器・人歯：石守 晃
- 8 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 9 発掘調査及び本書作成にあたり下記の機関よりご協力、ご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。

群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、吾妻郡東吾妻町教育委員会、地元関係者各位

凡 例

- 1 池ノ沢遺跡の遺構平面図は、世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $+0^{\circ}40'48.75''$ である。
- 2 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを示した。
- 3 遺構平面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し遺構によっては異なる縮率を用いたものもある。
竪穴建物 1/60、埴・壘 1/30、土坑・ピット・集石 1/40、
溝(平面) 1/100、(断面) 1/50、旧河川(平面) 1/300、(断面) 1/150
- 4 遺物図の縮尺は以下のとおりである。
土器 1/3・1/4、石器(石鏝) 1/1、石製品 1/3・1/4、
銭貨 1/1、金属製品 1/2
- 5 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
- 6 図中で使用したスクリーン・トーンは、以下のことを表す。
焼土  粘土  赤彩  軸葉  磨り面 
- 7 本書では「浅間板鼻黄色軽石」(B.C.130～145世紀)は略号「As-YP」、「榛名二ツ岳火山灰」(A.D.6世紀初頭)は略号「Hr-FA」、「浅間箱川軽石」(A.D.1128、大治3年)は略号「As-Kk」を使用した。
- 8 土層や土器の色調観察は、農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を参考とした。
- 9 第1図は昭和59年度の国土地理院への問い合わせに対する、地図の当団発行の発掘調査報告書への掲載については、(個々の申請は不要だが)「国土地理院「□□」を使用」を明記することという指示に基づいて、国土地理院20万分の1地勢図「高田」「長野」「日光」「宇都宮」を使用した。
- 10 第2図は昭和59年度の国土地理院への問い合わせに対する指示に基づいて、国土地理院2.5万分の1地勢図「群馬原町」「金井」を使用した。
- 11 第3・4・5図は昭和59年度の国土地理院への問い合わせに対する指示に基づいて、国土地理院2.5万分の1地勢図「中之条」「群馬原町」「上野中山」「金井」を使用した。

目 次

口絵	3	埋設土器	20	
序	4	土坑	21	
例言	5	ピット	26	
凡例	6	遺構外の出土遺物	30	
目次	第3節	古墳～平安時代の遺構と遺物	31	
挿図・表・写真目次	1	概要	31	
	2	竪穴建物	31	
	3	土坑	44	
	4	ピット	45	
	5	遺構外の出土遺物	47	
第1章	池ノ沢遺跡の発掘調査とその経過	第4節	中世の遺構と遺物	48
第1節	発掘調査の経過	1	概要	48
1	上信自動車道	2	土坑	48
2	発掘調査に至る経過	3	ピット	54
3	調査経過	4	溝・旧河川	62
第2節	調査の方法	第5節	時期不明の遺構	65
1	遺跡略号	1	概要	65
2	調査区と調査面	2	土坑	65
3	発掘調査の方法	3	ピット	65
4	基本土層	4	集石	66
第2章	遺跡を廻る環境	第6節	旧石器確認調査	67
第1節	地理的・地質的環境	1	旧石器確認調査	67
1	地理的環境	第4章	自然科学分析	68
2	地質的環境	第1節	出土人歯の鑑定	68
第2節	歴史的環境	1	鑑定資料	68
1	旧石器時代	2	鑑定所見	68
2	縄文時代	3	まとめ	68
3	弥生時代	第5章	まとめ	69
4	古墳時代	土坑計測表	70	
5	奈良・平安時代	ピット計測表	70	
6	中世	遺物観察表	73	
7	近世	非掲載遺物集計表	76	
第3章	発見された遺構と遺物	写真図版		
第1節	調査区と遺構の概要			
1	1面の調査概要			
第2節	縄文時代の遺構と遺物			
1	概要			
2	竪穴建物			

挿図目次

第1図	上信自動車道と池ノ沢遺跡位置図	1
第2図	上信道有楽東バイパスと池ノ沢遺跡	2
第3図	池ノ沢遺跡の調査区と基本土層	4
第4図	地理・地質図	6
第5図	周辺道路図	8
第6図	調査区1区全体図	11
第7図	5号型穴建物(1)	14
第8図	5号型穴建物(2)	15
第9図	5号型穴建物a	16
第10図	5号型穴建物出土遺物(1)	17
第11図	5号型穴建物出土遺物(2)	18
第12図	5号型穴建物出土遺物(3)	19
第13図	1号埋設土器と出土遺物	20
第14図	土坑(1)	22
第15図	土坑(2)と20号土坑出土遺物	24
第16図	土坑(3)	25
第17図	ピット(1)	27
第18図	ピット(2)	28
第19図	ピット(3)と23号ピット出土遺物	29
第20図	道構外出土遺物	30
第21図	1号型穴建物	31
第22図	1号型穴建物竈と出土遺物	32
第23図	2号型穴建物	34
第24図	2号型穴建物竈と出土遺物	35
第25図	3号型穴建物	36
第26図	3号型穴建物出土遺物	37
第27図	4号型穴建物と出土遺物	38
第28図	6号型穴建物	39
第29図	6号型穴建物竈と出土遺物	40
第30図	7号型穴建物	41
第31図	7号型穴建物竈	42
第32図	7号型穴建物出土遺物	43
第33図	土坑(1)	44
第34図	ピット(1)	45
第35図	ピット(2)	46
第36図	道構外出土遺物	47
第37図	土坑(1)	49
第38図	土坑(2)と154号土坑出土遺物	52
第39図	土坑(3)	53
第40図	ピット(1)	54
第41図	ピット(2)	55
第42図	ピット(3)	56
第43図	ピット(4)	57
第44図	ピット(5)	58
第45図	ピット(6)	59
第46図	ピット(7)と162号ピット出土遺物	60
第47図	ピット(8)	61
第48図	ピット(9)	62
第49図	1号溝	63
第50図	井河川	64
第51図	時期不明の土坑・ピット	65
第52図	1号集石	66
第53図	巨石高橋認調査トレンチ位置	67

表目次

第1表	周辺道路一覧	9
第2表	周辺古墳一覧	10
第3表	時期及び土坑・ピット別遺構一覧	12
第4表	時期別遺構一覧	13
第5表	土坑計測表	70
第6表	ピット計測表	70
第7表	遺物観察表	73
第8表	非掲載遺物集計表	76

写真目次

口絵	調査区空中写真(南東から)				
	調査区空中写真(北東から)				
P.L. 1	1 調査区空中写真(南から)				
	2 調査区全景(手前北)				
P.L. 2	1 調査区中東部(手前東)				
	2 調査区中西部(手前南東)				
P.L. 3	1 5号型穴建物遺物出土状況(西から)				
	2 5号型穴建物遺物出土状況(南から)				
	3 5号型穴建物遺物全景(東から)				
	4 5号型穴建物埋蔵柱と柱穴(東から)				
	5 5号型穴建物跡全景(南から)				
P.L. 4	1 5号型穴建物跡断ち取り(北東から)				
	2 5号型穴建物ビット4上層断面(南から)				
	3 1号上坑全景(北から)				
	4 2号上坑全景(南から)				
	5 7号上坑全景(南から)				
	6 8号上坑全景(東から)				
	7 9号上坑全景(東から)				
	8 17号上坑全景(東から)				
P.L. 5	1 18号上坑全景(北東から)				
	2 20号上坑全景(北東から)				
	3 30号上坑全景(東から)				
	4 36号上坑全景(南から)				
	5 37号上坑全景(南から)				
	6 153号上坑全景(北から)				
	7 3号ビット全景(北東から)				
	8 4号ビット上層断面(南から)				
	9 5号ビット全景(南東から)				
P.L. 6	1 6号ビット全景(南から)				
	2 10号ビット全景(北東から)				
	3 11号ビット上層断面(南から)				
	4 12号ビット上層断面(南から)				
	5 13号ビット全景(北東から)				
	6 14号ビット全景(北東から)				
	7 15-16号ビット全景(北から)				
	8 21号ビット上層断面(南から)				
	9 22号ビット全景(北東から)				
	10 23号ビット全景(東から)				
	11 28号ビット全景(北東から)				
	12 楕円形基配列の土坑・ビット群(東から)				
P.L. 7	1 31号ビット全景(東から)				
	2 32号ビット全景(東から)				
	3 33号ビット上層断面(南から)				
	4 34号ビット全景(南東から)				
	5 35号ビット全景(南から)				
	6 40号ビット全景(東から)				
	7 118号ビット全景(南から)				
	8 119号ビット全景(北から)				
	9 124号ビット全景(北から)				
	10 125号ビット全景(南から)				
	11 128・129号ビット全景(東から)				
	12 133号ビット全景(北から)				
	13 135号ビット全景(北から)				
	14 144号ビット上層断面(東から)				
	15 144号ビット全景(東から)				
P.L. 8	1 1号型穴建物遺物出土状況(西から)				
	2 1号型穴建物全景(西から)				
	3 1号型穴建物電線遺物出土状況(西から)				
	4 1号型穴建物電線全景(西から)				
	5 1号型穴建物電線方全景(西から)				
P.L. 9	1 2・3号型穴建物上層断面(東から)				
	2 2号型穴建物全景(西から)				
	3 2号型穴建物電線全景(西から)				
	4 2号型穴建物電線方全景(西から)				
	5 3号型穴建物遺物出土状況(西から)				
	6 3号型穴建物出土1階遺物出土状況(西から)				
	7 3号型穴建物全景(西から)				
	8 3号型穴建物掘り方全景(西から)				
	9 3号型穴建物貯蔵穴全景(南から)				
	10 4号型穴建物遺物出土状況(北から)				
	11 2号型穴建物掘り方全景(西から)				
	12 6号型穴建物上層断面(西から)				
	13 6号型穴建物電線方全景(西から)				
	14 6号型穴建物遺物出土状況(西から)				
	15 6号型穴建物掘り方全景(西から)				
	16 7号型穴建物上層断面(東から)				
	17 7号型穴建物電線遺物出土状況(西から)				
P.L. 10	1 7号型穴建物全景(西から)				
	2 7号型穴建物掘り方全景(西から)				
	3 41号ビット全景(南東から)				
	4 120号ビット全景(南東から)				
	5 121号ビット上層断面(北東から)				
	6 122号ビット全景(北から)				
	7 123号ビット全景(南から)				
	8 126号ビット全景(北から)				
	9 127号ビット全景(北から)				
	10 130号ビット全景(東から)				
	11 131号ビット全景(東から)				
	12 132号ビット全景(東から)				
	13 136号ビット上層断面(北から)				
	14 138号ビット上層断面(北から)				
	15 140号ビット全景(南から)				
	16 141号ビット全景(南から)				
	17 143-142号ビット全景(東から)				
	18 143号ビット上層断面(東から)				
	19 149号ビット全景(東から)				
	20 150号ビット全景(東から)				
	21 155号ビット全景(東から)				
P.L. 11	1 38号土坑全景(西から)				
	2 68号土坑全景(北から)				
	3 77号土坑上層断面(北から)				
	4 77号土坑全景(南から)				
	5 111号土坑全景(西から)				
	6 115号土坑上層断面(南から)				
	7 115号土坑全景(北から)				
	8 160号土坑全景(東から)				
	9 154号土坑全景(南から)				
P.L. 12	1 154号土坑真鍮出土状況(南から)				
	2 173号土坑全景(南東から)				
	3 174号土坑上層断面(南東から)				
	4 174号土坑全景(北東から)				
	5 177号土坑全景(北東から)				
	6 39号ビット全景(南東から)				
	7 42号ビット全景(北から)				
	8 43号ビット全景(北から)				
P.L. 13	1 44号ビット全景(北から)				
	2 46号ビット全景(北から)				
	3 49号ビット全景(南から)				
	4 50号ビット全景(北東から)				
	5 51-47号ビット全景(北東から)				
	6 53-52号ビット全景(北東から)				
	7 55-56号ビット上層断面(南東から)				
	8 54-56号ビット全景(北西から)				
	9 58-57号ビット全景(北東から)				
	10 60-59-89号ビット全景(北東から)				

- 11 61号ビット全景(南東から)
 12 62-63号ビット全景(北東から)
 13 80-85-84号ビット全景(南東から)
 14 66号ビット全景(東から)
 15 67号ビット全景(東から)
- P.L. 18 1 69-70号ビット全景(南東から)
 2 71号ビット全景(南東から)
 3 72号ビット全景(南東から)
 4 73号ビット全景(南東から)
 5 74号ビット全景(南東から)
 6 75号ビット全景(南東から)
 7 76号ビット全景(南東から)
 8 78号ビット全景(南東から)
 9 79ビット上層断面(南から)
 10 85号ビット全景(南東から)
 11 86号ビット全景(南東から)
 12 88-87号ビット全景(北から)
 13 90号ビット全景(北から)
 14 91号ビット全景(北から)
 15 92号ビット全景(北から)
- P.L. 19 1 93号ビット全景(東から)
 2 94-95-79号ビット全景(南から)
 3 96号ビット全景(南東から)
 4 97号ビット全景(南東から)
 5 98号ビット上層断面(南西から)
 6 99号ビット全景(南西から)
 7 100号ビット全景(南から)
 8 101号ビット全景(南から)
 9 102号ビット全景(東から)
 10 103号ビット全景(北から)
 11 104号ビット全景(北東から)
 12 105号ビット全景(北東から)
 13 107号ビット全景(南東から)
 14 108号ビット上層断面(北から)
 15 109号ビット全景(東から)
- P.L. 20 1 110号ビット全景(東から)
 2 112号ビット全景(南から)
 3 116号ビット全景(東から)
 4 156号ビット全景(北東から)
 5 157号ビット全景(南から)
 6 161号ビット全景(南から)
 7 162号ビット全景(北東から)
 8 167号ビット全景(北西から)
 9 168号ビット全景(南東から)
 10 169号ビット全景(南から)
 11 172号ビット全景(南西から)
 12 175-176-179号ビット全景(北から)
 13 178号ビット全景(南東から)
 14 180号ビット上層断面(西から)
 15 181号ビット全景(東から)
- P.L. 21 1 1号溝全景(北から)
 2 1号溝南水殖跡(東から)
 3 1号溝硬化面(東から)
 4 調査区南東部谷地形(西から)
 5 旧河川(北東から)
 6 旧河川埋土中As-As-溜り
 7 旧河川中層-FM埋没状況
- P.L. 22 1 48号ビット上層断面(南から)
 2 48号ビット全景(東から)
 3 1号集石全景(西から)
 4 調査区北半部遺構確認トレンチ(南東から)
 5 旧石器確認調査トレンチ1(東から)
- P.L. 23 5号壱穴建物出土遺物
- P.L. 24 5号壱穴建物、1号埋設土器、20号土坑、23号ビット、遺構外、1～4号壱穴建物出土遺物
- P.L. 25 6・7号壱穴建物、遺構外、154号土坑、162号ビット出土遺物

第1章 池ノ沢遺跡の発掘調査とその経過

第1節 発掘調査の経過

1 上信自動車道

上信自動車道は、群馬県が平成20（2008）年3月に策定した「はばたけ群馬・県土整備プラン2013-2022」の最重要施策である。県内を走行する高速道路網（国土開発幹線自動車国道）を補完する交通軸である7軸構想の一つ、吾妻軸を構成する主要な道路である。また上信自動車道は、過去数度の土砂崩落による道路寸断を経験した、北群馬渋川エリアと吾妻エリアの間の防災・物流拠点を結ぶ強靱な道路ネットワークとしても設定されている。

上信自動車道は関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から渋川市、東吾妻町、長野原町、嬬恋村を経て、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジ付近に至る延長約83kmの高規格道路であり、地域高規格道路としても指定されている。群馬県内において上信自動車道は、渋川西バイパス等9本のバイパス道で構成され、池ノ沢遺跡はその中程の吾妻東バイパスの

一角に在る。

本道跡付近の東吾妻バイパスは、国道145号のバイパス道路であり、東吾妻町箱島から厚田までの延長約13.1km路線であるが、本道跡は同バイパス東半の2期区間（東吾妻町箱島～植栗間6.7km）に属する。なお本路線は2車線、設計速度60kmの道路として計画され、その事業期間は平成26年度から令和9年度の予定で進められている。



第1図 上信自動車道と池ノ沢遺跡位置図(国土地理院20万分の1地勢図「高田」「長野」「日光」「宇都宮」使用)

第1章 池ノ沢遺跡の発掘調査とその経過

【参考文献】

愛知県土木部道路都市局道路建設課(2000)『広域道路整備基本計画と地域高規格道路』
群馬県<<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/621001.pdf>
2024年7月16日>参照
群馬県<<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/627073.pdf>
>2024年7月16日>参照
群馬県県土整備部道路整備課(2015)『事業概要紹介 群馬がはばたくための7つの交通軸構想』『用地ジャーナル』23巻10号, pp25-30
道路法令研究会(2016)『道路法令総覧 平成29年版』, pp491-492
令研究会(2016)『道路法令総覧 平成29年版』, pp491-492

2 発掘調査に至る経過

上述のように上信自動車道東吾妻バイパス2期の建設事業は群馬県中之条土木事務所により平成26(2014)年度から開始されているが、平成29年度までに道路設計が完了し、引き続き令和3年には東端から建設工事の施工が開始され地盤改良工事及び橋梁工事が進められている。

一方埋蔵文化財の調査についても群馬県地域創生部文化財保護課(以下「県文化財保護課」とする)と協議を始め、順次試掘調査、本調査を進めている。なおこの間、同建設事業は中之条土木事務所から平成29(2017)年4月に設置された上信自動車道建設事務所(以下「上信道建設事務所」とする)に移管されている。

【参考文献】

群馬県<<https://www.pref.gunma.jp/page/8955.html> 2024年7月16日
>参照

令和3年10月29日、上信道建設事務所より県文化財保護課に対して東吾妻町小泉地内の池ノ沢A遺跡(東吾妻町遺跡番号0197)と池ノ沢B遺跡(同0198)に対する試掘調査の依頼がなされた。この依頼を受けた県文化財保護課は、令和3年12月10日に試掘調査を実施し、同月16日付で県文化財保護課は、池ノ沢A遺跡は本調査が必要であるとして上信道建設事務所へ回答した。なお池ノ沢B遺跡については12月10日の試掘未調査箇所があり、後日の当該箇所の試掘調査成果に鑑みて発掘調査の要・不要を判断する旨を上信道事務所へ回答している。

令和4年3月1日東吾妻町教育委員会(以下「東吾妻町教委」とする)教育長は群馬県知事に対し、周知の遺跡である「池ノ沢A遺跡」と「池ノ沢B遺跡」を「池ノ沢遺跡」に変更することを報告した。その後同月14日に群馬県知事は東吾妻町教委教育長に対し、周知の遺跡である「池ノ沢A遺跡」・「池ノ沢B遺跡」の「池ノ沢遺跡」への変更決定を通知した。

令和4年3月14日、群馬県知事(上信道建設事務所)は池ノ沢遺跡を含む上信自動車道東吾妻バイパス2期事業に伴う3遺跡の発掘調査事業の実施について、文化財保護法第94条による通知を東吾妻町教委に対して提出し、同日吾妻町教委は、群馬県知事(県文化財保護課)にこれを進達した。



第2図 上信道吾妻バイパスと池ノ沢遺跡(国土院2.5万分の1地勢図「群馬県」金井使用)

以上のような調整を経て上信建設事務所は池ノ沢遺跡の発掘調査を公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託することとして、同遺跡を含む7遺跡の発掘調査委託契約を令和4年4月1日に締結した。これにより、本事業団が池ノ沢遺跡の発掘調査を実施することとなった。

3 調査経過

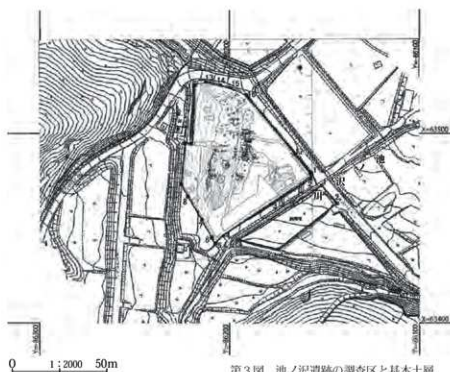
本遺跡の発掘調査は令和4年6月1日より同年7月31日までの間に実施した。以下、その経過を記す。

- 6月1日 安全対策整備。調査区設定。
- 2日 駐車場整備(～9日)。
- 3日 トレンチ掘削。Hr-FA上面遺構確認。
- 7日 1区(南側区)堆積土確認トレンチ掘削(～8日)。2区(北側区)表土掘削。
- 8日 1区表土掘削(～17日)。2区堆積土確認トレンチ掘削。
- 9日 1区西側から遺構確認開始(～17日)。2区出入口設置(～10日)。
- 10日 1区遺構確認。
- 13日 1・2区の名称を改め1区のみとする。北側：遺構確認(～16日)。
- 14日 北側：1～39号土坑掘削・土層断面記録。
- 16日 北側：1～42号土坑土層断面・全景写真。
- 17日 北側：Hr-FA混土上面(As-Kk下)で43～80号土坑と竪穴建物2棟検出。
- 20日 北側：空中写真撮影準備。Hr-FA混土上面で13～95号土坑全景写真。
- 21日 北側：空中写真撮影。1号竪穴建物調査開始(～7月12日)。96・97号土坑調査。旧石器確認調査開始(1・2・3トレンチ、～24日)。
- 22日 南側：表土掘削(～24日)。
- 23日 北側：101～103号土坑掘削、谷地形掘削、写真撮影。
- 24日 北側：104～115号土坑掘削。
- 27日 北側：115～130号土坑掘削(～28日)。
- 28日 北側：111・112号土坑ベルト除去、115号土坑土層断面写真。南側：As-Kk混土下礫層面表出。重機による排土移動(～7月1日)。
- 29日 北側：2号竪穴建物調査開始(～7月7日)、



作業風景

- 3号竪穴建物調査開始(～7月8日)、115号土坑土層断面記録・写真(～30日)、130～133号土坑掘削。
- 30日 北側：4号竪穴建物調査開始(～7月8日)。
- 7月1日 北側：115号土坑全景写真(～4日)。134号土坑土層断面写真。南側：旧河川検出。
- 4日 北側：115号土坑全景写真。南側：旧河川Hr-FA埋没流路土層断面写真。
- 5日 南側：2面遺構検出作業。土坑、ビット半裁から2面遺構掘削開始(～10日)。
- 6日 南側：表土掘削開始。
- 7日 北側：137号土坑調査中。南側：表土掘削開始(～13日)。遺構確認。旧河川検出作業。
- 8日 南側：遺構確認(～11日)。
- 10日 南側：表土掘削。
- 11日 北側：縄文土器集中箇所検出。
- 12日 北側：1号竪穴建物掘り方調査完了。5号竪穴建物調査開始(～28日)。
- 13日 南側：6・7号竪穴建物開始(～27日)。
- 14日 南側：掘削。143～145号土坑土層断面写真。ローム上面遺構確認。
- 15日 南側：146・147号土坑掘削。As-Kk埋没1号溝調査開始(～21日)。
- 19日 南側：空中写真撮影準備。151号土坑掘削。
- 20日 南側：空中写真撮影。
- 21日 北側：1号竪穴建物掘り方全景写真。南側：1号溝全景・個別写真。
- 22日 南側：180号土坑掘削。重機による埋め戻し開始(～29日)。



第3図 池ノ沢遺跡の調査区と基本土層

表土
As-Kk混黒色砂質土
As-Kk
暗褐色土等
Hr-FA泥流層
暗褐色土等
黒色～黒褐色土
ローム
砂礫層

- 25～28日 北側：5号竪穴建物調査継続。南側：6・7号竪穴建物遺物調査継続。
 28日 北側：5号竪穴建物調査終了。南側：6・7号竪穴建物調査終了。旧石器確認調査開始(4～6トレンチ、～29日)。
 29日 調査終了。発掘調査事務所撤収。遺物詰込み。

第2節 調査の方法

1 遺跡略号

本書に報告する池ノ沢遺跡の略号は遺跡名から「1S」とした。

2 調査区と調査面

池ノ沢遺跡の調査区は、当初「1区」(南側区)と「2区」(北側区)の南北2区に分けていたが、6月13日以降は両区を合わせて「1区」とした。

また本遺跡の調査面は、基本的にAs-Kk下面の1面である。一部圃場整備の削平によりローム面とする箇所もある。また南東部にはAs-Kkの堆積する範囲もあり、直下面を調査したが、遺構は検出されなかった。

グリッドの設定はなかったが、世界測地系国家座標(座標第IX系)による1メートル単位の位置を南東隅として、

1m方眼の座標をもって仮想グリッドとした。

3 発掘調査の方法

(1)掘削

調査区は、ピンボールとテープで囲繞し、看板等で危険個所の明示を行った。

表土掘削は掘削機械、排土運搬はクローラードンプを用いた。なお、排土は調査区内に積載することとなったため、まず北側を調査した後、南側の調査を実施した。

その後の調査は人力で、遺構確認を鋤耨等、遺構掘削を移植ごて等を用いて実施し、排土は一輪車やキャリアードンプ等で運搬した。

なお調査終了後に掘削重機とクローラードンプを使用して埋め戻し作業を実施した。

(2)記録

調査区あるいは個々の遺構の記録は、測量、土層注記、写真撮影により実施した。

写真撮影はデジタル写真とプロローニ版による銀塩写真を用いて調査担当者が行い、空中写真撮影は専門業者に委託した。

遺構測量はデジタル測量で実施し、専門業者に委託した。平面図は調査区全体の1/200図と1/40の割付図、竪穴建物の1/20図を作成し、土層断面図は1/20図を作成し

た。測量成果であるデジタルデータは保管し、併せてアナログ図の打ち出し図を作成した。なお土層注記は調査担当が実施し、該当の遺構図に編集した。

(3) 出土遺物の取り上げ

出土遺物は、出土状況の写真撮影と出土位置の測量を適宜行った。この際、出土遺物は取り上げ後にビニール袋に収納し、地区、遺構、出土層位、取り上げ番号等を記した荷札を付した。発掘調査終了後に洗浄と出土位置等の注記を専門業者に委託した。

4 基本土層

残された記録等から表土／As-kk混黒褐色砂質土／As-kk／暗褐色土等／Hr-FA泥流層／暗褐色土等／黒色土～黒褐色土／ローム(含As-YP)／砂礫層の堆積が認識される。

第2章 遺跡を廻る環境

第1節 地理的・地質的環境

1 地理的環境

本遺跡は、群馬県の北西部、吾妻峽を境に東西に分けられる吾妻郡の東半部中程に在り、群馬県庁の北西26.0km、吾妻郡東吾妻町役場の東南東4,450m、旧吾妻郡東村役場であった東吾妻町東支所の西北西3,225m、JR吾妻線中之条駅の南東850mに位置する。

本遺跡周辺では北側に新第三系の山々が連なり、東側に第四系の火山である小野子山、南側に同じく榛名山が聳え、これらの山々に囲まれて、東西4.5km程、南北2.5km程の東西に長い長方形の中之条盆地が広がる。

吾妻郡をおおよそ東西に横断する一級河川吾妻川は、北側の新第三系の山地と南側の第四系の榛名山の間を東流する。本遺跡の北西側に広がる中中之条盆地に入ると、「几」字状に北側に張り出すように流れて、中中之条盆地の南東部、小野子山の南西隅で流れを東に転じて流下する。

この吾妻川の支流は、第4図の範囲では、吾妻川左岸では北側で西から胡桃沢川、桃瀬川、名久田川、吾妻川が南に流路を变じてからは流路の短い大滝沢川、不動沢川、清明沢川とその支流の沢入沢川があり、吾妻川右岸では西側に大泉寺川、東側に泉沢川が北流して、両者の間に西沢川、池ノ沢川、中郷沢川の短い流路の小河川が並んで北流する。このうち、池ノ沢川は本遺跡に東接して流れる。

また、吾妻川流にはおおよそ上下2段の段丘面があ

り、第4図北西(左上)から北西側にかけての区域では、吾妻川とその支流の四万川が形成した4段の段丘面が見られる。段丘面いづれも吾妻川に向かって緩傾斜している。また上下2段の段丘面のうち上位段丘面には耕地が広がり集落が散在し、下位段丘面には水田を中心とした耕地が営まれている。池ノ沢遺跡はこのような上位段丘面と榛名山麓との境にあり、榛名山麓を流下する池ノ沢川に削られた緩傾斜面上に所在している。(口絵)

2 地質的環境

第4図に示した範囲では、最も古いものは、右上(北東)の新生代第三紀中新世の地層、すなわちサハ化石等を含む凝灰質砂岩と泥岩の互層である沢渡層(Aoy)が見られ、その南側に新生代第三紀後期鮮新世から新生代第四紀前期更新世の地層では、青山岩体・甲里岩体などが貫入する、下位から下市城角礫岩部層・境沢軽石凝灰岩泥岩部層・岩井堂凝灰角礫岩部層・堀の内砂岩泥岩部層で構成される小野上層(On)が見られる。

第4図の過半を占めているのは新生代第四紀の地層であるが、本遺跡の北側に見られる中期更新世の地層には周辺部に礫層・砂層・火山灰層を含む平野の発達したシルト層の中之条湖成層(Nk)がある。中中之条湖成層(Nk)は中中之条盆地に形成された東西約20km、南北約15km、水深200mの「古中中之条湖」と称される静止水域に形成された湖成層で、標高330～540mの間にある。古中中之条湖の形成起源は特定されておらず、静止水域の珪藻と流水性の珪藻化石も見られ、単純な湖とは認識され

第2章 遺跡を巡る環境

ていない。

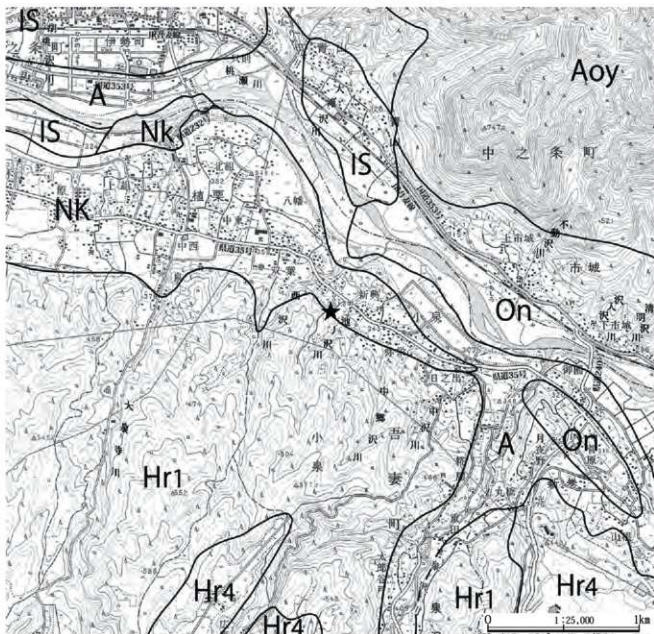
一方、本遺跡の南側では中期～後期更新世に形成された榛名火山が本遺跡の南側に迫る。榛名火山の形成時期は5期に分類されるが、本遺跡付近では紫蘇輝石普通輝石安山岩の溶岩と火砕物の互層を主体とし、山麓部では二次堆積物が堆積する第1期の噴出物(Hr1)と、山体崩壊に伴う岩屑なだれ堆積物を含む軽石流堆積物から成る第4期の噴出物(Hr4)が見られる。榛名火山ではこの時期後に伴い新旧二つのカルデラ(約4万年前、約15万年前)が形成されている。なお、本遺跡付近の榛名火山の堆積物は共に中期更新世のものである。

第4図中の北側の更新世段丘としては、古中之条湖消

滅後の上部ローム堆積の段丘面として、As-BP等の堆積により2万数千年前の形成とされる中之条面(NK)があり、完新世段丘面としては1万年前に形成され、中之条盆地に見られる伊勢町面(IS)が見られる。また吾妻川と第4図南東(右下)の泉沢川に沿って、後期更新世から完新世の沖積層(A)が見られる。

【参考文献】

群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万分の1地質図』、内外地図東吾妻町町見ハザードマップ 詳細図3 <<https://www.town.higashitagatsuma.gunma.jp/www/contents/1670376506094/files/3.pdf>> 2024年4月15日参照
令和3年3月29日 群馬県告示第89号 吾妻郡中之条町(市域地区) <<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/28604.pdf>> 2024年4月15日参照



第4図 地理・地質図(1/25,000、国土地理院2.5万分の1地勢図「群馬原町」を使用)

第2節 歴史的環境

第5図に示した本遺跡付近の周知の遺跡は、中之条盆地の吾妻川、四万川による河岸段丘面上、その下流域では吾妻川右岸(南側)の河岸段丘面上を中心に分布し、山地での分布は限られる。以下に時代毎の概要を記す。

1 旧石器時代

吾妻郡域で確認される旧石器時代の遺跡は群北東部の高山村新田西沢遺跡のみで、第5図で図示した範囲も含め周辺部での旧石器時代の遺跡は確認されていない。

2 縄文時代

縄文時代になると、第5図の範囲では示した遺跡のおよそ1/3の遺跡で確認されているが、その分布は中之条盆地東側の吾妻川右岸の榛名山麓を中心に広がる。植栗中原遺跡(32)で草創期の遺物等を調査している。早期の遺構・遺物としては下泉A遺跡(28)の集石周辺や植栗中原遺跡(32)、小泉宮戸遺跡(40)で土器や石器が出土し、月夜野A遺跡(53)で遺構・遺物を確認している。

前期の遺物が小泉宮戸遺跡(40)で出土している。

中期の遺構・遺物では、岩井山根B遺跡(25)で竪穴建物、小泉宮戸遺跡(40)で竪穴建物や土坑、ピットを調査し、小泉天神遺跡(49)で少量の土器が出土している。

後期では前半期の竪穴建物が植栗中原遺跡(32)で調査されている。小田沢遺跡(26)や小泉天神遺跡(49)で土器が出土している。

晩期では植栗山根A遺跡(34)で竪穴建物を調査している。

3 弥生時代

弥生時代の遺跡も、第5図の範囲で示した遺跡の1/3ほどであるが、その分布は縄文時代のような偏りはなく、全体的な広がりを見せる。

弥生時代の遺跡の調査例は少ないが、天神遺跡(3)、川端遺跡(4)では弥生時代後期の拠点集落が調査され、鉄剣・鉄斧などが出土している。また岩井山根B遺跡(25)で竪穴建物、小泉宮戸遺跡(40)では土坑を調査し、中期と主に後期の土器が出土している。

4 古墳時代

古墳時代の遺跡としては、第5図の範囲で示した遺跡の1/4ほどであるが、その分布は全体に広がる。また後期の円墳を中心とした古墳は、広く散布するが、中之条盆地東端、吾妻川の左岸の中之条町青山に伊勢貝岡古墳群(8)、中之条盆地東側の吾妻川左岸の小野上山山麓の中之条町市城で8基が集中するようになり、これに隣接して市城亀石古墳群(10)が在る。墳丘直径は5～10m程度の小型のものが多く、植栗山根A遺跡(34)の中に在る諏訪塚古墳(K24)は推定長30mを測る円墳である。

一方、小田沢B遺跡(20)では掘立柱建物や弥生時代後期の樽式と前期の石田川式土器の共存する竪穴建物、小田沢遺跡(26)で前・中期の土坑や後期以降の水田、下泉B遺跡(29)で中期の土坑を調査した他、集落等では下泉B遺跡(29)で後期の竪穴建物、植栗中原遺跡(32)では前期や後期の竪穴建物、Hr-FA下の水田などが調査されている。小泉宮戸遺跡(40)で前期から後期の竪穴建物、小泉天神遺跡(49)で後期の竪穴建物を調査している。生産遺跡としては植栗山根A遺跡(34)でHr-FA下の小田沢水田を調査している。

5 奈良・平安時代

律令期において本遺跡は吾妻郡に属し、吾妻郡には長田(なかつた)・伊参(いさま)・太田の3郷(里)があった。第5図の中では吾妻川の左岸部は中之条町伊勢町を遺名とする伊参郷、右岸部は本遺跡を含め太田郷に比定される。

第5図の範囲で律令期の遺跡は遺跡分布域の全域に広がり、その7割強を占める。このうち小田沢B遺跡(20)では平安時代の竪穴建物やAs-B下水田、岩井山根B遺跡(25)では竪穴建物、小田沢遺跡(26)では飛鳥～平安時代の溝、下泉A遺跡(28)ではAs-Kk下面で溝・水田を調査し、植栗中原遺跡(32)では平安時代の竪穴建物やAs-B下の水田が調査され、水場遺構なども見られた。植栗山根A遺跡(34)でAs-B下水田の痕跡を確認している。小泉宮戸遺跡(40)で飛鳥時代～奈良時代前半、平安時代前半の集落を発見、調査し、小泉宮戸遺跡(40)では竪穴建物や掘立柱建物などを調査した他、平安時代中・後葉の製鉄関連遺構を調査した。また小泉天神遺跡(49)では奈良時代の

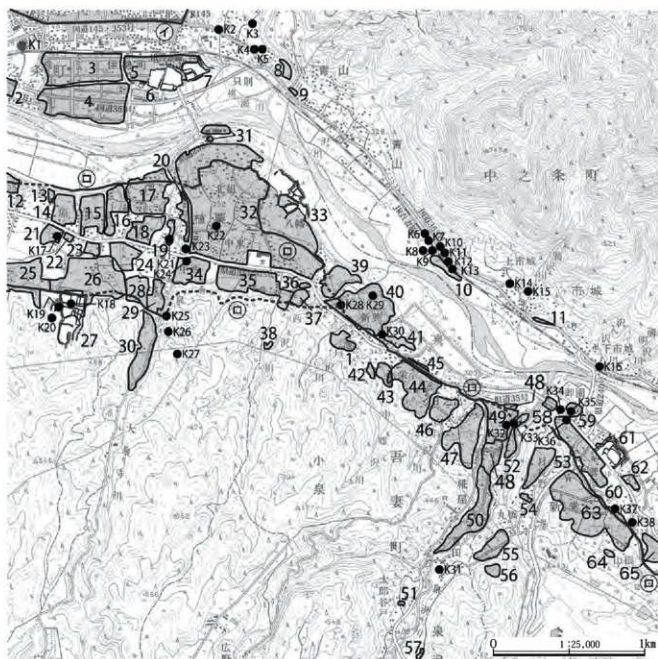
竪穴建物や掘立柱建物などを調査している。

6 中世

鎌倉時代に吾妻太郎の存在が吾妻鑑により知られているが、その本拠地は確認されていない。室町時代に入ると、吾妻川上流の東吾妻町岩下城を拠点とする藤原系の地衆齋藤氏が岩下衆を率いて、吾妻郡東半部を中心に支配したが、永禄6(1563)年からの真田氏の侵攻により付近は真田の支配地となる。

第5図の外側になるが、本遺跡の西南西5.8kmに当地

方の主要城郭である岩櫃城、北西6.2kmには永禄9年に四万川を挟んで岩櫃城の真田氏と対峙した齋藤氏が籠った高山城がある。第5図の範囲の城館址は5か所で、吾妻川左岸の中之条町伊勢町南に由来不詳の伊勢城(6)、その東に隣接して小城とも記載され、天正年間の攻防の記録がある古城(7)が築かれる。古城は野面の石垣を伴う珍しい城であった。吾妻川右岸には小田原北条氏に対する備えとして真田氏が人を入れた小田沢の砦(27)や植栗氏の居城植栗城(33)、齋藤氏の系が入った可能性のある荒巻屋敷(61)が築かれている。



第5図 周辺遺跡図(1/25,000、国土地理院2.5万分の1地勢図「群馬原町」を使用)

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	市町村No.	時期							種別	備考	
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世			近世
1	池ノ沢遺跡	0197		○			○	○			散布地	令和4年3月に池ノ沢A遺跡と池ノ沢B遺跡を池ノ沢遺跡に変更することと東区産業教育委員会教育長が群馬県知事に報告し、同知事が同教育長に変更決定を通知した。
2	長岡遺跡	0039			○	○	○	○			集落	
3	大神遺跡	0019		○	○	○	○	○			散布地、集落	
4	川端遺跡	0033			○	○	○	○			集落	
5	上原遺跡	東吾妻0032						○	○		集落、城館	
6	伊勢城址	中ノ条0056							○		城館	中世城館跡781
7	古城址	中ノ条0057							○		城館	中世城館跡781
8	伊勢川原古墳群	中ノ条0042				○					古墳	新紀元中ノ条町13～15
9	西庭遺跡	中ノ条0076									集落	
10	市城石古墳群	中ノ条0041				○					古墳	新紀元中ノ条町4～9
11	市城本遺跡	中ノ条0077				○	○				散布地、集落	
12	白山神社遺跡	東吾妻0012			○	○					散布地	
13	松木B遺跡	東吾妻0166					○	○			散布地	
14	原A遺跡	東吾妻0167		○	○	○	○				散布地	
15	原B遺跡	東吾妻0168		○	○	○	○	○			散布地	
16	塚郷遺跡	東吾妻0178		○	○	○	○	○			散布地	
17	榎栗舞台遺跡	東吾妻0090			○	○	○	○		○	集落	
18	田野原A遺跡	東吾妻0180				○	○	○			散布地	
19	田野原B遺跡	東吾妻0181				○	○	○			散布地	
20	小沼沢B遺跡	東吾妻0188			○	○	○	○			散布地	
21	原田A遺跡	東吾妻0174				○	○	○			散布地	
22	原田B遺跡	東吾妻0175				○	○	○			散布地	
23	原田C遺跡	東吾妻0176				○	○	○			散布地	
24	原田D遺跡	東吾妻0177				○	○	○			散布地	
25	岩井山根B遺跡	東吾妻0171		○	○	○	○	○			散布地	
26	小田沢遺跡	東吾妻0173			○	○	○	○			散布地、古墳	
27	小田沢の砦								○		城館	中世城館跡790
28	下泉A遺跡	東吾妻0182		○	○	○	○	○			散布地	
29	下泉B遺跡	東吾妻0183			○	○	○	○			散布地	
30	上泉遺跡	東吾妻0184		○	○	○	○	○			散布地	
31	竜ヶ鼻遺跡	東吾妻0011			○	○	○	○			散布地	
32	榎栗中原遺跡	東吾妻0091			○	○	○	○			散布地、集落、古墳	
33	榎栗城址	東吾妻0089							○		城館	中世城館跡791
34	榎栗山根A遺跡	東吾妻0185		○	○	○	○	○			散布地	
35	榎栗山根B遺跡	東吾妻0190							○		散布地	
36	沢ノ上A遺跡	東吾妻0191				○	○	○			散布地	
37	沢ノ上B遺跡	東吾妻0192				○	○	○			散布地	
38	沢ノ上C遺跡	東吾妻0193				○	○	○			散布地	
39	猪ノ森遺跡	東吾妻0194		○	○	○	○	○			散布地	
40	小泉宮戸遺跡	東吾妻0092		○	○	○	○	○			散布地、古墳	
41	中郷遺跡	東吾妻0195		○	○	○	○	○			散布地	
42	小泉山根遺跡	東吾妻0199			○	○	○	○			散布地	
43	堀ノ内遺跡	東吾妻0200				○	○	○			散布地	
44	小泉中沢遺跡	東吾妻0093			○	○	○	○			散布地	
45	板戸遺跡	東吾妻0196				○	○	○			散布地	
46	原戸遺跡	東吾妻0201			○	○	○	○			散布地	
47	小泉天神西遺跡	東吾妻0202				○	○	○			散布地	
48	荒巻餅屋遺跡	東吾妻0108		○	○	○	○	○		○	散布地、集落、生産 遺跡	
49	小泉天神遺跡	東吾妻0094			○	○	○	○			集落、古墳	
50	堀屋遺跡	東吾妻0010									散布地	
51	太郎谷戸遺跡	東吾妻0204				○	○	○			散布地	
52	荒巻餅屋東遺跡	東吾妻0149		○	○	○	○	○			散布地	
53	月夜野A遺跡	東吾妻0150							○		散布地	
54	月夜野B遺跡	東吾妻0151		○	○					○	散布地	
55	丸橋遺跡	東吾妻0101		○							散布地	
56	石籠遺跡	東吾妻0103		○							散布地	
57	中井遺跡	東吾妻0205				○	○	○			散布地	
58	御園A遺跡	東吾妻0144		○	○	○	○	○			散布地	
59	御園B遺跡	東吾妻0145		○	○	○	○	○			散布地	
60	判形遺跡	東吾妻0104									散布地	
61	合ノ沢A遺跡	東吾妻0147		○	○	○	○	○			城館	
61	荒巻屋敷								○		城館	中世城館跡763
62	合ノ沢B遺跡	東吾妻0148		○	○	○	○	○			散布地	
63	柳沢遺跡	東吾妻0100		○							散布地	
64	宮越遺跡	東吾妻0153									散布地	
65	尾尻遺跡	東吾妻0152		○		○	○	○			散布地	

第2章 遺跡を巡る環境

第2表 周辺古墳一覧

No.	名称	墳形	規模(m)	市道跡№	新総覧№
K1	総覧：中之条町23号古墳	円	[7.0]	—	中之条町26
K2	総覧：中之条町16号古墳	円	[9.1]	—	中之条町19
K3	総覧：中之条町15号古墳	円	—	—	中之条町18
K4	総覧：中之条町13号古墳	円	[4.8]	—	中之条町16
K5	総覧：中之条町14号古墳	円	[6.2]	—	中之条町17
K6	総覧：中之条町11号古墳	円	—	—	中之条町14
K7	総覧：中之条町10号古墳	円	[3.3]	—	中之条町13
K8	総覧：中之条町8号古墳	円	[4.5]	—	中之条町11
K9	総覧：中之条町9号古墳	円	[7.0]	—	中之条町12
K10	総覧：中之条町6号古墳	円	[7.3]	—	中之条町9
K11	総覧：中之条町7号古墳	円	[5.8]	—	中之条町10
K12	総覧：中之条町5号古墳	円	[7.9]	—	中之条町8
K13	総覧：中之条町4号古墳	円	—	—	中之条町7
K14	総覧：中之条町3号古墳	円	—	—	中之条町6
K15	総覧：中之条町2号古墳	円	—	—	中之条町5
K16	総覧：中之条町1号古墳	円	[7.3]	—	中之条町4
K17	総覧：太田村20号古墳	円	[8.2]	—	東吉妻104
K18	総覧：太田村18号古墳	円	[9.1]	—	東吉妻102
K19	大江山古墳	—	—	0172	—
K20	総覧：太田村19号古墳	円	[13.6]	—	東吉妻103

一方、第5図北寄りには北東から入って中之条町伊勢町を横断する、上州沼田と信州を結ぶ真田道(㊦)が走っている。

岩井山根B遺跡(25)でAs-Kk下で道路遺構、下泉A遺跡(28)でAs-Kkを含む掘立柱建物や竪穴状遺構、下泉B遺跡(29)でAs-Kkで埋没した土坑・ピットを調査している。また中近世の遺構として、小田沢遺跡(26)で掘立柱建物・竪・水田・井戸・土坑・ピット・溝、下泉A遺跡(28)で、掘立柱建物・溝・竪、植栗中原遺跡(32)では竪穴状遺構や土坑・ピット、植栗山根A遺跡(34)で溝、小泉宮戸遺跡(40)で掘立柱建物や土坑など、小泉天神遺跡(49)では掘立柱建物、土坑、井戸、炭窯等を調査している。

7 近世

第5図の範囲の近世の集落は、吾妻川右岸(南部)では西側より岩井村、植栗村、小泉村、泉沢村、荒巻村、吾妻川左岸の同じく中之条町、伊勢町、青山村、市城村があった。これらの集落は戦国時代末期より真田領であったが、天和元(1681)年、真田氏が改易になって以降は幕領あるいは旗本領であった。

また本遺跡の北側を走行する県道35号の前身の道路は、当遺跡から吾妻川添い11.6km東の三国街道李ヶ橋間が渡河できない場合に渡河する当遺跡から吾妻川添い9.6km西の長須橋(ちようずばし、万年橋)をつなぐ三国裏街道(㊦、越後往還の支道)であった。三国裏街道は本遺跡の西側で榛名山の山裾沿いを通る道と、吾妻川に沿

No.	名称	墳形	規模(m)	市道跡№	新総覧№
K21	諏訪塚古墳	—	—	0048	—
K22	総覧：太田村24号古墳	円	[18.2]	—	東吉妻106
K23	植栗古墳群田長塚古墳	—	—	—	東吉妻24
K24	諏訪塚古墳	円	[30.0]	—	東吉妻3
K25	総覧：太田村36号古墳(諏訪山古墳)	—	—	—	東吉妻117
K26	諏訪山塚古墳	—	—	0185	—
K27	総覧：太田村35号古墳	円	[9.1]	—	東吉妻116
K28	総覧：太田村34号古墳	円	[5.5]	—	東吉妻115
K29	宮戸3号古墳	円	[16.0]	—	東吉妻12
K30	総覧：太田村26号古墳	—	—	—	東吉妻107
K31	総覧：太田村28号古墳	—	—	—	東吉妻109
K32	総覧：太田村27号古墳	円	[10.9]	—	東吉妻108
K33	藤付の墳丘	—	6.0	—	東吉妻67
K34	御園古墳	—	—	0146	—
K35	総覧：東村3号古墳	円	[6.1]	—	東吉妻77
K36	総覧：東村2号古墳	円	[9.1]	—	東吉妻76
K37	総覧：東村4号古墳	円	[3.0]	—	東吉妻78
K38	総覧：東村5号古墳	円	[5.2]	—	東吉妻79

うように北側に張り出す道路とに分かれていた。長須橋で吾妻川を渡河した三国裏街道は中世の真田道(㊦)を通過して越後に向かっていった。

発掘調査では、植栗中原遺跡(32)で掘立柱建物を発掘し、鋳型や羽口が出土しているが、中世と峻別できていない調査例は前項(6 中世)に記した。

【参考文献】

- 群馬県 マッピング群馬 https://www2.wagn.jp/pref-gunma/map/?page=1-38_81636912005743&page=36_52699105133737&box=8064hsh-637&id=1601&is1=1 2024年4月24日参照
- 吾妻町教育委員会(2003)『町内遺跡Ⅰ(小泉宮戸遺跡)』
- 吾妻町教育委員会(2004)『町内遺跡Ⅱ(小泉天神遺跡)』
- 吾妻町教育委員会(2007)『町内遺跡Ⅲ 植栗中原遺跡』
- 群馬県教育委員会(1983)『吾妻の遺跡』
- 群馬県教育委員会(1988)『群馬県の中世城郭』
- 群馬県教育委員会(2017)『群馬県古墳総覧』
- 群馬県文化事業振興会(1985)『上野沼田村誌 11 吾妻郡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020)『年報41』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2021)『年報41』
- 東吉妻町防災ハザードマップ 詳細図3 <https://www.town.higashiagatsunuma.gunma.jp/www/contents/1670376506094/index.htm> 2024年4月24日参照
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2023)『植栗中原遺跡・小田沢B遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2023)『植栗山根A遺跡』

第3章 発見された遺構と遺物

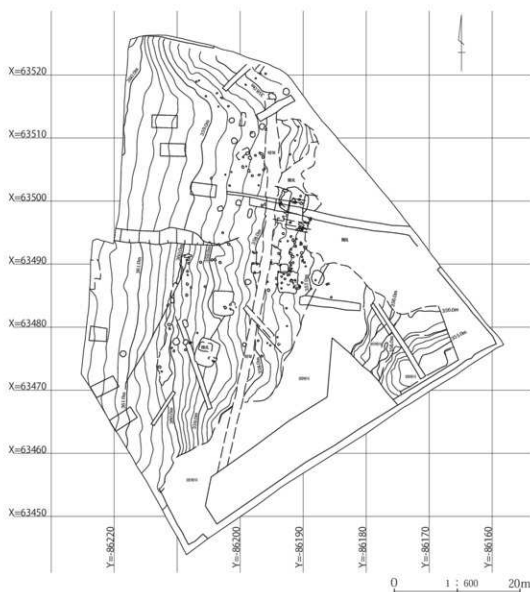
第1節 調査区と遺構の概要

1 1面の調査概要

本遺跡の調査は、概ね1面の調査面で行った。調査区の東側は、南東部の旧河川の在る区域を除いて削平されている。調査区は全体として東に向かい傾斜しているが、北半部は圃場整備により削平されて、南半部に比べて傾斜は緩やかである。その傾斜に緩急はあるもの

の、源地形を保持する南半部は東方向に向かい総じて14.24%ほどを測る勾配率を以て下る傾斜面を成している。

調査では、この傾斜面では縄文時代および古墳時代から中世に至る遺構を確認、調査した。調査遺構には竪穴建物7棟、土坑28基、ピット147基、溝1条があり、南東部に旧河川を確認した。旧河川を除く遺構は、調査区中央をおよそ21m幅で南北に貫く帯状の区域にほぼ位置している。



第6図 調査区1区全体図

第3章 発見された遺構と遺物

なお、発掘調査段階において土坑は規模の大小に拘わらず「土坑」の遺構名称を附して記録しているが、第3表に示したように、整理段階においては長径と短径の和の平均が0.42mを境にして、それ以上を土坑として取り扱った。なお本書に於いては遺構番号は変更せず、小型のもの遺構種をピットとして表記したが、測量原因、写真、出土遺物の注記等の原因への記載は、ピットとしたものも含めて土坑(略号「SD」)の名称を附したまま保管

されている。

これらの遺構は埋土および出土遺物により縄文時代、古墳・奈良・平安時代、中世の3時期に分類したが、埋土と出土遺物から導かれる時期の所見が異なる場合は、古い時代の遺物の流入も考慮して、埋土による判断を優先した。なお埋土による時代区分は、As-kkを包含するものは中世以降として、それ以外で黒～黒褐色土とAs-YPを包含する灰黄褐色土で埋没するものは縄文時代、

第3表 時期及び土坑・ピット別遺構一覧

遺構番号 (土坑・ピット別)	時期	遺構番号 (土坑・ピット別)	時期	遺構番号 (土坑・ピット別)	時期	遺構番号 (土坑・ピット別)	時期
1号 竪穴建物	奈良・平安	40号 土坑(ピット)	縄文	90号 土坑(ピット)	中世以降	139号 土坑(ピット)	奈良・平安
2号 竪穴建物	奈良・平安	41号 土坑(ピット)	奈良・平安	91号 土坑(ピット)	中世以降	140号 土坑(ピット)	奈良・平安
3号 竪穴建物	奈良・平安	42号 土坑(ピット)	中世以降	92号 土坑(ピット)	中世以降	141号 土坑(ピット)	奈良・平安
4号 竪穴建物	古墳(飛鳥)	43号 土坑(ピット)	中世以降	93号 土坑(ピット)	中世以降	142号 土坑(ピット)	奈良・平安
5号 竪穴建物	縄文	44号 土坑(ピット)	中世以降	94号 土坑(ピット)	中世以降	143号 土坑(ピット)	奈良・平安
6号 竪穴建物	奈良・平安	45号 土坑(ピット)	中世以降	95号 土坑(ピット)	中世以降	144号 土坑(ピット)	縄文
7号 竪穴建物	奈良・平安	46号 土坑(ピット)	中世以降	96号 土坑(ピット)	中世以降	145号 土坑(ピット)	奈良・平安
1号 土坑(土坑)	縄文	47号 土坑(ピット)	中世以降	97号 土坑(ピット)	中世以降	146号 土坑(ピット)	奈良・平安
2号 土坑(土坑)	縄文	48号 土坑(ピット)	不明	98号 土坑(ピット)	中世以降	147号 土坑(ピット)	奈良・平安
3号 土坑(ピット)	縄文	49号 土坑(ピット)	中世以降	99号 土坑(ピット)	中世以降	148号 土坑(土坑)	奈良・平安
4号 土坑(ピット)	縄文	50号 土坑(ピット)	中世以降	100号 土坑(ピット)	中世以降	149号 土坑(ピット)	奈良・平安
5号 土坑(ピット)	縄文	51号 土坑(ピット)	中世以降	101号 土坑(ピット)	中世以降	150号 土坑(ピット)	奈良・平安
6号 土坑(ピット)	縄文	52号 土坑(ピット)	中世以降	102号 土坑(ピット)	中世以降	151号 土坑(土坑)	奈良・平安
7号 土坑(土坑)	縄文	53号 土坑(ピット)	中世以降	103号 土坑(ピット)	中世以降	152号 土坑(ピット)	奈良・平安
8号 土坑(土坑)	縄文	54号 土坑(ピット)	中世以降	104号 土坑(ピット)	中世以降	153号 土坑(土坑)	縄文
9号 土坑(土坑)	縄文	55号 土坑(ピット)	中世以降	105号 土坑(ピット)	中世以降	154号 土坑(土坑)	中世以降
10号 土坑(ピット)	縄文	56号 土坑(ピット)	中世以降	106号 土坑(ピット)	中世以降	155号 土坑(ピット)	奈良・平安
11号 土坑(ピット)	縄文	57号 土坑(ピット)	中世以降	107号 土坑(ピット)	中世以降	156号 土坑(ピット)	中世以降
12号 土坑(ピット)	縄文	58号 土坑(ピット)	中世以降	108号 土坑(ピット)	中世以降	157号 土坑(ピット)	中世以降
13号 土坑(ピット)	縄文	59号 土坑(ピット)	中世以降	109号 土坑(ピット)	中世以降	158号 土坑(土坑)	中世以降
14号 土坑(ピット)	縄文	60号 土坑(ピット)	中世以降	110号 土坑(ピット)	中世以降	159号 土坑(土坑)	中世以降
15号 土坑(ピット)	縄文	61号 土坑(ピット)	中世以降	111号 土坑(土坑)	中世以降	160号 土坑(土坑)	中世以降
16号 土坑(ピット)	縄文	62号 土坑(ピット)	中世以降	112号 土坑(ピット)	中世以降	161号 土坑(ピット)	中世以降
17号 土坑(土坑)	縄文	63号 土坑(ピット)	中世以降	115号 土坑(土坑)	中世以降	162号 土坑(ピット)	中世以降
18号 土坑(土坑)	縄文	64号 土坑(ピット)	中世以降	116号 土坑(ピット)	中世以降	163号 土坑(ピット)	中世以降
19号 土坑(ピット)	縄文	65号 土坑(ピット)	中世以降	117号 土坑(ピット)	中世以降	164号 土坑(ピット)	中世以降
20号 土坑(土坑)	縄文	66号 土坑(ピット)	中世以降	118号 土坑(ピット)	縄文	165号 土坑(ピット)	中世以降
21号 土坑(ピット)	縄文	67号 土坑(ピット)	中世以降	119号 土坑(ピット)	縄文	166号 土坑(ピット)	中世以降
22号 土坑(ピット)	縄文	68号 土坑(土坑)	中世以降	120号 土坑(ピット)	奈良・平安	167号 土坑(ピット)	中世以降
23号 土坑(ピット)	縄文	69号 土坑(ピット)	中世以降	121号 土坑(ピット)	奈良・平安	168号 土坑(ピット)	中世以降
24号 土坑(ピット)	縄文	70号 土坑(ピット)	中世以降	122号 土坑(ピット)	奈良・平安	169号 土坑(ピット)	中世以降
25号 土坑(ピット)	縄文	71号 土坑(ピット)	中世以降	123号 土坑(ピット)	奈良・平安	170号 土坑(ピット)	中世以降
26号 土坑(ピット)	縄文	72号 土坑(ピット)	中世以降	124号 土坑(ピット)	縄文	171号 土坑(ピット)	中世以降
27号 土坑(ピット)	縄文	73号 土坑(ピット)	中世以降	125号 土坑(ピット)	縄文	172号 土坑(ピット)	中世以降
28号 土坑(ピット)	縄文	74号 土坑(ピット)	中世以降	126号 土坑(ピット)	奈良・平安	173号 土坑(土坑)	中世以降
29号 土坑(ピット)	縄文	75号 土坑(ピット)	中世以降	127号 土坑(ピット)	奈良・平安	174号 土坑(土坑)	中世以降
30号 土坑(ピット)	縄文	76号 土坑(ピット)	中世以降	128号 土坑(ピット)	縄文	175号 土坑(ピット)	中世以降
31号 土坑(ピット)	縄文	77号 土坑(土坑)	中世以降	129号 土坑(ピット)	縄文	176号 土坑(ピット)	中世以降
32号 土坑(ピット)	縄文	78号 土坑(ピット)	中世以降	130号 土坑(ピット)	奈良・平安	177号 土坑(土坑)	中世以降
33号 土坑(ピット)	縄文	79号 土坑(ピット)	中世以降	131号 土坑(ピット)	奈良・平安	178号 土坑(ピット)	中世以降
34号 土坑(ピット)	縄文	80号 土坑(ピット)	中世以降	132号 土坑(ピット)	奈良・平安	179号 土坑(ピット)	中世以降
35号 土坑(ピット)	縄文	83号 土坑(ピット)	中世以降	133号 土坑(ピット)	縄文	180号 土坑(ピット)	中世以降
36号 土坑(土坑)	縄文	86号 土坑(ピット)	中世以降	135号 土坑(ピット)	縄文	181号 土坑(ピット)	中世以降
37号 土坑(土坑)	縄文	87号 土坑(ピット)	中世以降	136号 土坑(ピット)	奈良・平安	182号 土坑(土坑)	中世以降
38号 土坑(土坑)	中世以降	88号 土坑(ピット)	中世以降	137号 土坑(土坑)	不明	1号 溝	中世以降
39号 土坑(ピット)	中世以降	89号 土坑(ピット)	中世以降	138号 土坑(ピット)	奈良・平安		

第1節 調査区と遺構の概要

暗褐色土・褐色土・灰褐色土等でAs-YPを含まない土壌で埋没するものは古墳～平安時代として分類した。

以上の基準に基づき分類した遺構一覧を第3・4表に示したが、第3表は遺構別の時期および土坑、ビットの別を示したもので、第4表は時期別の遺構を示したものである。この第3・4表に示したように、縄文時代の遺

構は竪穴建物1棟、土坑12基、ビット36基、古墳～平安時代の遺構は竪穴建物6棟、土坑2基、ビット24基、中世以降の遺構は土坑13基、ビット86基、溝1条であった。このほか土層観察に不備があり、時期特定のできなかった土坑1基とビット1基があった。また調査区南東に確認された旧河川には、6世以降のHr-Fa泥流層や12世紀後葉のAs-Ks層の堆積が見られた。

第4表 時期別遺構一覧

時期	遺構番号	時期	遺構番号	時期	遺構番号	時期	遺構番号
縄文	5号 竪穴建物	縄文	133号 ビット(土坑)	中世以降	177号 土坑	中世以降	92号 ビット(土坑)
	1号 土坑		135号 ビット(土坑)		182号 土坑		93号 ビット(土坑)
	2号 土坑		144号 ビット(土坑)		39号 ビット(土坑)		94号 ビット(土坑)
	7号 土坑		1号 竪穴建物		42号 ビット(土坑)		95号 ビット(土坑)
	8号 土坑		2号 竪穴建物		43号 ビット(土坑)		96号 ビット(土坑)
	9号 土坑		3号 竪穴建物		44号 ビット(土坑)		97号 ビット(土坑)
	17号 土坑		4号 竪穴建物		45号 ビット(土坑)		98号 ビット(土坑)
	18号 土坑		6号 竪穴建物		46号 ビット(土坑)		99号 ビット(土坑)
	20号 土坑		7号 竪穴建物		47号 ビット(土坑)		100号 ビット(土坑)
	30号 土坑		148号 土坑		49号 ビット(土坑)		101号 ビット(土坑)
	36号 土坑		151号 土坑		50号 ビット(土坑)		102号 ビット(土坑)
	37号 土坑		41号 ビット(土坑)		51号 ビット(土坑)		103号 ビット(土坑)
	153号 土坑		120号 ビット(土坑)		52号 ビット(土坑)		104号 ビット(土坑)
	3号 ビット(土坑)		121号 ビット(土坑)		53号 ビット(土坑)		105号 ビット(土坑)
	4号 ビット(土坑)		122号 ビット(土坑)		54号 ビット(土坑)		106号 ビット(土坑)
	5号 ビット(土坑)		123号 ビット(土坑)		55号 ビット(土坑)		107号 ビット(土坑)
	6号 ビット(土坑)		126号 ビット(土坑)		56号 ビット(土坑)		108号 ビット(土坑)
	10号 ビット(土坑)		127号 ビット(土坑)		57号 ビット(土坑)		109号 ビット(土坑)
	11号 ビット(土坑)		130号 ビット(土坑)		58号 ビット(土坑)		110号 ビット(土坑)
	12号 ビット(土坑)		131号 ビット(土坑)		59号 ビット(土坑)		112号 ビット(土坑)
	13号 ビット(土坑)		132号 ビット(土坑)		60号 ビット(土坑)		116号 ビット(土坑)
	14号 ビット(土坑)		136号 ビット(土坑)		61号 ビット(土坑)		117号 ビット(土坑)
	15号 ビット(土坑)		138号 ビット(土坑)		62号 ビット(土坑)		156号 ビット(土坑)
	16号 ビット(土坑)		139号 ビット(土坑)		63号 ビット(土坑)		157号 ビット(土坑)
	19号 ビット(土坑)		140号 ビット(土坑)		64号 ビット(土坑)		161号 ビット(土坑)
	21号 ビット(土坑)		141号 ビット(土坑)		65号 ビット(土坑)		162号 ビット(土坑)
	22号 ビット(土坑)		142号 ビット(土坑)		66号 ビット(土坑)		163号 ビット(土坑)
	23号 ビット(土坑)		143号 ビット(土坑)		67号 ビット(土坑)		164号 ビット(土坑)
	24号 ビット(土坑)		145号 ビット(土坑)		69号 ビット(土坑)		165号 ビット(土坑)
25号 ビット(土坑)	146号 ビット(土坑)	70号 ビット(土坑)	166号 ビット(土坑)				
26号 ビット(土坑)	147号 ビット(土坑)	71号 ビット(土坑)	167号 ビット(土坑)				
27号 ビット(土坑)	149号 ビット(土坑)	72号 ビット(土坑)	168号 ビット(土坑)				
28号 ビット(土坑)	150号 ビット(土坑)	73号 ビット(土坑)	169号 ビット(土坑)				
29号 ビット(土坑)	152号 ビット(土坑)	74号 ビット(土坑)	170号 ビット(土坑)				
31号 ビット(土坑)	155号 ビット(土坑)	75号 ビット(土坑)	171号 ビット(土坑)				
32号 ビット(土坑)	38号 土坑	76号 ビット(土坑)	172号 ビット(土坑)				
33号 ビット(土坑)	68号 土坑	78号 ビット(土坑)	175号 ビット(土坑)				
34号 ビット(土坑)	77号 土坑	79号 ビット(土坑)	176号 ビット(土坑)				
35号 ビット(土坑)	111号 土坑	80号 ビット(土坑)	178号 ビット(土坑)				
40号 ビット(土坑)	115号 土坑	85号 ビット(土坑)	179号 ビット(土坑)				
118号 ビット(土坑)	154号 土坑	86号 ビット(土坑)	180号 ビット(土坑)				
119号 ビット(土坑)	158号 土坑	87号 ビット(土坑)	181号 ビット(土坑)				
124号 ビット(土坑)	159号 土坑	88号 ビット(土坑)	1号 溝				
125号 ビット(土坑)	160号 土坑	89号 ビット(土坑)	137号 土坑				
128号 ビット(土坑)	173号 土坑	90号 ビット(土坑)	48号 ビット(土坑)				
129号 ビット(土坑)	174号 土坑	91号 ビット(土坑)					
			不明				

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1 概要

縄文時代の遺構には加曽利E3式期の竪穴建物1棟のほか、土坑12基、ピット36基を調査した。これらの遺構や遺構外から、加曽利E3式期を中心に信州の郷土式期を含む縄文時代中期の縄文土器や石鏝、打製石斧、磨石、台石といった石器、石製品が出土している。

2 竪穴建物

5号竪穴建物(第7～12図、PL. 3・4・23・24)

概要 本建物は好付の竪穴建物である。東側は削平され、南側はトレンチの掘削により失われていた。

位置 本建物は調査区北半部のやや南東寄りに在り、

X=63497～63502-Y=-86189～-86193グリッドに位置する。

重複 本建物は137号土坑、133号ピットと重複するが、137号土坑に対しては本建物の方が古く、133号ピットに対しては本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕長径：[4.63]m 短径：[4.18]m

深さ：0.31m 床面積：[14.89] m²

〔竪〕長径：0.74m 短径：0.63m

〔柱穴1〕長径：0.28m 短径：0.22m

高さ：0.22m

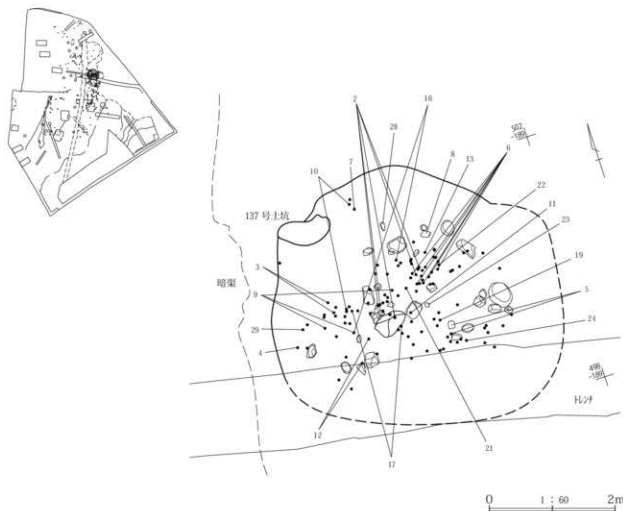
〔柱穴2〕長径：0.20m 短径：0.20m

高さ：0.31m

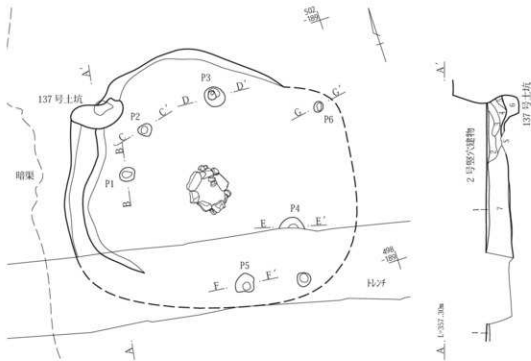
〔柱穴3〕長径：0.33m 短径：0.30m

高さ：0.48m

〔柱穴4〕長径：(0.41)m 短径：(0.38)m



第7図 5号竪穴建物(1)



- | | | |
|------------|--------|---------------------|
| 5号竪穴建物A-A' | 4 暗褐色土 | ローム粒を含む |
| 1 暗褐色土 | 5 黒褐色土 | ロームブロックを多量含む |
| 2 暗褐色土 | 6 暗褐色土 | ローム粒と黒色土の混じり、137号土坑 |
| 3 黒色土 | 7 暗褐色土 | ローム粒を少量含む |



- | | | | |
|----------------------|-----------|----------------------|-----------|
| 5号竪穴建物 P 1
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む | 5号竪穴建物 P 4
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む |
| 5号竪穴建物 P 2
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む | 5号竪穴建物 P 5
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む |
| 5号竪穴建物 P 3
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む | 5号竪穴建物 P 6
1 黒褐色土 | ローム粒を少量含む |

0 1 : 60 2m

第8図 5号竪穴建物(2)

第3章 発見された遺構と遺物

高さ：0.32m

〔柱穴5〕 長径：0.30m 短径：0.28m

高さ：0.20m

〔柱穴6〕 長径：0.17m 短径：0.15m

高さ：0.04m

〔柱間〕 P1-P2：0.77m P2-P3：1.20m

P3-P6：1.71m P6-P4：(2.00)m

P4-P5：(1.17)m P5-P1：25.8m

埋土 暗褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積は見られなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は北辺が張り出す隅丸長方形様のプランを呈する。長軸方向はN64°Wを向く。

西壁際に幅0.20～0.44m、床面から東端で0.10m、西壁際で0.21mの高さを測る、東側に傾斜したテラス状の掘り残しを有する。

〔掘り方・床〕掘り方は確認されず、本建物は地床であったと判断される。

〔竪〕は竪穴の中央より僅かに南に寄る位置に設けられる石圍いと埋壘併用の竪である。竪はN24°W方向に、北西-南東方向に0.40m、北東-南西方向に0.24mを測る長方形プランの空間を、長さ0.20～0.28mほどの大

きさの礫6個と長さ0.13m以下の小型の礫3個で囲み、その中央に縄文土器深鉢(1)を用いた埋壘を据える。埋壘は黒色土を締めて固定し、その上に焼土と炭化物を含む黒褐色土で埋め戻している。

〔柱穴〕柱穴は壁面から0.20～1.00mの位置に6基が掘削されるが、P(ピット)1～5は楕円形様のライン上に配置され、特にP1～3は壁面から0.60mの位置に掘削されている。P6は東に外れている。

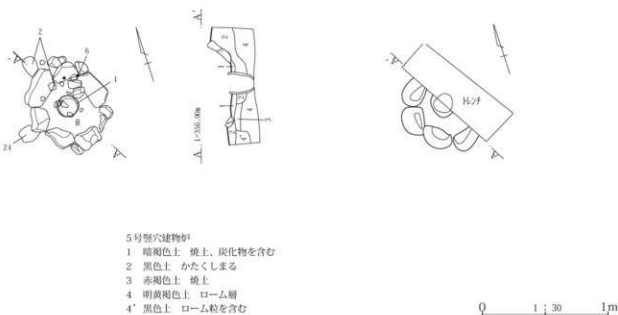
柱間は0.77～25.8mと開きがあり、その平均は1.57mだが、標準偏差は0.7と規則性は見い出せない。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も見られなかった。

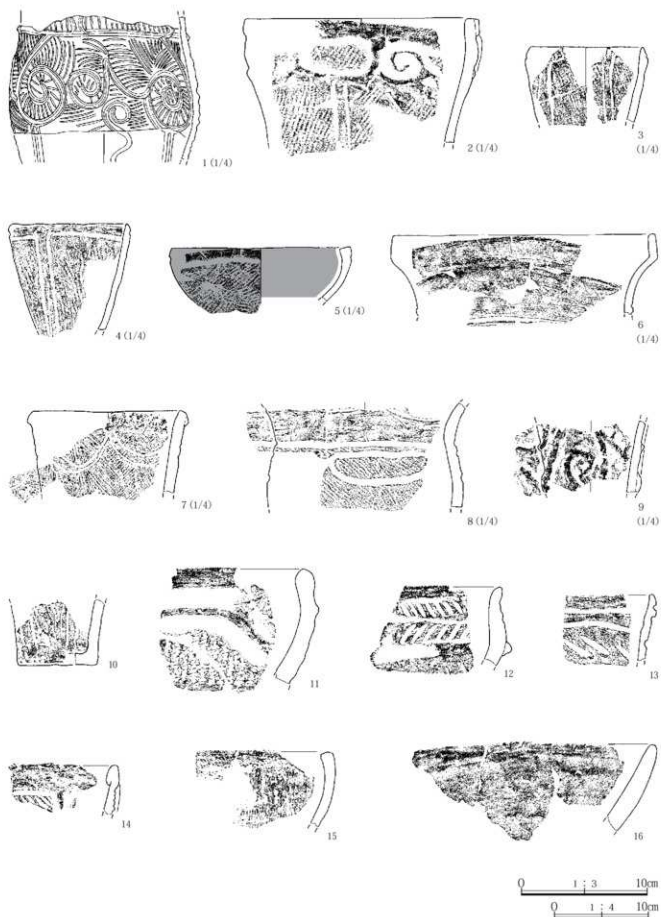
〔上屋〕棟方向は竪穴のプランから推して、西北西-東南東方向に向くものと想定されるが、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは縄文土器(1～24)、石鏃(25)、打製石斧(26～29)、磨石(30)、台石(31)などの出土が見られた。なお縄文土器は2点を除き縄文時代中期加曾利E式期のものと判断され、2点(1・14)が長野県の同時期の遺物である郷土式のものとして識別された。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して縄文時代中期加曾利E3式期の所産と判断される。

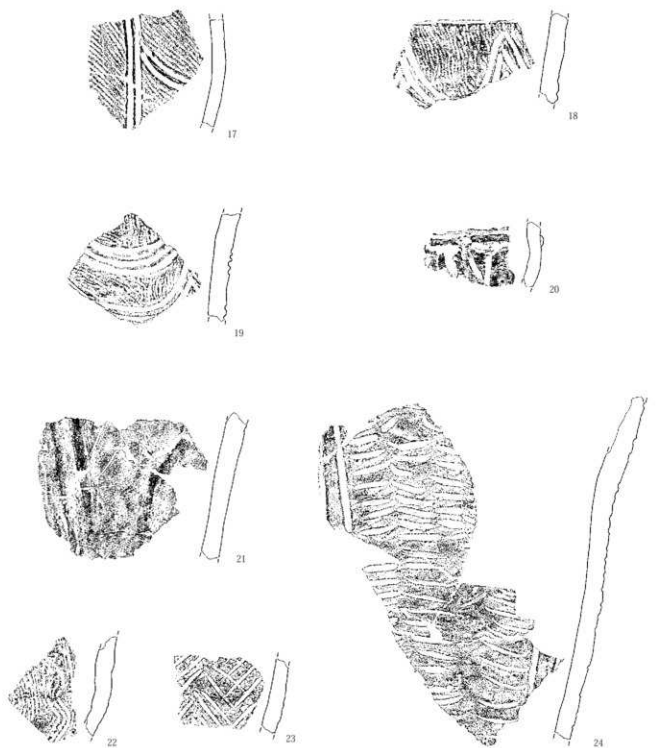


第9図 5号竪穴建物跡



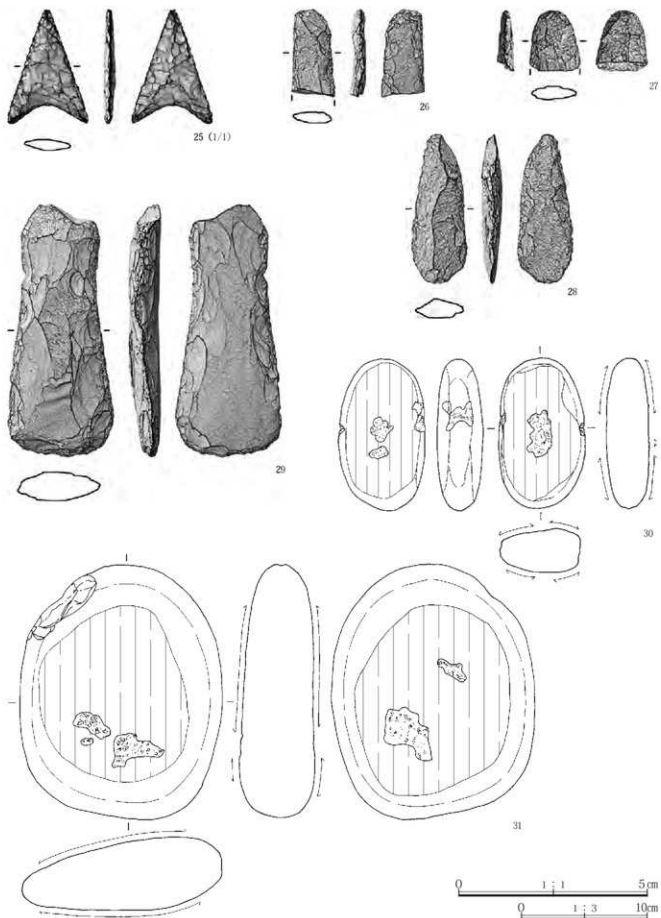
第10図 5号竪穴建物出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物



0 1 : 3 10cm

第11図 5号竪穴建物出土遺物(2)



第12図 5号竪穴建物出土遺物(3)

3 埋設土器

1号埋設土器(第13図、PL.24)

概要 本遺構は、縄文土器深鉢を埋設した遺構である。

位置 本遺構は調査区北半部の南部やや東寄りに在り、X=63495～63496-Y=86190グリッドに位置する。

重複 本遺構129号ピットと重複するが、本遺構が完全に埋没した後に129号ピットは掘削されている。

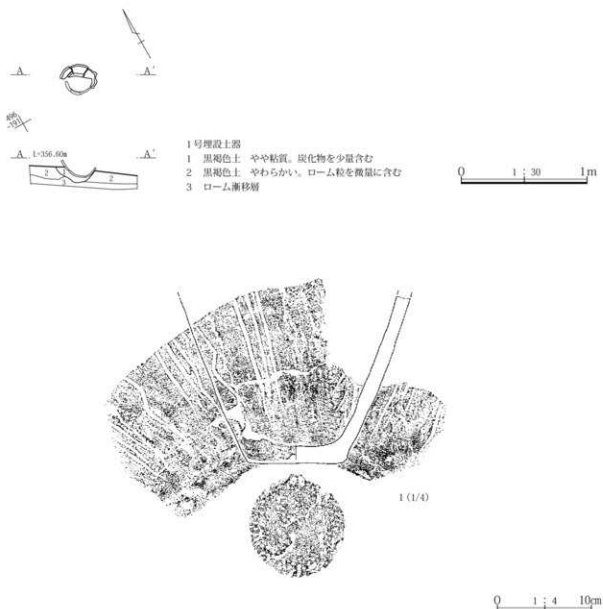
規模 [掘り込み]長径：0.32m 短径：0.30m
深さ：0.12m

埋土

構造 本遺構は黒褐色土の下位から、ローム漸移層土論にかけて、N67°Wに主軸を取る、楕円形プランで丸底を呈する土坑状の掘削をなした後、縄文土器深鉢を正位に据え、その周囲を炭化物少量含むやや粘質の黒褐色土で掘り込みを埋め戻して土器を固定する。

遺物 本土坑からは縄文土器深鉢1点(1)が出土している。

所見 本土坑は出土遺物から推して、縄文時代中期加曾利E 3式期の所産と認められる



第13図 1号埋設土器と出土遺物

4 土坑

1号土坑(第14図、PL. 4)

概要 本土坑は、中規模の土坑である。

位置 本土坑は調査区北東部に在り、63516～63517～86192～86193グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.09m 短径：1.03m 深さ：0.20m

埋土 黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN21°Wを向く。

本土坑のプランは北半は円形に近い隅丸方形様を呈し、壁面はやや開いて、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑からは剥片1点が出土したに過ぎなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

2号土坑(第14図、PL. 4)

概要 本土坑は中規模の土坑であるが、南西部は暗渠に壊されて全容は把握できなかった。

位置 本土坑は調査区北東部に在り、63516～63517～86194～86195グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.35m 短径：1.00m 深さ：0.81m

埋土 ローム少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN43°Wを向く。

本土坑のプランはやや不整形気味の楕円形を呈し、掘削形態は缶形で、底面は平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

7号土坑(第14図、PL. 4)

概要 本土坑は、中規模の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部中北に在り、63511～63512～86196グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.96m 短径：0.83m 深さ：0.09m

埋土 少量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN2°Wを向く。

本土坑のプランは楕円形に近い洋梨形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

8号土坑(第14図、PL. 4)

概要 本土坑は、中規模の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部中北に在り、63510～63511～86197～86198グリッドに位置する。

重複 本土坑は40号ピットと重複するが、本土坑の方が新しい。また後述のピット様の掘り込みが、本土坑本体と重複関係にある可能性を有する。

規模 長径：0.91m 短径：0.78m 深さ：0.35m

埋土 少量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN3°Wを向く。

本土坑のプランは楕円形を呈し、底面形態は平底を呈する。西壁南寄りに南北0.24m以上、東西0.19mを測る菱形に近い楕円形プランの小孔が掘削される。その底面高は確認面より0.21m、土坑底面から0.12mの深さを測る。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

9号土坑(第14図、PL. 4)

概要 本土坑は、中規模の土坑である。

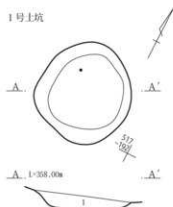
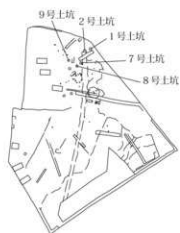
位置 本土坑は調査区北半部の北寄りに在り、63512～63513～86200～86201グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

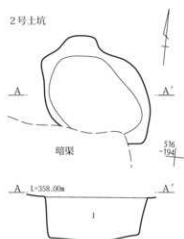
規模 長径：0.83m 短径：0.77m 深さ：0.52m

埋土 多量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

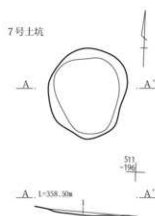
第3章 発見された遺構と遺物



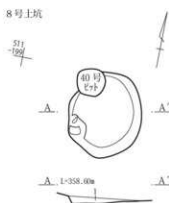
1号土坑
1 黒~黒褐色土 少量のローム粒含む



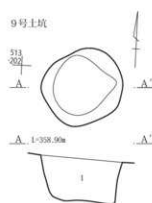
2号土坑
1 黒褐色土 少量のローム粒と少量のハードローム小ブロック含む



7号土坑
1 黒~黒褐色土 少量のローム粒とハードローム小ブロック含む



8号土坑
1 黒~黒褐色土 少量のローム粒とハードローム小ブロック含む



9号土坑
1 黒~黒褐色土 多量のローム粒と少量のハードローム小ブロック含む



第14図 土坑(1)

構造 本土坑の主軸はN55°Eを向く。

概要 本土坑の確認面のプランは隅丸方形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

17号土坑(第15図、PL. 4)

概要 本土坑は、中規模の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半中央部に在り、63509～63510～86200～86201グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.97m 短径：0.92m 深さ：0.20m

埋土 少量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN90°を向く。

本土坑のプランは北側が台形状を呈する隅丸方形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

18号土坑(第15図、PL. 5)

概要 本土坑は、小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半中央部に在り、63507～86198～86199グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.55m 短径：(0.44)m 深さ：0.24m

埋土 少量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN62°Eを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

20号土坑(第15図、PL. 5・24)

概要 本土坑は、小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部の中央付近に在り、63506～63507～86198グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.56m 短径：0.46m 深さ：0.29m

埋土 多量のAs-YPと少量のハードローム含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN46°Wを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面形態は平底であるが、北端に径0.30×0.28m、深さ0.10mを測るピット状の掘り込みを伴う。

遺物 本土坑からの縄文土器深鉢片(1)を含む縄文土器片3片が出土している。

所見 本土坑は出土遺物から推して縄文時代中期加曾利E2式新段階の所産と判断される。また掘削意図は特定できなかったが、北端のピット状の掘り込みと、後述する楕円形に配置する19号ピット等から、本土坑は建物の柱穴であった可能性が考慮される。

30号土坑(第16図、PL. 5)

概要 本土坑は、小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部の中ほどやや南寄りに在り、63504～63505～86198グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.53m 短径：0.33m 深さ：0.16m

埋土 多量のAs-YPと少量のハードローム含む灰黄褐色土で埋没する。

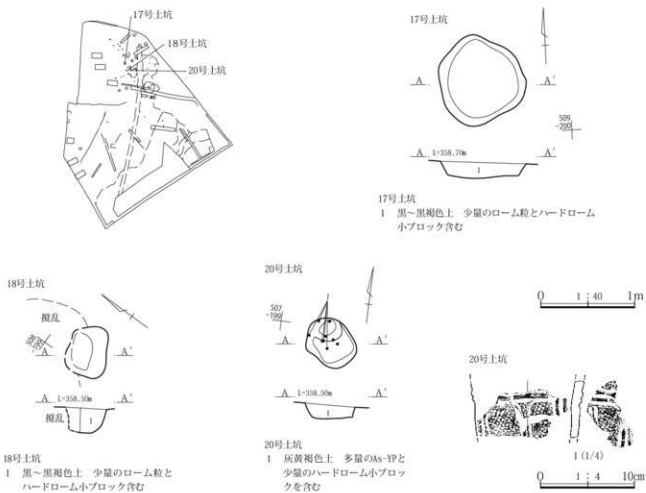
構造 本土坑の主軸はN31°Wを向く。

本土坑のプランは横長の隅丸台形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、埋土の近似から20号土坑と同様の時期の可能性が考慮される。また掘削意図は特定できなかった。

第3章 発見された遺構と遺物



第15図 土坑(2)と20号土坑出土遺物

36号土坑(第16図、PL. 5)

概要 本土坑は、中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部中央南寄りに在り、63499～63500—86199～86200グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.97m 短径：0.88m 深さ：0.65m

埋土 少量のハードロームを含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN22°Wを向く。

本土坑のプランはやや不整形な家形を呈し、中位で楕円形、底部で隅丸方形を呈しする。底面形態は尖底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

37号土坑(第16図、PL. 5)

概要 本土坑は、中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半中央部に在り、63498～63499—86202～86203グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.91m 短径：0.75m 深さ：0.22m

埋土 少量のローム含む黒～黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN64°Eを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面は平底を呈する。しっかりした箱形の掘削形態を成す。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

153号土坑(第16図、PL. 5)

概要 本土坑は、中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半中西部に在り、63475～63476--86218～86219グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.94m 短径：0.93m 深さ：0.69m

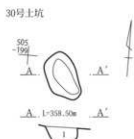
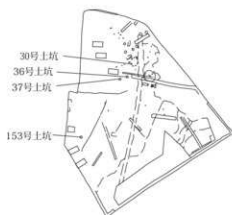
埋土 黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN32°Eを向く。

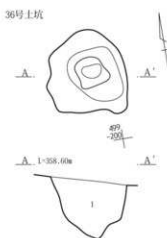
本土坑のプランは円形に近い隅丸方形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

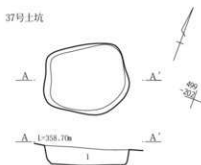
所見 本土坑は埋土から推して縄文時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。



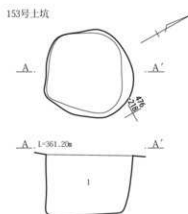
30号土坑
1 灰黄色土 多量のAs-管と少量のハードローム小ブロックを含む



36号土坑
1 黒褐色土 少量のハードローム小ブロックを含む



37号土坑
1 黒～黒褐色土 少量のローム粒と微量のハードローム小ブロックを含む



153号土坑
1 黒褐色土 ロームを微量に含む



第16図 土坑(3)

5 ビット

ビット群(第17～19図、PL. 5～7・24)

概要 本遺跡の縄文時代に分類されたビット群は、3～6・10～16・19・21～29・31～35・40・118・119・124・125・128・129・133・135・144号ビットの36基のビットから成る。

位置 ビット群のビットの多くは、調査区北半部中央の南北の帯状の範囲に分布しているが、118・119・124・125号ビットは南半部北東、144号ビットは南半部北西に分布する。

なお、これらの各ビットのグリッド位置は第6表に記した。

重複 ビット群のうち133号ビットが5号建物と重複するが、133号ビットの方が古い。また22・23号ビット、128・129号ビットがそれぞれ重複するが、23号ビット129号ビットの方がそれぞれ新しい。

埋土 ビット群の各ビットの埋土は23・24・26・27・29・31号ビットがAs-YPを含む灰黄褐色土で埋没する以外は黒～黒褐色土で埋没する。

規模 ビット群のビットの径は0.14～0.46mを測り、その平均は0.258mであった。

なお、各ビットの規模は第6表に記した。

構造 ビット群の各ビットのプランは、25・129号ビットが円形、16・22～24・28・124・125・128・135号ビットが楕円形、3・4号ビットが方形、5・15・19・29・35・40・119・133号ビットが隅丸方形、10～12・26・118・144号ビットが隅丸長方形、13・31号ビットが隅丸台形、6・21・27・32号ビットが隅丸盾形、14・33号ビットが隅丸三角形を呈し、底面形態は11・22・29・125・129号ビットが丸底、13号ビットが尖底、10・31号ビットが逆凸形、34号ビットが凸レンズ形を呈する以外は平底を呈する。また、掘削形状は10～14・23～25・34・35・128・135号ビットが深い釜形、119・129号ビットが長球形を呈する以外は筒形を呈する。

遺物 23号ビットから縄文土器深鉢片1点(23号ビット-1)が出土した以外、他のビットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 ビット群の各ビットは埋土から推して、縄文時代の所産と認識される。しかし23号ビットが出土した縄文土器の時期から推して、縄文時代中期加曽利E3式期の所産と認識される以外は、細かい時期特定には至らなかった。

これらのビットの掘削意図は特定できなかったが、別に後述するように、楕円形あるいは弧状の配列を見せる、北半部の中ほどに分布する19・21～27・29・31・32号ビットは建物の柱穴の可能性が考慮される。

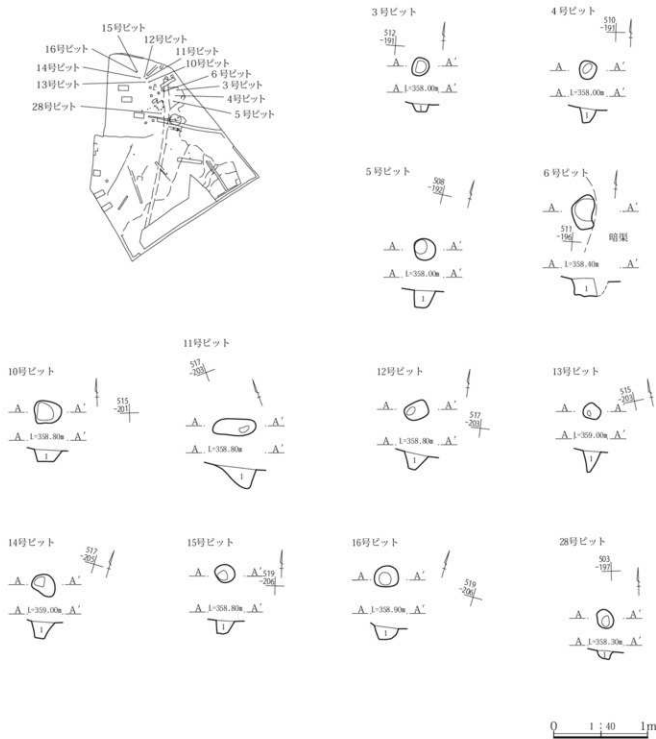
また逆凸形の底面形状を見せる10・31号ビットの凸部が柱の痕跡とするならば、10号ビットが0.04m、31号ビットが0.05mと細いもので、柱痕とは考えられず、樹木の根の痕跡の可能性が考えられる。

楕円形状配列の土坑・ビット群(第19図、PL. 6)

概要 北半部の中ほどに分布する土坑・ビットのうち20号土坑、19・24・25・26・27・29号ビット、30号土坑、31号ビットは北北西～南南東方向に3.0m、東北東～西南西方向に3.2mほどを測る楕円形様のライン上に掘削されており、その北西側に32・21号ビット、18号土坑、22・23号ビットが弧状のライン上に掘削されている。なお18・20・30号土坑は本稿では土坑として分類したが、いずれも小型の土坑であり、ビットの規模と大きな相違はない。

所見 上述の20号土坑等の楕円形様のライン上に掘削された9基の土坑・ビット群は、勿論断定はできないが、その配列から竪穴建物の柱穴である可能性が考慮される。また32号ビット等の弧状のライン上に掘削されている5基の土坑・ビット群もその配列から柱列の可能性が考慮されるが、この場合は、弧状ライン上に掘削される32号ビット等の柱列は20号土坑等の竪穴建物を拡張した段階の建物の可能性が考慮される。

なお、22・23号ビットと25・26号ビットは接して掘削されており、23・26号ビットに対して22・25号ビットは径が小さく、柱に対する補助柱の可能性が考慮される。22・25号ビットは0.20m以下という、その径の大きさから杭の打設痕の可能性が高いように考慮される。



3～5・28号ビット

1 黒～黒褐色上 少量のローム粒含む

6・11号ビット

1 黒～黒褐色上 少量のローム粒とハードローム小ブロック含む

10・12～15号ビット

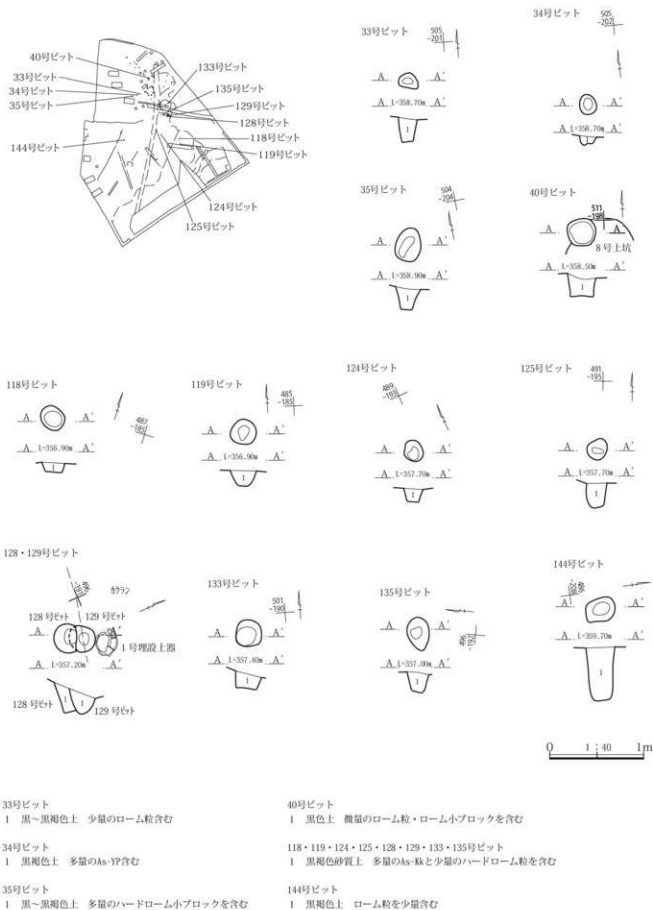
1 黒～黒褐色上 灰黄褐色ローム漸移層土を頂状に含み、少量のローム粒含む

16号ビット

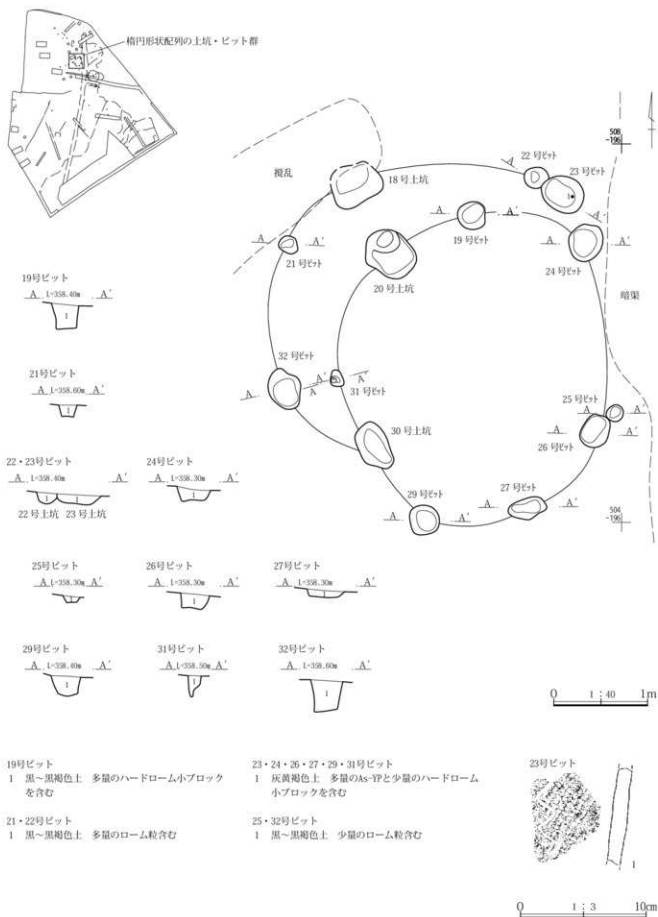
1 黒～黒褐色上 多量の灰黄褐色ローム漸移層土を頂状に含む

第17図 ビット(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第18図 ビット(2)

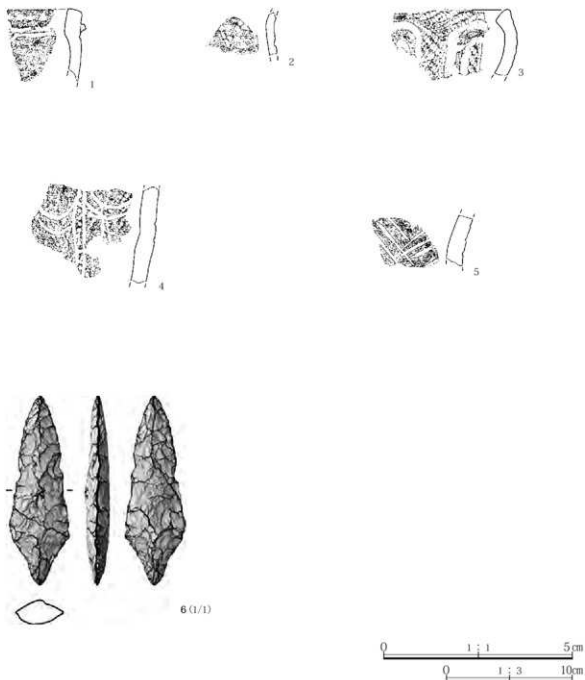


第19図 ピット(3)と23号ピット出土遺物

6 遺構外の出土遺物(第20図、PL.24)

本項では後世の遺構に含まれたものも含め、縄文時代の遺構以外から出土した遺物を扱う。

縄文時代の遺構外の遺物には、中期の阿玉台1b式の縄文土器深鉢片(1・2)、同じく中期の加曽利E3式の縄文土器深鉢片(3~5)や、石鏃(6)の出土も見られた。

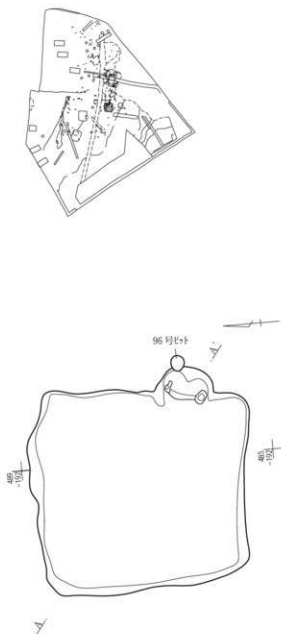


第20図 遺構外出土遺物

第3節 古墳～平安時代の遺構と遺物

1 概要

古墳時代後期後葉(飛鳥時代)から平安時代の遺構には8世紀を中心に7世紀後半と10世紀の各1棟を含む竪穴建物6棟、土坑2基、ピット24基を調査した。これらの遺構を中心に、土師器、須恵器、灰輪陶器のほか、砥石や鉄製品の出土が見られた。



2 竪穴建物

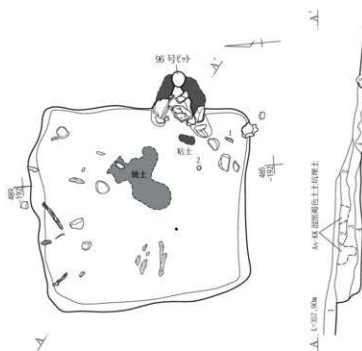
1号竪穴建物(第21・22図、PL. 8・24)

概要 本建物は竪付の竪穴建物であり、いわゆる焼失家屋である。

位置 本建物は調査区南半部北東寄りに在り、X=63485～63488-Y=-86190～-86194グリッドに位置する。

重複 本建物は67・69～73・96・98～100・124号ピットと重複するが、69～73・98・99号ピットより古く、124号ピットよりは新しい。

規模 (竪穴)長径:3.55m 短径:3.27m



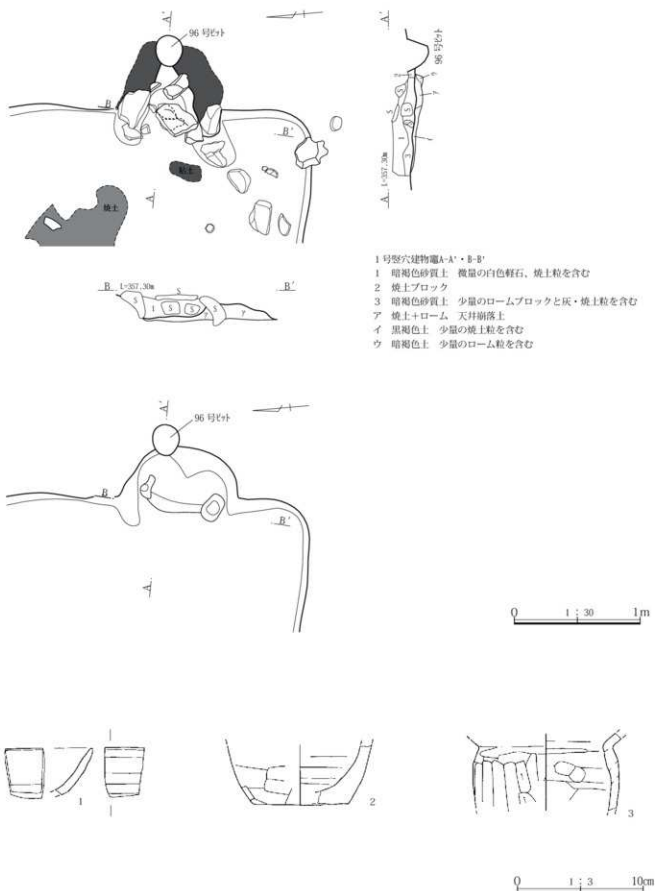
1号竪穴建物A-A'

- 1 As-Kk 下層に薄く黒色土の層を挟みAs-B堆積
- 2 灰褐色土 微量の白色粒石、ローム粒を含む
- 3 灰褐色土 少量の白色粒石、ハードローム粒、炭化物粒を含む
- 4 灰褐色土 少量の白色粒石と多量のハードローム粒、少量のハードローム小ブロック、焼土粒、炭化物を含む

0 1:60 2m

第21図 1号竪穴建物

第3章 発見された遺構と遺物



第22図 1号竪穴建物竪断と出土遺物

深さ：0.40m 床面積：9.09㎡

〔竈〕 奥行：0.99m 幅：0.97m

左袖 長さ：0.26m 幅：0.23m 高さ：0.23m

右袖 長さ：0.44m 幅：0.28m 高さ：0.19m

燃焼部 奥行：0.63m 幅：0.40m 深さ：0.03m

煙道 長さ：0.37m 幅：0.30m 深さ：0.07m

掘り方 奥行：0.93 幅：0.95m 深さ：0.09m

埋土 灰褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積は見られなかった。埋土中に放射状に遺存する炭化材が若干見られる。

構造 〔竈穴〕竈穴は長方形に近い東側が長い隅丸台形のプランを呈する。長軸方向はN4°Eを向く。

〔掘り方・床〕掘り方は確認されなかった。従って本建物の床は地床であったと判断される。

〔竈〕竈は東壁の南寄りに設けられる。その主軸方位はN86°Wを向く。壁面を跨いで奥行き1.85m、幅1.5m、深さ0.07mを測る、楕円形様のプランを呈する浅い掘り込みの掘り方を有する。これを少量のローム粒を含む暗褐色土や少量の焼土粒を含む黒褐色土、焼土およびロームで埋め戻して燃焼面を作る。

燃焼部の左右の手前側に厚板状の河床礫を立て、右袖では外側に焼土とロームを積んで袖を造る。天井部の構造は詳らかでないが、燃焼面に天井石と見られる板状の河床礫が遺る。

燃焼部奥側に燃焼面から続くように、八字形に開く煙道が確認された。

〔柱穴〕柱穴は見られなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も見られなかった。

〔上屋〕棟方向は竈穴のプランから推して、南北方向に向くものと想定される。

遺存する出土炭化材の状態から、上屋のうち少なくとも梁・桁から下の部分では放射状に垂木が掛けられていたことが確認された。本建物の西部中ほどに出土した炭化材はクリ材と同定された。なお柱の有無は確認できなかった。また土層断面から土着きの有無も特定できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)・甕(2)・小型甕(3)などの出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推してはおおよそ8世紀の所産と判断される。

2号竈穴建物(第23・24図、Pl. 9・24)

概要 本建物は竈付の竈穴建物であるが、西側が暗渠に壊されていて確認できなかった。また中位と南東隅部に東西トレンチが掘削され、失われていた。

位置 本建物は調査区北半部の南部やや東寄りに在り、X=63496～63502-Y=86191～86194グリッドに位置する。

重複 本建物は3号竈穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 〔竈穴〕長径：5.18m 短径：(2.47)m

深さ：0.47m 床面積：(9.25)㎡

〔竈〕 奥行：0.70m 幅：[0.98]m

左袖 長さ：[0.44]m 幅：[0.28]m 高さ：0.22m

右袖 長さ：0.44m 幅：0.33m 高さ：0.17m

燃焼部 奥行：0.62m 幅：0.43m 深さ：0.03m

掘り方 奥行：0.78m 幅：0.64m 深さ：0.04m

埋土 下位は多量、上位は微量のHr-FA粒を含む灰褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積は見られなかった。

構造 〔竈穴〕上述のように本建物は、西側が暗渠により壊され、また南よりにトレンチが掘削されているため、全容は詳らかでない。なお、暗渠の西側には確認できないため、本建物の竈穴は南北に長い隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。長軸方向はN8°Eを向く。〔掘り方・床〕掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造る。

〔竈〕竈は東壁の南寄りに設けられる。その主軸方位はN66°Wを向く。壁面を跨いで奥行き0.80m、幅0.64m、深さ0.08mを測る、隅丸長方形様のプランを呈する浅い掘り込みの掘り方を有する。これをロームを含む灰褐色土・黒褐色土と燃焼面に接して多量の焼土と灰を含む褐色土で埋め戻して燃焼面を作る。

燃焼部の左右両側に前後2枚づつの板状の河床礫を立てて、手前側に厚板状の河床礫を立て、その外側にロームを含む灰褐色土・黒褐色土を盛って袖を造る。右袖では外側に焼土とロームを積んで袖を造る。天井部の構造は不明である。

煙道部は確認できなかったが、燃焼部奥壁は燃焼面から0.20mの高さに立ち上がっており、煙道はその上位に設けられていたものと考慮される。

〔柱穴〕柱穴は見られなかった。

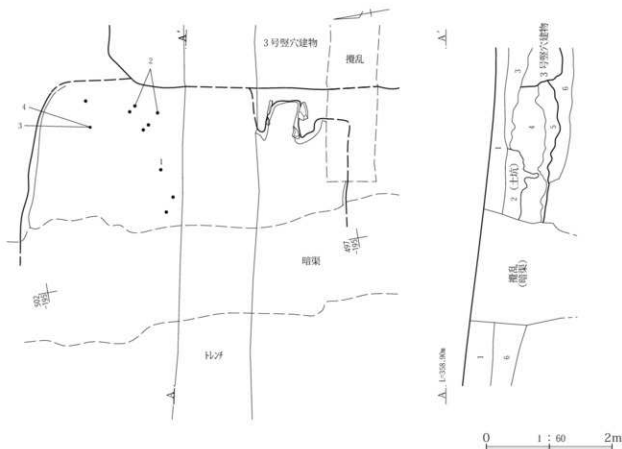


〔貯蔵穴〕貯蔵穴も見られなかった。

〔棟方向〕棟方向は竪穴のプランから推して、南北方向に向くものと想定されるが、上屋の構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは縄文土器片や黒曜石片も出土しているが、本建物に伴うものとしては土師器の杯(1)と甕(2・3)、不明鉄製品(4)などの出土が見られた。また広葉樹と同一された炭化材の出土がみられた。

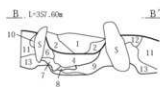
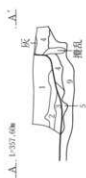
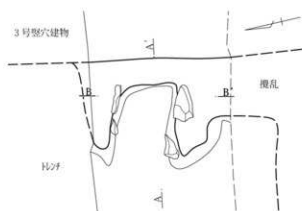
所見 本建物の時期は、出土遺物から推しては8世紀の所産と判断される。



2号型穴建物A-A'

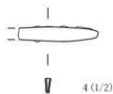
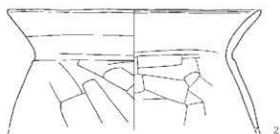
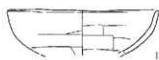
- 1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kk (船川)軽石を含み、下端に薄く黄色土を帯状に含む
- 2 黒褐色砂質土 多量のAs-Kk (船川)軽石を含む、38号土坑・42号ピットの埋土と類似し、土坑埋土と考えられる
- 3 軽石層 厚いAs-Kk (船川)軽石層とその下方に薄い黒色土間層を挟みAs-Bが得く堆積する。下方の遺構埋土の圧縮低下による窪地に堆積
- 4 灰黄褐色土 ごく微量の浅黄色土粒(Br-Fa)を含む。炭土粒や炭化物の混入は見られない
- 5 灰黄褐色土 多量の浅黄色土粒(Br-Fa)を含む
- 6 黒褐～黒色土 ごく微量のローム粒を含む。谷傾斜部のローム土堆積土

第23図 2号型穴建物



2号壱穴建物端A-A'・B-B'

- 1 黒褐色砂質土 多量の白色軽石粒を含む
- 2 黒褐色土 多量の焼土粒と少量の焼上ブロックを含む
- 3 黒色土 少量の焼土粒・炭化物を含む。使用面
- 4 潮灰色土 少量の炭と焼土粒を含む。=最終使用面
- 5 灰褐色土 少量の炭と焼土粒を含む
- 6 灰褐色土 微量の焼土粒を含む
- 7 灰褐色土 少量の炭・焼土粒を含む
- 8 少量のローム+焼土粒=天井崩落土
- 9 黒褐色土 微量のローム粒を含む。上面一次使用面 掘り方理土
- 10 灰褐色土 少量の焼土粒を含む。掘り方理土
- 11 灰褐色土 多量のローム粒を含む。掘り方理土
- 12 灰褐色土 少量のローム粒を含む。掘り方理土
- 13 黒褐色土 少量のローム粒を含む。掘り方理土



第24図 2号壱穴建物竈と出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

3号竪穴建物(第25・26図、Pl. 9・10・24)

概要 本建物は竪穴建物である。東側が4号竪穴建物と攪乱により失われていて確認できなかった。

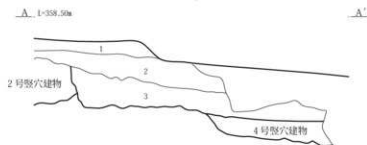
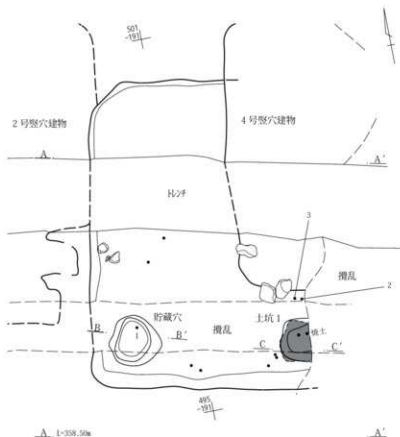
位置 本建物は調査区北半部の南部やや東寄りに在り、X=63495～63500-Y=86188～86192グリッドに位置する。

重複 本建物は2・4号竪穴建物と重複するが、両建物に対して本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕長径：4.85m 短径：(3.50)m
深さ：0.53m 床面積：(12.94) m²

〔貯蔵穴〕長径：0.80m 短径：0.80m 深さ：0.38m

〔土坑1〕長径：0.70m 短径：(0.52)m



0 1:60 2m

3号型穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム粒、Hr-手粒含む
- 2 暗褐色土 ローム粒、炭化物を微量に含む

3号型穴建物土坑1

- 1 におい赤褐色土 焼土、炭化物を含む
- 2 におい赤褐色土 焼土粒を多量に含む

3号型穴建物A-A'

- 1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kk (船川)軽石を含み、下端に薄く黄色土を帯状に含む
- 2 軽石層 厚いAs-Kk (船川)軽石層とその下方に薄い黒色土間層を挟みAs-Bが薄く堆積する。下方の遺構埋土の圧縮沈下による窪地に堆積
- 3 黒褐色土 ごく微量の浅黄色土粒(Hr-fA)を含む。焼土粒や炭化物の混入は見られない。埋土

第25図 3号竪穴建物

高さ：0.32m

埋土 黒褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積は見られなかった。

構造〔竪穴〕上述のように本建物は東部が失われているため、全容は詳らかでないが、残存部の形状から推して、竪穴は隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸方向はN10°Eを向く。

〔掘り方・床〕掘り方は確認されなかった。従って本建物の床は地床であったと判断される。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は見られなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は南西隅部に確認された。やや楕円形に近い隅丸三角形のプランを呈し、上位壁面が開く。貯蔵穴の芯の部分には、長径0.70m、短径0.52m、深さ0.2m

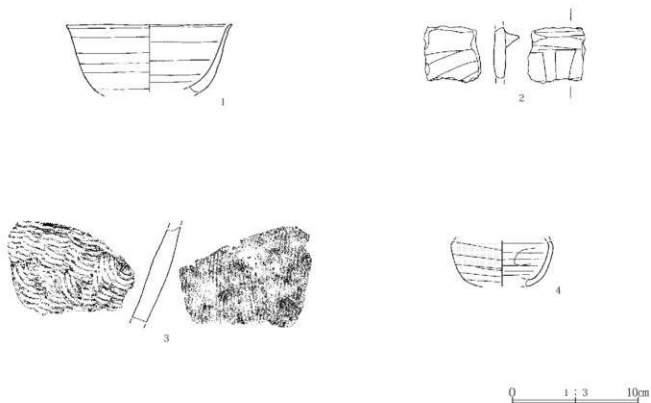
ほどを測る、プランは隅丸の家形で缶形の掘削形態を呈するものである。

〔土坑1〕南壁東寄りに確認された。東部が攪乱により失われていて、全容は確認できないが、プランは隅丸長方形を呈するものと想定され、缶形の掘削形態を呈する。多量の焼土粒、あるいは焼土粒と炭化物を含む赤褐色土で埋没する。

〔棟方向〕本建物の竪穴の全容は確認できなかったため、棟方向は特定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器片のほか、須恵器の碗(1)・羽釜(2)・甕(3)、灰釉陶器碗(4)の破片などの出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推してはおおよそ10世紀前半の所産と判断される。



第26図 3号竪穴建物出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

4号竪穴建物(第27図、Pl.11・24)

概要 本建物は竪穴建物である。西部が残るのみで、東側は攪乱により失われて確認できなかった。

位置 本建物は調査区北半部の南部やや東寄りに在り、X=63496~63500-Y=86187~86190グリッドに位置する。

重複 本建物は3号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 (竪穴)長径：4.34m 短径：(2.78)m

深さ：0.46m 床面積：(6.75)㎡

埋土 灰黄褐色土で埋没し、多量のHr-FA粒含む灰黄褐色土で西側の三角堆積が形成される。

構造 (竪穴)上述のように本建物は東部が広く失われているため、全容は詳らかでないが、残存部の形状から推

して、竪穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと考慮される。長軸方向はN6°Eを向く。

(掘り方・床)掘り方は確認されなかった。従って本建物の床は地床であったと判断される。

(竈)竈は確認されなかった。

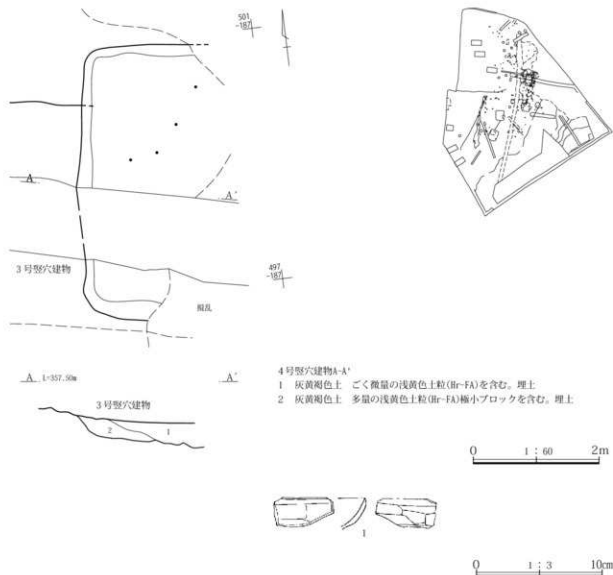
(柱)柱穴は見られなかった。

(貯蔵穴)貯蔵穴も確認されなかった。

(棟方向)本建物の竪穴の全容は確認できないため、棟方向は確認できず、上屋構造も不明である。

遺物 本建物からは縄文土器片や土師器杯(1)の破片などの出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推してはおおよそ7世紀後半の所産と判断される。



第27図 4号竪穴建物と出土遺物

第3節 古墳～平安時代の遺構と遺物

6号竪穴建物(第28・29図, PL.11・12・25)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物は調査区南半部の北部やや西寄りに在り、X=63481～63485-Y=86200～86204グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 (竪穴)長径:3.95m 短径:3.32m

深さ:0.47m 床面積:9.44㎡

[竪] 奥行:1.17m 幅:1.48m

左袖 長さ:0.55m 幅:0.38m 高さ:0.06m

右袖 長さ:0.62m 幅:0.44m 高さ:0.08m

燃焼部 奥行:0.64m 幅:0.46m 深さ:0.04m

煙道 長さ:0.37m 幅:(0.22)m 深さ:0.05m

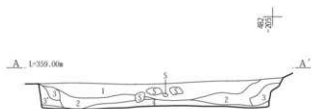
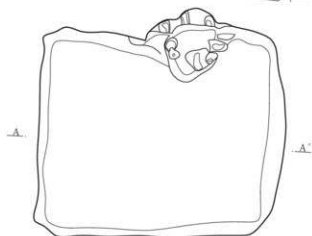
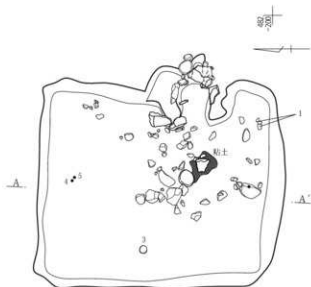
掘り方 奥行:1.18m 幅:0.84m 深さ:0.13m

埋土 少量のHr-FAを含むかHr-FAを含まない褐灰色砂質土で埋没し、埋没途中の竪手前の埋土上位に河床礫が面的に分布する。また黒色土と部分的にHr-FA多く含む褐灰色砂質土でいわゆる三角堆積が形成される。また床面直上に、土葺き材の可能性を有する少量のHr-FA含む黒褐色土が、層厚0.10m以下で広く堆積している。

構造 (竪穴)竪穴のプランは長方形に近い隅丸長方形を呈する。長軸方向はN2°Eを向く。

(掘り方・床)掘り方は確認されなかった。従って本建物の床は地床であったと判断される。

[竪]竪は東壁の南寄りに設けられる。その主軸方位はN



6号竪穴建物A'

- 1 褐灰色砂質土 微量のFA粒を含む
- 2 褐灰色砂質土 少量のFA粒を含む
- 3 褐灰色砂質土 多量のFA粒と黒色土ブロックを含む
- 3' 褐灰色砂質土 少量のFA粒と黒色土ブロックを含む
- 4 黒褐色土 少量のFA粒を含む

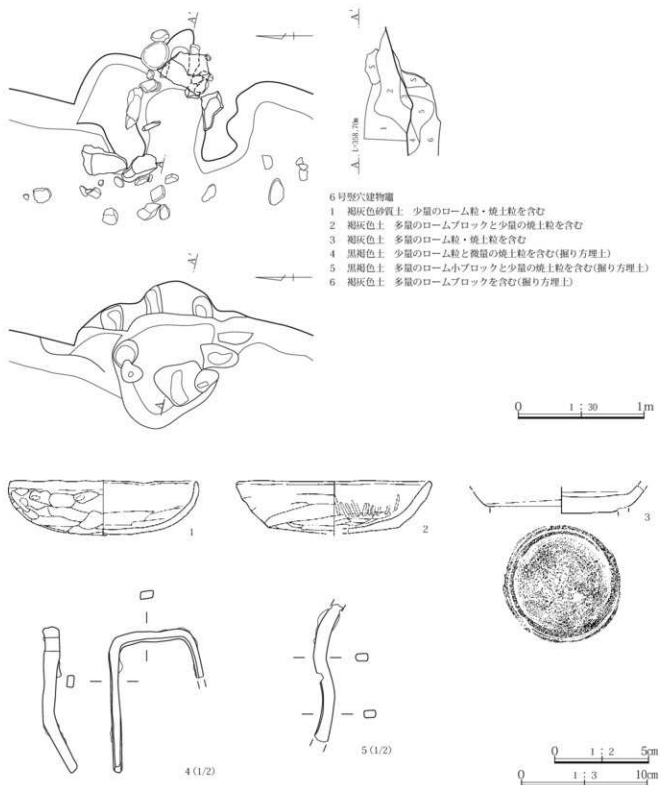
0 1:60 2m

第28図 6号竪穴建物

第3章 発見された遺構と遺物

86° Wを向く。壁面を跨いで奥行き1.18m、幅0.84m、深さ0.26mを測る、隅丸の逆家形のプランを呈する浅い掘り込みの掘り方を有する。この掘り方をロームを多く含む褐灰色土と黒褐色土、ロームを少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

また掘り方内の奥壁から0.40mほどの0.75m隔てた位置に、左側に径0.46×0.36mを測る楕円形プラン、右側に0.54×0.36mを測る半楕円形プランの小孔を掘削して河床礫を据えて袖石としている。その前後および外側にロームを多く含む褐灰色土を入れ、上面に河床礫を据え



第29図 6号竪穴建物竈と出土遺物

た袖を構築している。

燃焼部奥側は緩傾斜を以て立ち上がるが、煙道は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は見られなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も見られなかった。

〔上屋〕棟方向は竪穴のプランから推して、南北方向に向くものと想定されるが、上屋の構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)と須恵器壺(3)、カスガイと見られる鉄製品(4)・不明鉄製品(5)などの出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推してはおおよそ8世紀前半期の所産と判断される。

7号竪穴建物(第30～32図、PL.12・13・25)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物は調査区南半部の中部やや西寄りに在り、X=63473～63478-Y=86203～86207グリッドに位置する。

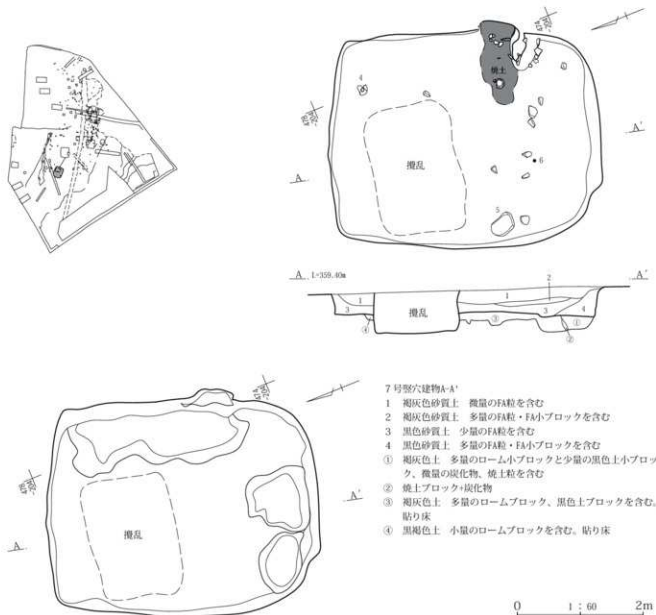
重複 本建物は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかったが、西部が2.1×1.4mの範囲で、掘乱により壊されている。

規模〔竪穴〕長径：4.32m 短径：3.44m

深さ：0.55m 床面積：12.28㎡

〔竪〕奥行：0.78m 幅：(0.43)m

右袖 長さ：0.57m 幅：0.44m 高さ：0.23m



第30図 7号竪穴建物

第3章 発見された遺構と遺物

燃焼部 奥行：0.72m 幅：(0.43)m 深さ：—m
煙道 長さ：0.37m 幅：(0.22)m 深さ：0.05m

埋土 黒褐色土の上に一部多量のHr-FA粒含む褐灰色砂質土で埋没する。また南壁際には褐灰色砂質土がいわゆる三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴のプランは隅丸長方形を呈する。長軸方向はN20° Eを向く。

[掘り方・床]本建物は東南隅を除く東壁と西壁沿いに幅0.64～0.98m、深さ0.10m以下の周溝あるいは土坑状の掘削を伴う掘り方を有し、これを、壁寄りに多量のロームと少量の黒色土含む褐灰色土や炭化物含む焼土、少量のローム含む黒褐色土、そして中側に多量のロームと黒色土含む褐灰色土で埋め戻して床を造る。

[竈]竈は東壁の南寄りに設けられ、その主軸方位はN68° Wを向く。壁面の手前を中心に深さ0.45m以下の掘り方を掘削し、少量のローム粒と微量の焼土粒を含む黒褐色

土、多量のロームや少量の少量のローム粒を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左袖は失われていたが、褐灰色土等で造られた右袖が遺されている。天井の構造は確認できなかった。また煙道も確認できなかった。

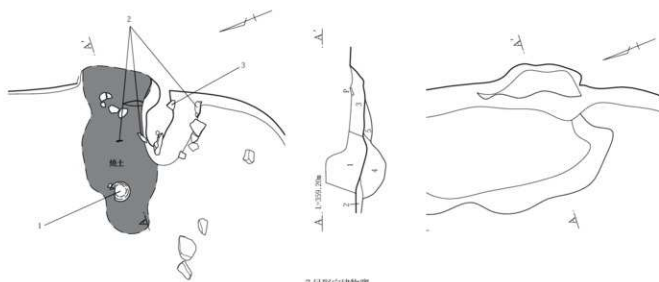
[柱穴]柱穴は見られなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴も見られなかった。

[上屋]棟方向は竪穴のプランから推して、北北西—南南東方向に向くものと想定されるが、上屋の構造は確認できなかった。

遺物 本建物から土師器の杯(1)や甕(2)、須恵器蓋(3・4)などの土器類の他、置き紙と見られる砥石(5)などの出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推してはおおよそ8世紀前半期の所産と判断される。



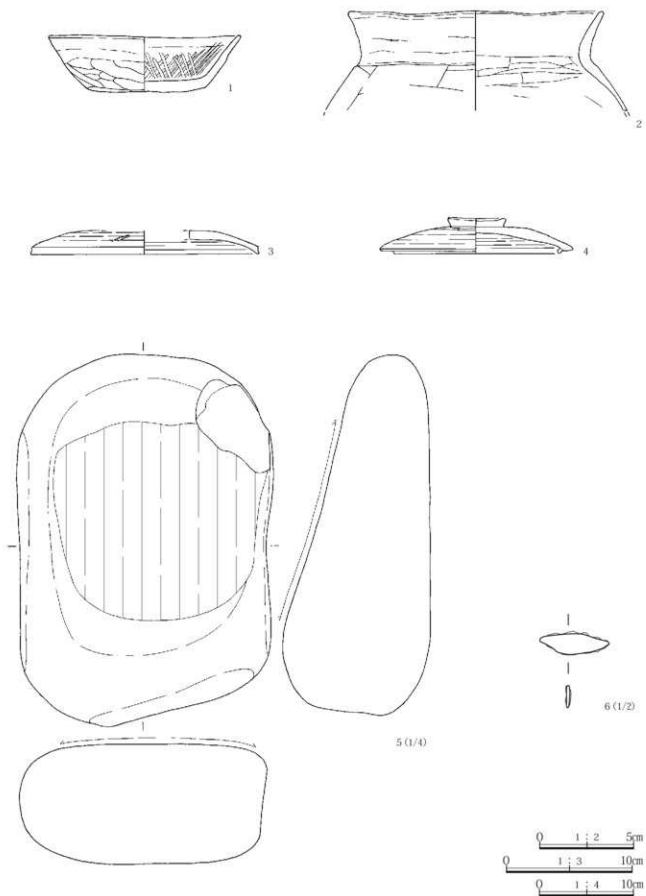
7号竪穴建物圖

- 1 褐灰色砂質土 少量のローム粒・焼土粒を含む
- 2 褐灰色土 多量のロームブロックと少量の焼土粒を含む
- 3 褐灰色土 多量のローム粒・焼土粒を含む
- 4 黒褐色土 少量のローム粒と微量の焼土粒を含む(掘り方埋土)
- 5 黒褐色土 多量のローム小ブロックと少量の焼土粒を含む(掘り方埋土)

0 1 : 30 1m

第31図 7号竪穴建物圖

第3節 古墳～平安時代の遺構と遺物



第32図 7号彫穴建物出土遺物

3 土坑

148号土坑(第33図)

概要 本土坑は中型の土坑である。東側に向かい1号溝と、土地の傾斜により底面付近を除き失われていた。

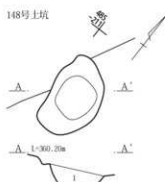
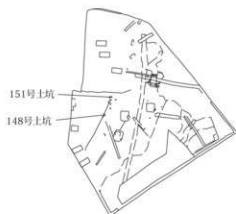
位置 本土坑は調査区南半部北西に在り、63483～63484—86210～86211グリッドに位置する。

重複 本土坑は中世の1号溝に重複し、これに切られているが、同時期の遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.87m 短径：0.58m 深さ：0.31m

埋土 ローム多量を含む褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN0°を向く。



148号土坑
1 褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量に含む

本土坑のプランは確認面では楕円形を呈し、底部では隅丸方形を呈する。底面は平底を呈する。掘削形態は箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して奈良・平安時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

151号土坑(第33図)

概要 本土坑は中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半部北端の西寄りに在り、63491—86207～86208グリッドに位置する。

重複 本土坑は他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.23m 短径：0.52m 深さ：0.39m

埋土 ローム多量を含む褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN75°Eを向く。

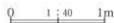
本土坑のプランは杏形を呈する。底面はやや東側に傾斜する平底を呈する。掘削形態は壁面がやや開く箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して奈良・平安時代の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。



151号土坑
1 褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量に含む



第33図 土坑(1)

4 ビット

ビット群(第34・35図、Pl. 13・14)

概要 本遺跡の奈良・平安時代に分類したビット群は、41・120～123・126・127・130～132・136・138～143・145～147・149・150・152・155号ビットの24基のビットから成る。

位置 本ビット群の多くのビットは調査区北半部の南半から南半部の北部にかけて広く分布している。

なお、これらのビットのグリッド位置は第6表に記し

た。

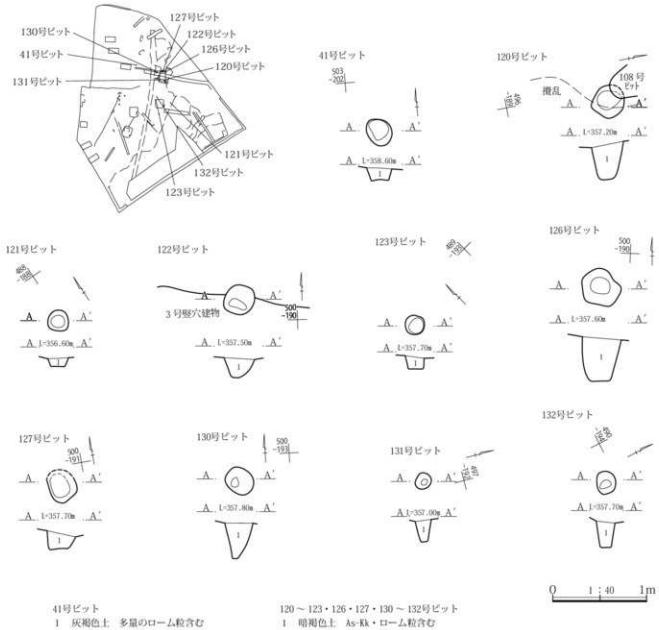
重複 本ビット群の各ビットは同時期の他遺構との重複は見られなかった。

埋土 本ビット群の各ビットは暗褐色土・褐色土・灰褐色土等で埋没する。個々のビットの埋土は各断面図を参照されたい。

規模 本ビット群のビットの径の大きさは0.16～0.42mを測り、その平均は0.277mであった。

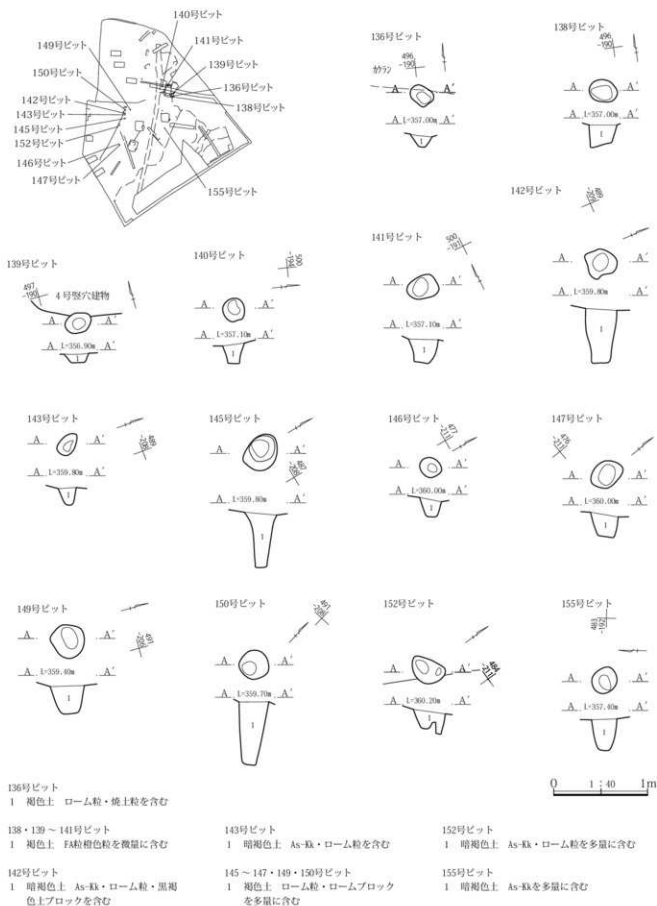
なお、各ビットの規模は第6表に記した。

構造 本ビット群の各ビットのプランは、140・150号



第34図 ビット(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第35図 ビット(2)

ピットが円形、127・138・139・145・149号ピットが楕円形、120～123・131・132・146号ピットが隅丸方形、130・136・141・147・155号ピットが隅丸長方形、41号ピットが隅丸台形、126号ピットが隅丸盾形、142号ピットが隅丸家形、143号ピットが筒形、152号ピットが半円を呈する。底面形態は120・136・143・155号ピットが丸底、138号ピットが突底、152号ピットが二連の丸底と平底を併せた形状を呈する以外は平底を呈する。また、掘削形状は131・132・138・142号ピットが筒形、143・155号ピットが長球形を呈する以外はいずれも深い漏斗形を呈していた。

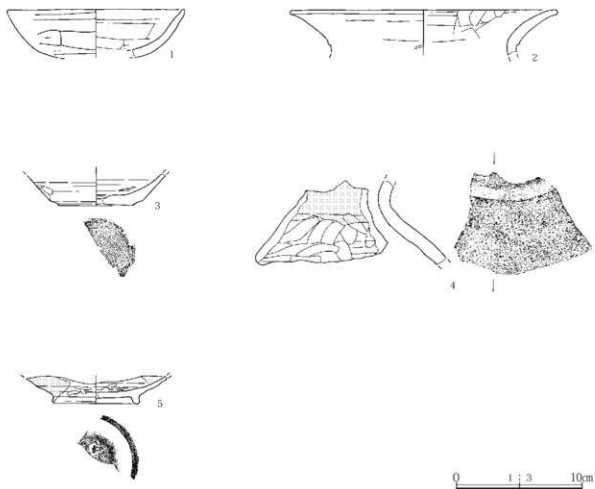
遺物 本ピット群の各ピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 本ピット群の各ピットはおおよそ奈良・平安時代の所産と認識するものの、細かい時期は特定できなかった。またこれらのピットの掘削意図は特定できず、これらのピットの配置から建物や柵列を見出すことはできなかった。

5 遺構外の出土遺物(第36図、PL.25)

本項では後世の遺構に含まれたものも含め、奈良・平安時代の遺構以外から出土した遺物を扱う。

奈良・平安時代の遺構外の遺物には、土師器の杯(1)と甕(2)、須恵器杯(3)、須恵器甕(4)、灰釉陶器蓋(5)等の破片の出土が見られた。



第36図 遺構外出土遺物

第4節 中世の遺構と遺物

1 概要

中世の遺構は基本的にAs-kkを含む覆土で埋没している。これらの遺構には土壌層1基を含む土坑13基、ピット86基、溝1条を調査した。銭貨の出土が見られた。このほか6世以降のHr-FA泥流層や12世紀後葉のAs-kk層の堆積が見られた旧河道を確認した。

2 土坑

38号土坑(第37図、PL.15)

概要 本土坑は中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部中南に在り、63497～63498～86198グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.41m 短径：0.61m 深さ：0.39m

埋土 As-kk多量を含む黒～黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN11°Eを向く。

本土坑のプランは両端が丸みの強い隅丸長方形を呈し、底面は平底を呈する。掘削形態は箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図は、長短軸の比が2.3：1.0とやや短冊形に近い形態であることと、その時期に照らして貯蔵穴の可能性が高いものと考慮される。

68号土坑(第37図、PL.15)

概要 本土坑は大型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半部北端近くの中央に在り、63488～63490～86192～86193グリッドに位置する。

重複 本土坑は1号竪穴建物、93号ピットと重複するが、何れに対しても本土坑の方が古い。

規模 長径：1.48m 短径：1.32m 深さ：0.38m

埋土 As-kk多量を含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN0°Eを向く。

本土坑は東側がやや丸みを帯びる隅丸方形のプランを呈し、底面は平底を呈する。掘削形態は壁面がやや開く

箱形を呈する。

遺物 本土坑からの土師器片1点のみが出土している。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図は、その形態と時期から推して貯蔵穴の可能性が考慮される。

77号土坑(第37図、PL.15)

概要 本土坑は大型の土坑である。東縁が暗渠に壊されていて全容は把握できなかった。

位置 本土坑は調査区南半部北端近くの中央より僅かに西に拠った地点に位置する。63488～63490～86196～86198グリッドに位置する。

重複 本土坑は90・91・92号ピットと重複するが、いずれのピットに対しても本土坑の方が新しい。

規模 長径：1.61m 短径：(1.49)m 深さ：0.33m

埋土 As-kk多量を含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN7°Eを向く。

本土坑のプランはやや南北が長い隅丸方形を呈し、底面は東側に傾斜する平底を呈する。掘削形態は箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図は、その形態と時期から推して貯蔵穴の可能性が考慮される。

111号土坑(第37図、PL.15)

概要 本土坑は、大型の土坑である。土坑の中央付近から西側が暗渠に壊されて、全容は確認できなかった。

位置 本土坑は調査区南半部の中央付近に在り、63489～63493～86193～86195グリッドに位置する。

重複 本土坑は49・125号ピットと重複するが、本土坑は49号ピットより古く125号ピットより新しい。

規模 長径：3.05m 短径：(1.71)m 深さ：0.39m

埋土 As-kk多量を含む黒褐色砂質土で埋没する。

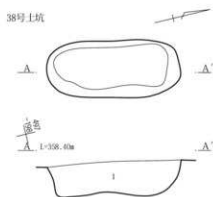
構造 本土坑の主軸はN7°Eを向く。

本土坑は上述のように西側が失われているため、全容は詳らかにできないが、残存部から想定するにそのプランは家形を呈するものと考えられる。しかし壁面のライ

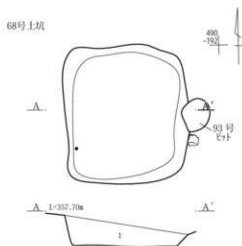
第4節 中世の遺構と遺物

ンはやや蛇行が見られる。底面は平底を呈し、掘削形態はやや壁面が開く箱形を呈する。

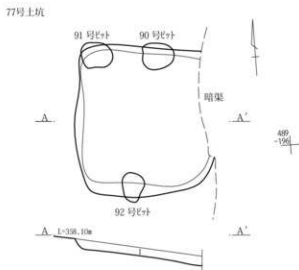
遺物 本土坑からは縄文土器片と土師器片が出土しているが、図示すべきものは見られなかった。



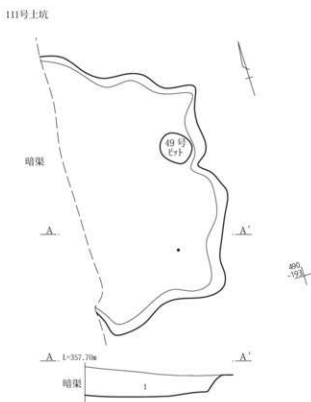
38号土坑
1 黒～黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のローム粒を含む



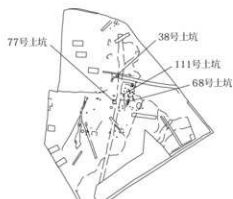
68号土坑
1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと少量のハードローム粒を含む



77号土坑
1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のハードローム粒を含む



111号土坑
1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のハードローム粒を含む



第37図 土坑(1)

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

第3章 発見された遺構と遺物

115号土坑(第38図、PL.15)

概要 本土坑は、大型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南南部の東部西寄りに在り、63486～63489～86186～86188グリッドに位置する。

重複 本土坑は奈良・平安時代の121号ピットを切って掘削されている。

規模 長径：2.45m 短径：2.01m 深さ：1.16m

埋土 赤褐色砂状土を含む褐色土、ローム粒少量含む褐色土、少量のローム粒と炭化物まばらに含むAs褐色土、最上位にAs-Kk多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN4°Wを向く。

本土坑のプランは楕円形、中位以下は隅丸方形を呈する。底面は丸底を呈し、掘削形態は中位以下は箱形、中位以上は播鉢様を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片31点が出土しているが、図すべきものは見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図は特定できなかったが、その形状から推して朝顔形の井戸の可能性が考えられる。

154号土坑(土壇墓)(第38図、PL.16・25)

概要 本土坑は中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南南部の中西部に在り、63477～63478～86209～86210グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.17m 短径：1.07m 深さ：0.93m

埋土 黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN21°Eを向く。

本土坑のプランは円形に近い隅丸方形を呈し、底面は平底を呈する。掘削形態は壁面が開く箱形を呈する。

遺物 本土坑の中位中寄りからは、径0.35m以下の7個の河床礫が出土し、底面近くから銭貨3枚の出土が見られた。出土銭貨には洪武通寶(1)、熙寧元寶(2)、太平通寶(3)、開元通寶(4)の4枚が出土しているが、前2者は本銭の可能性があり、後2者は模銭である。また遊離した人歯1本が出土している。

所見 本土坑は出土銭貨に模銭銭が含まれ、一方、永業通報や寛永通宝が含まれないことから14世紀から16世紀

の範疇に収まるものと判断されるが、細かな時期特定には至らなかった。なお本土坑のプランが方形に近く掘り込みも深いことから座葬の可能性が考慮されるが、その場合出土銭貨との関係から16世紀の可能性も考えられる。

また本土坑は、人歯と銭貨の出土、及び複数の礫が埋土中に出土することから、土壇墓であったものと判断される。葬制は北頭位西向横臥屈葬による中世土壇墓の可能性が高いと考えられるが、土坑の形態から座葬の可能性も否定できない。なお人歯は本土坑に伴うものと考慮されるが、流入の可能性も否定できない。

また被葬者は鑑定の結果、青年期の女性と想定された。

158号土坑(第38図)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 調査区南南部の中西部に在り、63477～86207～86208グリッドに位置する。

重複 本土坑は180号ピットと重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長径：0.50m 短径：0.34m 深さ：0.26m

埋土 ロームを粗に含みAs-Kk多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN60°Eを向く。

本土坑は洋梨形のプランを呈し、底面は丸底を呈する。掘削形態は開き気味の壁面を伴う箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

159号土坑(第38図)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南南部北西寄りに在り、63480～86211グリッドに位置する。

重複 本土坑は1号溝と重複する。新旧関係は明確ではないが、掘削順位から推して本土坑の方が古いものと考慮される。

規模 長径：0.54m 短径：0.39m 深さ：0.57m

埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN68°Wを向く。

本土坑のプランは楕円形を呈し、底面は尖底を呈する。

掘削形態は深い部鉢形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図は特定できなかったが、1号溝内に在ることから、打設杭等、同溝に伴う遺構である可能性が考慮される。

160号土坑(第39図、PL.15)

概要 本土坑は、小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半部北端近くの西寄りに在り、63490～63491～86208グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.48m 短径：0.35m 深さ：0.70m

埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN5°Eを向く。

本土坑のプランは隅丸三角形を呈し、底面は丸底を呈する。掘削形態は筒形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかったが、その形状から柱穴の可能性が考慮される。

173号土坑(第39図、PL.16)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半中西部に在り、63477～63478～86208～86209グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.86m 短径：0.68m 深さ：0.77m

埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN29°Eを向く。

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面は平底を呈する。掘削形態は箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかったが、西

半部の埋土の中程に径0.12m以下を測る45個ほどの小環が見られた。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかったが、その形状から貯蔵穴の可能性が考慮される。

174号土坑(第39図、PL.16)

概要 本土坑は中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半中西部に在り、63479～63481～86208～86209グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：1.20m 短径：0.76m 深さ：0.67m

埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN21°Wを向く。

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面は丸底気味の平底を呈する。掘削形態は箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかったが、その形状から貯蔵穴の可能性が考慮される。

177号土坑(第39図、PL.16)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半中西部に在り、63476～63477～86199グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.60m 短径：0.58m 深さ：0.28m

埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN15°Eを向く。

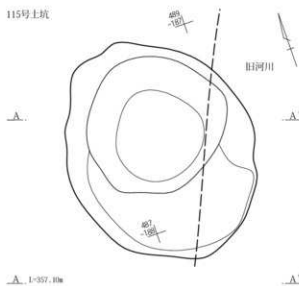
本土坑は円形に近い隅丸五面形のプランを呈し、底面は平底を呈する。掘削形態はやや壁面が開く箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識される

第3章 発見された遺構と遺物

115号土坑

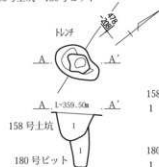


田河川

115号土坑

- 1 暗褐色土 As-Kkを多量に含む
- 2 褐色土 ローム粒を少量含む。炭化物をまばらに含む
- 3 褐色土 ローム粒を少量含む
- 4 褐色土 赤褐色の砂状土を含む

158号土坑・180号ピット



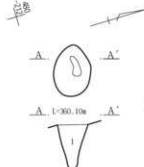
158号土坑

- 1 暗褐色土 As-Kkを多量に含む、ローム粒ロームブロックをまばらに含む

180号ピット

- 1 暗褐色土 As-Kk・ローム粒を多量に含む

159号土坑

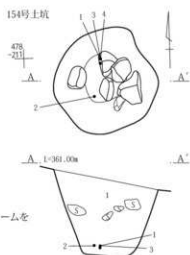


159号土坑

- 1 暗褐色土 As-Kk・ローム粒を多量に含む

0 1 : 40 1m

154号土坑



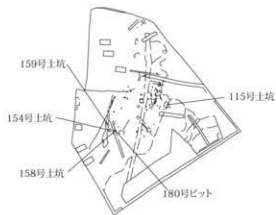
154号土坑

- 1 黒褐色土 ロームを微量に含む

154号土坑



0 1 : 1 5cm



第38図 土坑(2)と154号土坑出土遺物

が、細かい時期特定はできなかった。また掘削意図も特定できなかったが、その形状から貯蔵穴の可能性が考えられる。

182号土坑(第39図)

概要 本土坑は中型の土坑である。

位置 本土坑は調査区南半中北部に在り、63486～63487—86198～86199グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長径：0.91m 短径：0.85m 深さ：0.17m

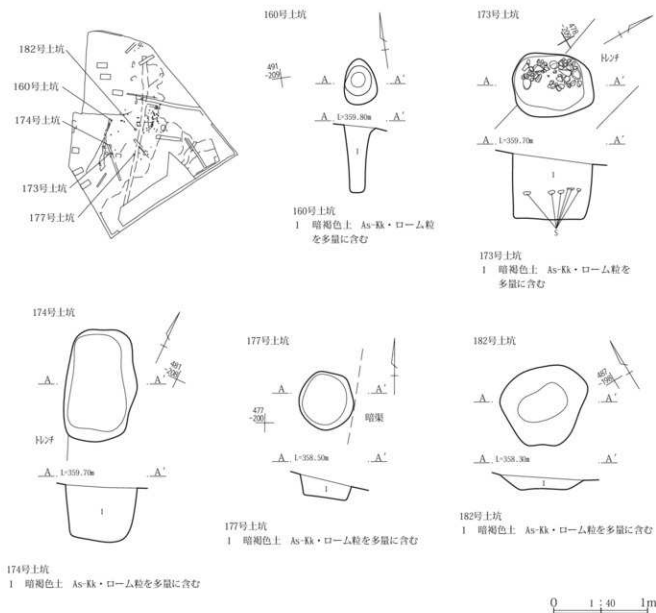
埋土 As-Kkとローム粒を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN90°を向く。

本土坑は東側が圧平される隅丸家形のプランを呈し、底面は平底を呈する。掘削形態は壁面が開く箱形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑は埋土から推して中世の所産と認識されるが、細かい時期特定はできなかった。また掘削意図も特定できなかった。



第39図 土坑(3)

3 ビット

ビット群(第38・40～48図、Pl.16～20・25)

概要 本遺跡の中世(以降)に分類したビット群は、39・42～47・49～67・69～76・78～80・85～110・112・116・117・156・157・161～172・175・176・178～181号ビットの86基のビットから成る。

位置 本ビット群のビットは調査区北半の中南部から南半部にかけて広く分布している。

なお、これらのビットのグリッド位置は第6表に記した。

重複 本ビット群のビットの多くは単独で在るが、49・90・91・92・93・163・164・165・166・180号ビットは他の遺構と重複する。

49号ビットは111号土坑と重複するが、49号ビットの

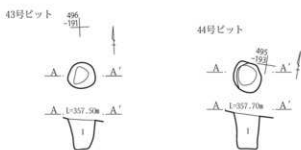
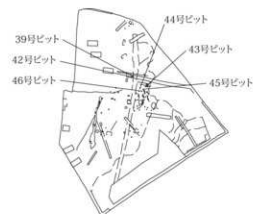
方が新しい。90・91・92号ビットは77号土坑と重複するが、いずれのビットも77号土坑より古い。93号ビットは68号土坑と重複するが、93号ビットの方が新しい。163～166号ビットの4基のビットが1号溝と重複するが、いずれのビットも1号溝より古い。180号ビットは158号土坑と重複するが、180号ビットの方が古い。

埋土 本ビット群の各ビットはAs-Kkとローム粒を含む黒～黒褐色土、暗褐色土で埋没する。なお個々のビットの埋土は各ビットの断面図を参照されたい。

規模 本ビット群のビットの径の大きさは0.20～0.45mを測り、その平均は0.280mであった。

なお、各ビットの規模は第6表に記した。

構造 本ビット群の各ビットのプランは、43・44・85・96・107・168号ビットが円形、46・47・53～55・67・72・74～76・79・90・93・94・102・104・117・162・

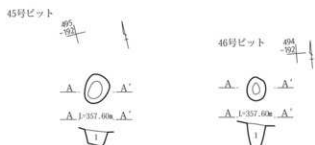
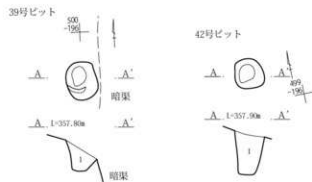


39号ビット

1 黒～黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のローム粒含む

42・44～46号ビット

1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のローム粒含む



43号ビット

1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のハードローム粒含む



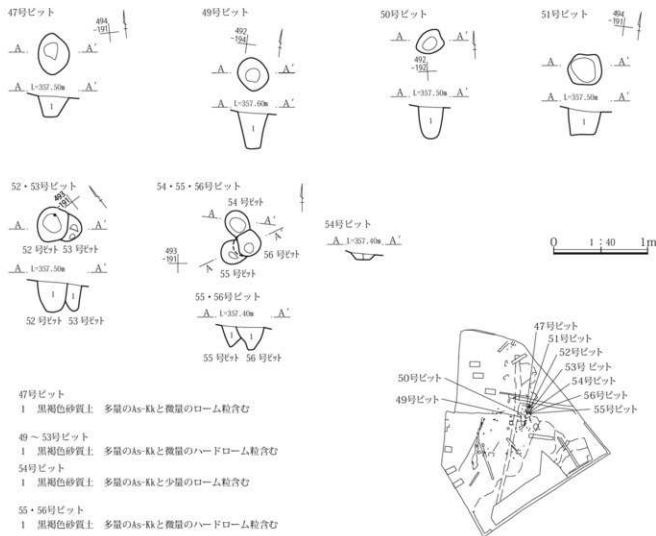
第40図 ビット(1)

169・178号ビットが楕円形、80・110号ビットが方形、42・51・60～62・65・70・71・73・87・88・98・99・116・156・157・163・167・172・180号ビットが隅丸方形、39・45・49・50・52・56・57・59・63・89・91・100・109・161・165・175・176・179・181号ビットが隅丸長方形、64・112・164号ビットが隅丸台形、92・95・103号ビットが隅丸盾形、58・86・97・101・105・106・170号ビットが隅丸家形、166・171号ビットが滴形を呈する。底面形態は39・50・52・53・59・60・69・73～75・78・79・96・99・103・110・112・116・163・169・178号ビットが丸底、55・105・162・165・170・175・181号ビットが尖底、56・63・67・85・176号ビットが逆凸形を呈する以外は平底を呈する。また、掘削形状は42・44・51～53・62・64・65・71・79・92・94・102～104・112・116・117・157・161・167・171・172・181号ビットが筒

形、46・50・59・60・163・164・170・179・180号ビットが長球形を呈する以外はいずれも深い楕円形を呈していた。

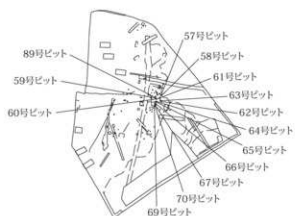
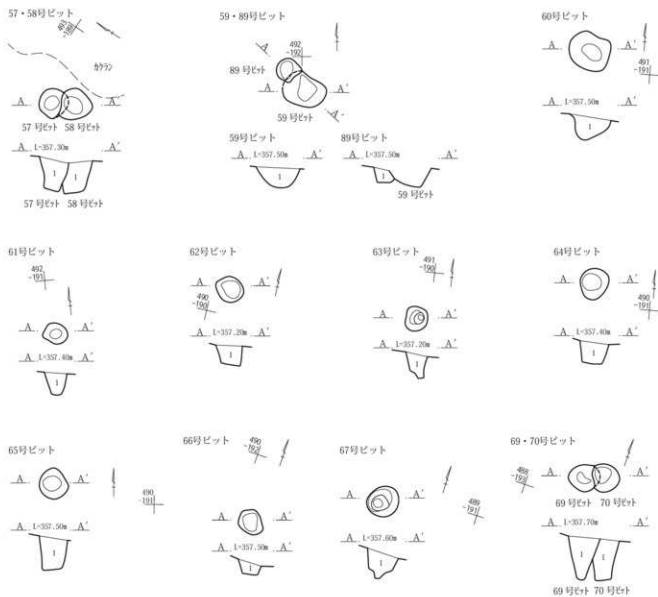
遺物 本ビット群の48・52・85・87号ビットからは土師器片各1点、90号ビットからは土師器片2点、110号ビットからは縄文土器片、須恵器片各1点、土器片32点が出土し、162号ビットからは砥石(162号ビット-1)が出土しているが、他のビットからの遺物の出土は認められなかった。

所見 本ビット群の各ビットはおおよそ奈良・平安時代の所産と認識するものの、細かい時期は特定できなかった。またこれらのビットの掘削意図は特定できず、これらのビットの配置から建物や柵列を見出すことはできなかった。



第41図 ビット(2)

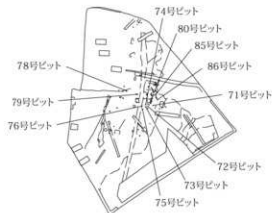
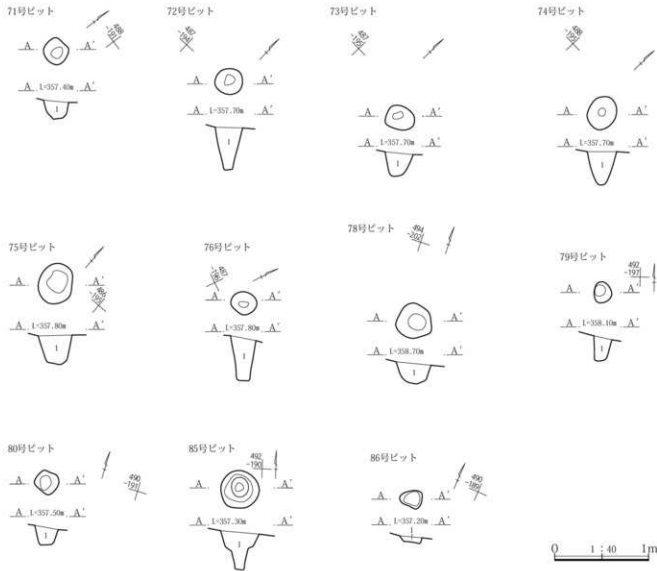
第3章 発見された遺構と遺物



- 57・58号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと少量のローム粒を含む
- 59号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと少量のローム粒を含む
- 61・89号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと微量のハードローム粒を含む
- 60・64・65号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと少量のハードローム粒を含む
- 62・63・66・67号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと微量のハードローム粒を含む
- 69・70号ビット
I 黒褐色砂質土 多量のAs・Kkと微量のローム粒を含む

0 1:40 1m

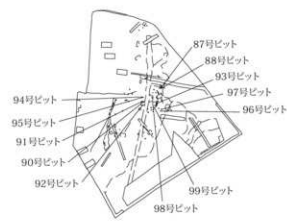
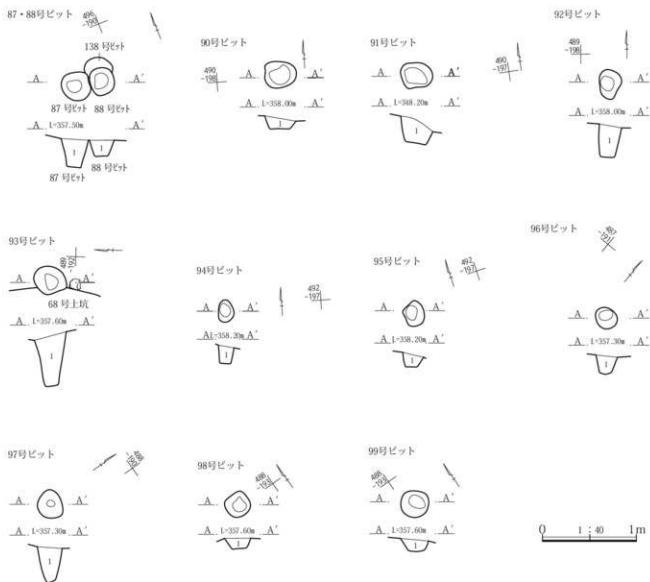
第42図 ビット(3)



- 71～73・75号ピット
 1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のローム粒を含む
- 74・79・86号ピット
 1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと少量のハードローム粒を含む
- 76・80・85号ピット
 1 黒褐色砂質土 多量のAs-Kkと微量のハードローム粒を含む
- 78号ピット
 1 黒褐色砂質土 少量のハードローム粒と微量の浅黄褐色土(Gr-FA)小ブロックを含む

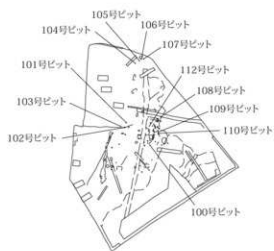
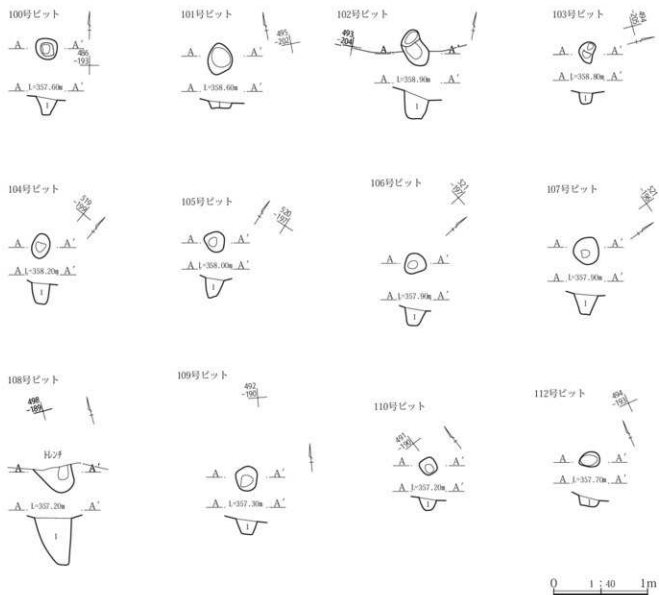
第43図 ピット(4)

第3章 発見された遺構と遺物



- 87・88・93・95・98・99号ピット
 1 黒褐色砂質土。多量のAs-Ksと少量のハードローム粒を含む
- 90号ピット
 1 黒褐色砂質土。多量のAs-Ksと微量のローム粒を含む
- 91・92・94・96・97号ピット
 1 黒褐色砂質土。多量のAs-Ksと微量のハードローム粒を含む

第44図 ピット(5)

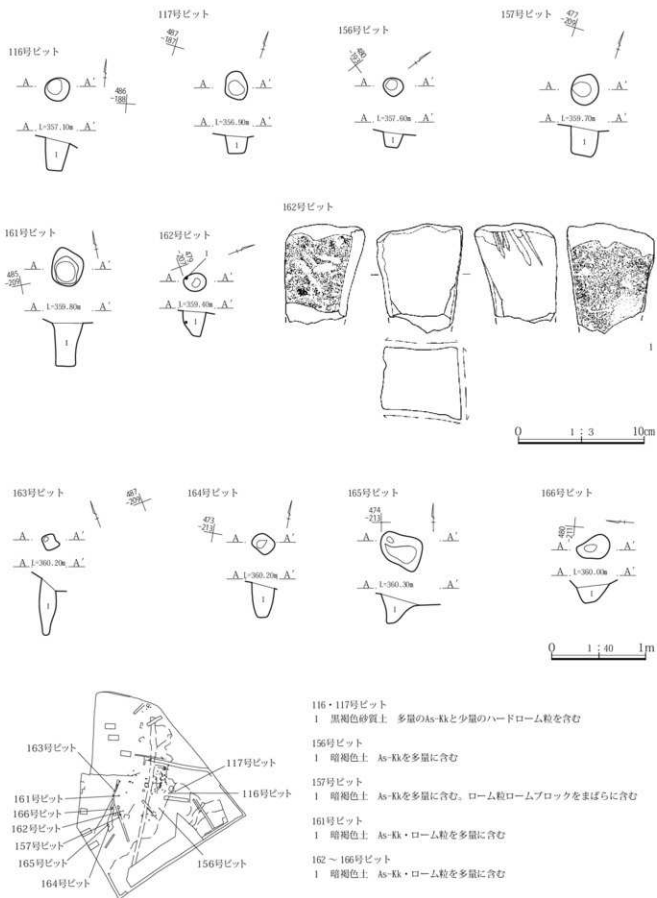


100 ~ 104・107 ~ 109・110号ビット
 1 黒褐色砂質土 多量のAs₂S₃と少量のハードローム粒を含む

105・106・112号ビット
 1 黒褐色砂質土 多量のAs₂S₃と微量のハードローム粒を含む

第45図 ビット(6)

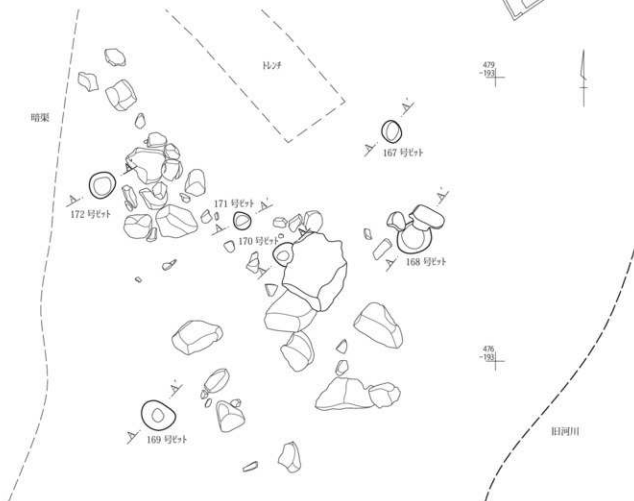
第3章 発見された遺構と遺物



第46図 ピット(7)と162号ピット出土遺物

167～172号ピット

167～172号ピット



167号ピット

△ 1-357.70m △



168号ピット

△ 1-357.60m △



169号ピット

△ 1-358.10m △



170号ピット

△ 1-358.00m △



171号ピット

△ 1-358.00m △



172号ピット

△ 1-358.00m △

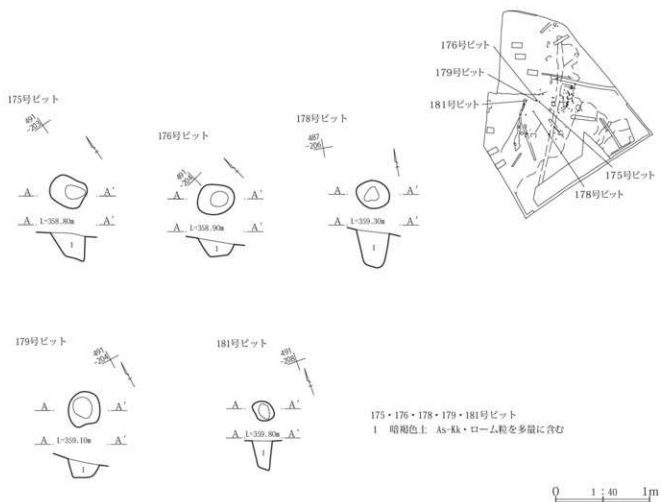


167～172号ピット

1 暗褐色土 As-Kk・ローム粒を多量に含む

0 1 : 40 1m

第47図 ピット(8)



第48図 ピット(9)

4 溝・旧河川

1号溝(第49図、Pl.21)

概要 本溝は中規模の溝である。本溝の北部の東半は削平により失われている。また西端は調査区南半部北端近くで止まり、以西の状態は調査区北半部が削平されていることもあって確認できなかった。一方、東端は旧河川に投しているが、その東側に延伸しているか、流入或いは給水しているかは確認できなかった。以上の状態から本溝の全容を詳らかにすることはできなかった。なお本溝の遺存状態は良好とは言えず、底面近くを調査できたに過ぎないものと判断される。

位置 本土坑は調査区南半部の西部に在り、63470～63491―86208～86213グリッドに位置する。

重複 本溝は148号土坑等の平安時代以前の遺構の重複

も見られるが、同時期の遺構としては159号土坑と163・164・165・166号ピットと重複し、いずれに対しても本溝の方が新しい。

規模 長さ：21.00m 幅：2.49m 深さ：0.16m

埋土 As-Kk多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本溝の走行は弱い蛇行が見られるが、その走行の方向はN11°Eを向く。

本溝の掘削形態は、壁面が開く箱型状を呈するが、その幅員は一定していない。また床面は平底状と認識されるが、底面から壁面下位にかけて流水によると見られる細かい凹凸が全体的にみられる。

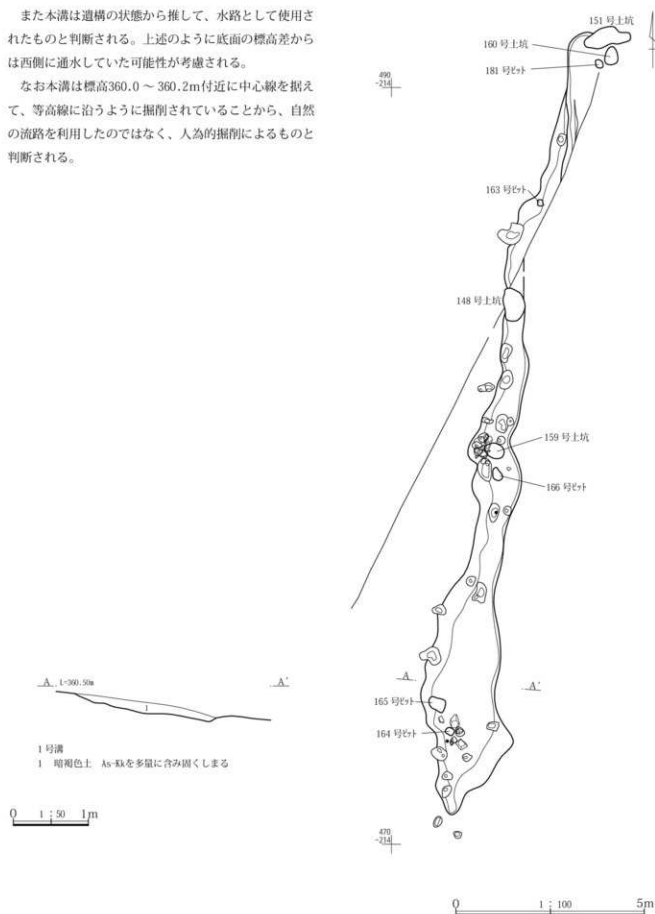
底面の傾斜は東高西低であるが東西の高低差は0.35mあるものの、勾配率は1.92%とほとんど平坦である。

遺物 本溝からは土師器片などの出土が見られた。

所見 本溝は埋土から推して中世の所産と判断される。

また本溝は遺構の状態から推して、水路として使用されたものと判断される。上述のように底面の標高差からは西側に通水していた可能性が考慮される。

なお本溝は標高360.0～360.2m付近に中心線を据えて、等高線に沿うように掘削されていることから、自然の流路を利用したのではなく、人為的掘削によるものと判断される。



第49図 1号溝

第3章 発見された遺構と遺物

旧河川(第50図、Pl.21)

概要 本遺跡では河川跡を確認したが、調査区の東側調査区外に広がるため、全容は確認できなかった

重複 本河川は1号溝と重複すると想定されるが、新旧関係は特定できなかった。

規模 長さ：(54.81)m 幅：(25.36)m

深さ：(1.20)m

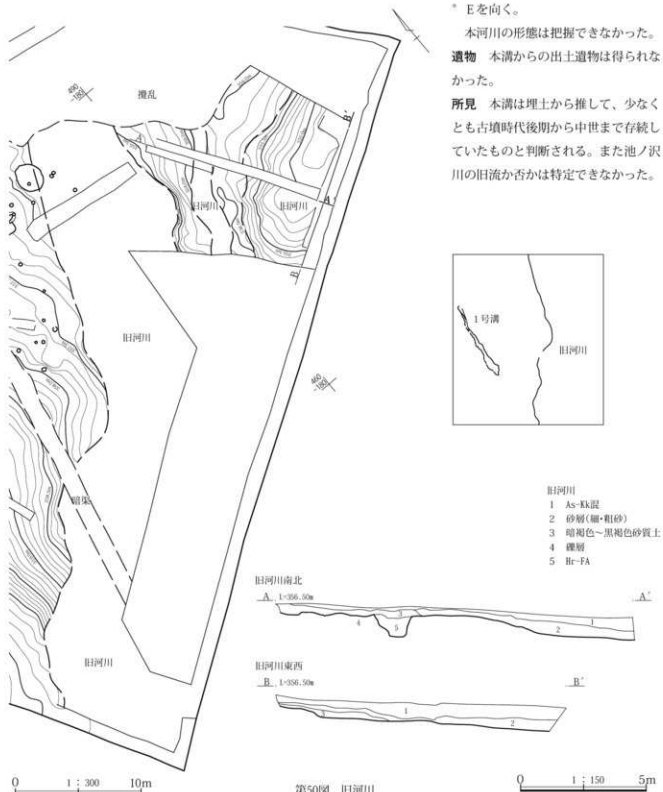
埋土 礫層、Hr-FA、暗褐色～黒褐色砂質土、As-kk混土で埋没する。

構造 本河川の走行は直線的で、北東方向に流下したものと判断される。その走行方向はN38°Eを向く。

本河川の形態は把握できなかった。

遺物 本溝からの出土遺物は得られなかった。

所見 本溝は埋土から推して、少なくとも古墳時代後期から中世まで存続していたものと判断される。また池ノ沢川の旧流か否かは特定できなかった。



第50図 旧河川

第5節 時期不明の遺構

1 概要

時期不特定の遺構としては、土坑1基とピット1基と人為か自然か判断の付かなかった集石があった。

2 土坑

137号土坑(第51図)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑は調査区北半部の中部東南寄りに在り、63501-86192 ~ -86193グリッドに位置する。

重複 本土坑は2・5号竪穴建物と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模 長径：0.85m 短径：0.46m 深さ：0.32m

埋土 埋土の記録は残せなかった。

構造 本土坑の主軸はN86°Wを向く。

本土坑は短軸方向に二切る楕円形のプランを呈する。記録が十分ではないため底面の形態は明確ではないが丸底を呈するものと想定され、掘削形態は壁面が開くものと判断される。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

3 ピット

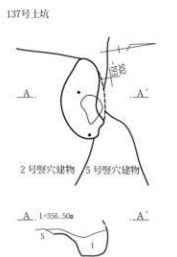
48号ピット(第51図、PL.22)

概要 本遺跡で調査したピットのうち、時期を判断できなかったピットは48号ピット1基であった。

位置 48号ピットは調査区北半部の中南端にある。所在グリッドは第6表に記した。

重複 48号ピットは単独で在り、他の遺構との重複関係は認められなかった。

埋土 埋土の記録に不備があり、記せない。



137号土坑

1 暗褐色土 ローム粒と黒色土の混じり



48号ピット



第51図 時期不明の土坑・ピット

第3章 発見された遺構と遺物

規模 48号ピットの規模は第6表に記した。

構造 48号ピットのプランは隅丸台形を呈する。底面形態は平底で、掘削形態は插鉢形を呈する。

遺物 48号ピットからの遺物の出土は認められなかった。

所見 48号ピットの時期は特定できなかった。また掘削意図も特定できなかった。

4 集石

1号集石(第52図、PL.22)

概要 本集石は近似した標高の間に平面的且つ集中的に分布する河床礫の纏まりとして確認された。

位置 本集石は調査区南半部の中央付近に在り、63474～63479—86193～86197グリッドに位置する。

重複 河床礫の分布域の中に中世の170・171号ピットが位置するが、新旧関係は特定できなかった。

埋土 埋土の記録は残せなかった。

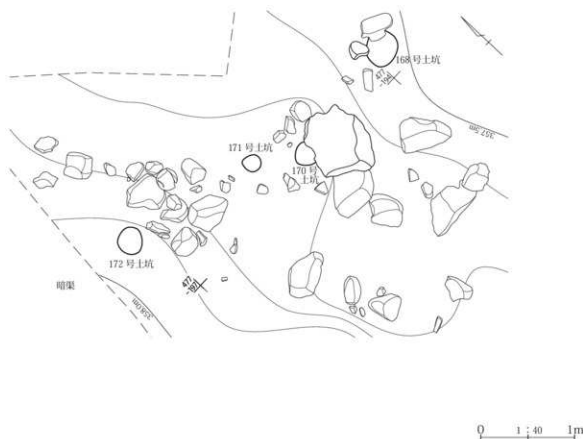
規模 長さ：4.81m 幅：3.40m

構造 本集石は長さ0.07mから0.80mを測る大小49個の河床礫から成り、標高357.5～356.0mの範囲に河床礫が出土している。これらの河床礫の多くは南北2列に分かれ、北側のものはN38°Wの方向に配列し、北西側では直線的だが、南東側では幅1.1mを測る扇状の範囲で配置する35個の河床礫で構成され、南側のものはN61°W方向に10個の河床礫が直線的な配置で構成されている。

遺物 本集石からの遺物の出土は確認できなかった。

所見 本集石が人為的であることを断定することはできなかったが、南北列共に河床礫が直線的なライン付近に遺存することから、人為的に配置された可能性が高いものと考えられる。

本集石の時期は特定できなかったが、人為的配列とするならば縄文時代の列石に準ずるものとして、同時代の所産の可能性が考えられる。



第52図 1号集石

第6節 旧石器確認調査

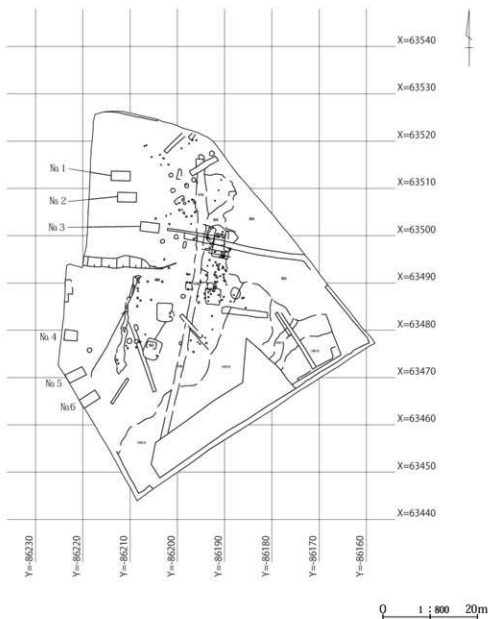
1 旧石器確認調査(第53図、PL.22)

概要 本遺跡では旧石器時代の遺物の有無を確認するため、圃場整備等による攪乱の少ない調査区西部に、6本の東西トレンチ(北寄りNo.1～6のトレンチ番号を付した)を設定して、確認調査を実施した。As-YPを含むロー

ム層前後から、河床礫を多く含むローム層上面までを人力で削りながら掘削した。

位置 トレンチの設定位置は第53図に示した。なお、トレンチの平面規模はトレンチ4の長さ2.7m、幅2.2mを除き、長さ4.0m、幅2.0メートルで設定されている。

所見 この確認調査の結果、旧石器時代の遺物の出土はなく、従って本遺跡に旧石器時代遺物の包蔵はないものと判断された。



第53図 旧石器確認調査トレンチ位置

第4章 自然科学分析

第1節 出土人歯の鑑定

1 鑑定資料

池ノ沢遺跡154号土坑から4枚の銭貨と共に歯牙1本が出土した。この歯牙は遊離歯であり、出土状態の記録もない。またこの歯牙は歯根と象牙質が失われたいわゆるエナメルキャップの状態にあり、遠心面舌側寄りの上位が剥離している。

2 鑑定所見

① ヒトか否かの判定と歯種

本歯牙は観察により、ヒトの永久歯であり下顎左側の第2小白歯であると識別した。歯冠の計測値は以下のとおりである。

冠長：6.25cm
冠幅：6.80cm
冠厚：7.45cm

② 年齢と性別

年齢はMartinの咬耗度の分類から推定した。本歯牙の咬耗度はMartinの1⁺であり、現代人であれば20～30歳となるが、中世の人歯の咬耗が現代人より進むことに鑑みれば本人歯は青年期のものと判断される。

また性別については歯科法医学で良く用いられる上条(1962)の性別毎の歯冠の計測値の平均値⁽¹⁾を用い、権田(1959)の値を参考にして判断した。本歯牙の歯冠の計



写真図版

測値を上条(1962)の平均値に照らした結果、本歯牙は女性と判断された。また冠長・冠幅・冠厚のいずれの値も女性の平均値より更に小さい値であるため、本歯牙は小柄な人物のものとして想定された。

③ その他

本歯牙に齶歯等の病変は認められなかった。また上述の遠心面の剥離は剥離面の状態から推して脱落後のものと考慮された。

本歯牙咬頭の咬耗は近心側と遠心側に振り分けられるように進行している。これは上下の歯の対向関係が一歯対二歯咬合によるものと判断される。下顎右側の犬歯から小白歯が確認できないが、臼歯でモノを咀嚼する場合、右側の上下の歯の対向関係が一歯対二歯咬合の場合は右側、一歯対一歯咬合(咬耗の形状が平坦になる)の場合は左側で咀嚼する割合が高い。

3 まとめ

繰り返しながら、154号土坑から出土した人歯は永久歯の下顎左側の第2小白歯であり、青年期の女性のものと判断された。

またこの人歯はその計測値から推して、小柄な女性であったものと考えられる。

【注】

(1) 下顎第2小白歯の歯冠の性別差(cm)

	上条(1962)			権田(1959)		
	冠長	冠幅	冠厚	冠長	冠幅	冠厚
♂	7.25	7.17	8.35	7.69	7.42	8.53
♀	7.00	7.05	7.99	7.40	7.29	8.25

【参考文献】

- 藤田恒太郎(1967)『歯の解剖学』改訂第13版
鈴木和男(1974)『法歯学』、pp89, 116-117
石守 晃(1982)『利き顎と一歯対一歯咬合及び一歯対二歯咬合についての一調査』『感応寺址』、小田原市教育委員会、pp76-80

第5章 まとめ

池ノ沢遺跡は榛名山北麓端部を開析する谷地形の中に立地している。調査区は元々池ノ沢A遺跡と呼称していた本遺跡の北半部である。

本遺跡の調査では南端部に旧河川が、中・北部の微高地に堅穴建物等の遺構が遺されていた。但しその東部は圃場整備等により削平され、遺構分布は遺存する緩傾斜面の東寄り、調査区の中位の南北に延びる帯状の範囲に偏って発見されている。

吾妻川流域では、兩岸の山地から複数の小河川が疏下して、吾妻川沿いの段丘を開析している。遺跡はこの谷口周辺の段丘面に立地する傾向がある。池ノ沢遺跡も、吾妻川右岸の池ノ沢川と小規模な谷地形との間に営まれた古墳時代から平安時代を中心とする集落遺跡であったことが今回の発掘調査で明らかになった。

本遺跡の調査面は実質1面であったが、縄文時代および古墳時代から中世に至る時期の堅穴建物7棟、土坑28基、ピット147基、溝1条と、旧河川および集石を確認し、調査した。このうち縄文時代の遺構は堅穴建物1棟、土坑12基、ピット36基、古墳時代から平安時代の遺構は堅穴建物6棟、土坑2基、ピット24基で、概ね中世のものと思われる遺構は土坑13基、ピット86基、溝1条である。土坑のうち1基は青年期の女性が埋葬されたと思われる土壌墓であった。このほか古墳時代～中世のものと思われる旧河川があり、時期の特定できなかった遺構は土坑1基、ピット1基と列石様の集石1か所である。なお、ピットは一定量あったが、これらから掘立柱建物や櫓等の構造物を見出すことはできなかった。またこれらの遺構に伴い、量は多くはなかったが、縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器や石器、石製品、金属製品の遺物の出土が見られた。

堅穴建物は、縄文時代の5号堅穴建物が中期加曾利E3式期の所産であった他は、古墳～平安時代の堅穴建物である。それらの時期は4号堅穴建物が7世紀後半、6・7号堅穴建物は8世紀前半、1・2号堅穴建物が8世紀、3号堅穴建物が10世紀と、飛鳥時代1棟、奈良時代4棟、平安時代が1棟と古墳～平安時代のものが多かったもの

の、それ以前の古墳時代の堅穴建物は認められなかった。このような遺構の時期変遷は、周辺の遺跡数の変遷と同じ傾向を示している。

第4図に示した範囲の65か所の遺跡のうち古墳時代の遺跡は65遺跡の28%を占める18遺跡で、奈良時代の遺跡は69%を占める45遺跡で、平安時代の遺跡は75%を占める49遺跡であった。特に奈良時代の遺跡数は古墳時代の遺跡数の2.5倍と急増しているのに対し、平安時代の遺跡数は奈良時代の遺跡数の1.1倍と微増であった。ちなみに古墳時代の遺跡数は弥生時代の遺跡数の8割ほどと減少している。本遺跡の時代ごとの堅穴建物の棟数はこうした傾向を反映しているとも言えよう。しかし周辺遺跡での発掘調査例は少なく、奈良時代と平安時代の堅穴建物の数量の比較ができないため、本遺跡の堅穴建物の棟数が奈良時代に多いことの検討は困難である。しかし少なくとも本遺跡の調査区では、古墳時代には堅穴建物がつくられなかった区域に、奈良時代に入った早い段階で集落が展開し、その後集落が調査区外に移っていったものと認識されるのである。

土坑計測表

第5表 土坑計測表

番号	X座標	Y座標	主軸	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
1	63516 ~ 63517	-86192 ~ -86193	N-21°-W	1.09	1.03	0.20	
2	63516 ~ 63517	-86194 ~ -86195	N-43°-W	1.35	1.00	0.81	
7	63511 ~ 63512	-86196	N-2°-W	0.96	0.83	0.09	
8	63510 ~ 63511	-86197 ~ -86198	N-53°-W	0.91	0.78	0.35	
9	63512 ~ 63513	-86200 ~ -86201	N-53°-E	0.83	0.77	0.52	
17	63509 ~ 63510	-86200 ~ -86201	N-90°	0.97	0.92	0.20	
18	63507	-86198 ~ -86199	N-62°-E	0.55	(0.44)	0.24	
20	63506 ~ 63507	-86198	N-46°-W	0.56	0.46	0.29	
30	63504 ~ 63505	-86198	N-31°-W	0.53	0.33	0.16	
36	63499 ~ 63500	-86199 ~ -86200	N-22°-W	0.97	0.88	0.65	
37	63498 ~ 63499	-86202 ~ -86203	N-64°-E	0.91	0.75	0.22	
38	63497 ~ 63498	-86198	N-11°-E	1.41	0.61	0.39	
68	63488 ~ 63490	-86192 ~ -86193	N-0°	1.48	1.32	0.38	
77	63488 ~ 63490	-86196 ~ -86198	N-7°-E	1.61	(1.49)	0.33	
111	63489 ~ 63493	-86193 ~ -86195	N-7°-E	3.05	(1.71)	0.39	
115	63486 ~ 63489	-86186 ~ -86188	N-4°-W	2.45	2.01	1.16	
137	63501	-86192 ~ -86193	N-86°-W	0.85	0.46	0.32	
148	63483 ~ 63484	-86210 ~ -86211	N-0°	0.87	0.58	0.31	
151	63491	-86207 ~ -86208	N-75°-E	1.23	0.52	0.39	
153	63475 ~ 63476	-86218 ~ -86219	N-32°-E	0.94	0.93	0.69	
154	63477 ~ 63478	-86209 ~ -86210	N-21°-E	1.17	1.07	0.93	
158	63477	-86207 ~ -86208	N-60°-E	0.50	0.34	0.26	
159	63480	-86211	N-68°-W	0.54	0.39	0.57	
160	63490 ~ 63491	-86208	N-5°-E	0.48	0.35	0.70	
173	63477 ~ 63478	-86208 ~ -86209	N-29°-E	0.86	0.68	0.77	
174	63479 ~ 63481	-86208 ~ -86209	N-23°-W	1.20	0.76	0.67	
177	63476 ~ 63477	-86199	N-15°-E	0.60	0.58	0.28	
182	63486 ~ 63487	-86198 ~ -86199	N-90°	0.91	0.85	0.17	

第6表 ビット計測表

番号	X座標	Y座標	主軸	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
3	63511	-86190	N-10°-E	0.19	0.17	0.09	
4	63500	-86191	N-11°-E	0.19	0.18	0.17	
5	63507	-86191 ~ -86192	N-18°-W	0.23	0.22	0.21	
6	63511	-86195 ~ -86196	N-8°-E	0.37	(0.26)	0.18	
10	63514 ~ 63515	-86201 ~ -86202	N-81°-W	0.29	0.25	0.12	
11	63516	-86202 ~ -86203	N-70°-W	0.46	0.17	0.26	
12	63517	-86203	N-61°-E	0.25	0.18	0.20	
13	63514 ~ 63515	-86203	N-49°-W	0.18	0.17	0.23	
14	63516	-86205	N-57°-W	0.27	0.21	0.21	
15	63519	-86206	N-30°-W	0.20	0.19	0.12	
16	63518 ~ 63519	-86206 ~ -86207	N-74°-E	0.25	0.22	0.14	
19	63507	-86197	N-49°-W	0.32	0.30	0.28	
21	63506 ~ 63507	-86199	N-32°-W	0.20	0.19	0.14	
22	63507	-86196 ~ -86197	N-81°-E	0.26	0.22	0.12	
23	63507	-86196	N-58°-W	0.46	0.37	0.12	
24	63506 ~ 63507	-86196	N-9°-E	0.39	0.36	0.15	
25	63505	-86195 ~ -86196	N-34°-E	0.18	0.17	0.09	
26	63504 ~ 63505	-86196	N-25°-E	0.36	0.29	0.15	
27	63504	-86196 ~ -86197	N-74°-E	0.41	0.22	0.09	
28	63502	-86196 ~ -86197	N-28°-W	0.21	0.17	0.10	
29	63503 ~ 63504	-86197 ~ -86198	N-11°-W	0.31	0.31	0.19	
31	63505	-86198 ~ -86199	N-5°-W	0.17	0.14	0.23	
32	63505	-86199	N-20°-W	0.45	0.35	0.34	
33	63504	-86201	N-84°-W	0.21	0.17	0.26	
34	63504	-86202	N-4°-W	0.21	0.18	0.09	
35	63503	-86204	N-29°-E	0.35	0.27	0.23	
39	63499	-86195 ~ -86196	N-7°-W	0.40	0.32	0.32	
40	63510 ~ 63511	-86198	N-75°-E	0.30	0.29	0.27	
41	63502	-86201	N-29°-W	0.31	0.25	0.13	
42	63499	-86196	N-0°	0.32	0.31	0.45	
43	63495	-86190 ~ -86191	N-13°-E	0.28	0.29	0.34	
44	63494	-86193	N-29°-W	0.35	0.29	0.38	
45	63494	-86191 ~ -86192	N-37°-E	0.31	0.24	0.18	
46	63493	-86192	N-9°-E	0.25	0.20	0.29	
47	63493 ~ 63494	-86191	N-7°-E	0.44	0.33	0.28	
48	63493 ~ 63494	-86190 ~ -86191	N-13°-W	0.24	0.22	0.08	
49	63491	-86193 ~ -86194	N-45°-W	0.34	0.29	0.37	

番号	X座標	Y座標	主軸	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
50	63492	-86191	N-67°-E	0.29	0.23	0.33	
51	63493	-86191	N-66°-E	0.36	0.35	0.32	
52	63492 ~ 63493	-86191	N-31°-E	0.36	0.33	0.32	
53	63492	-86191	N-59°-E	0.28	(0.20)	0.42	
54	63491	-86190	N-33°-W	(0.27)	0.24	0.09	
55	63492 ~ 63493	-86190	N-67°-E	(0.25)	0.25	0.25	
56	63493	-86190	N-63°-E	0.29	0.25	0.24	
57	63492	-86189	N-82°-W	0.30	0.29	0.39	
58	63492	-86189	N-23°-W	(0.33)	0.34	0.37	
59	63491	-86191 ~ -86192	N-62°-W	0.44	0.35	0.21	
60	63490 ~ 63491	-86191	N-66°-W	0.45	0.38	0.22	
61	63491	-86190 ~ -86191	N-60°-W	0.24	0.21	0.24	
62	63490	-86189	N-40°-W	0.28	0.26	0.21	
63	63490	-86190	N-2°-E	0.26	0.23	0.27	
64	63490	-86191	N-29°-E	0.33	0.29	0.24	
65	63490	-86191 ~ -86192	N-35°-W	0.31	0.28	0.36	
66	63489	-86191	N-31°-W	0.27	0.25	0.18	
67	63488 ~ 63489	-86191 ~ -86192	N-35°-E	0.35	0.31	0.29	
69	63488	-86192	N-28°-E	0.30	0.29	0.43	
70	63488	-86192	N-41°-W	(0.31)	(0.30)	0.42	
71	63487	-86191	N-82°-E	0.26	0.24	0.19	
72	63486 ~ 63487	-86193	N-25°-E	0.30	0.28	0.47	
73	63486	-86194	N-57°-E	0.31	0.25	0.26	
74	63487	-86194	N-19°-W	0.36	0.29	0.38	
75	63485 ~ 63486	-86195	N-18°-W	0.43	0.36	0.31	
76	63487	-86195	N-31°-E	0.28	0.24	0.47	
78	63493	-86201	N-79°-W	0.38	0.36	0.22	
79	63491	-86197	N-12°-W	0.22	0.19	0.25	
80	63489	-86191 ~ -86192	N-70°-W	0.24	0.23	0.21	
85	63491	-86190	N-90°	0.41	0.40	0.41	
86	63489	-86189	N-86°-W	0.23	0.19	0.08	
87	63495	-86190	N-10°-E	0.30	0.30	0.30	
88	63495	-86190	N-0°	0.29	0.26	0.18	
89	63491	-86192	N-47°-W	(0.24)	0.24	0.16	
90	63489 ~ 63490	-86197	N-78°-E	0.34	0.29	0.15	
91	63489 ~ 63490	-86197 ~ -86198	N-90°	0.33	0.27	0.29	
92	63488	-86197	N-5°-E	0.31	0.24	0.36	
93	63489	-86192	N-22°-E	0.36	0.30	0.52	
94	63491 ~ 63492	-86197 ~ -86198	N-5°-E	0.24	0.16	0.19	
95	63491	-86197	N-2°-E	0.26	0.22	0.18	
96	63486	-86190	N-15°-E	0.24	0.21	0.20	
97	63486 ~ 63487	-86190	N-58°-W	0.30	0.27	0.38	
98	63487 ~ 63488	-86193	N-90°	0.26	0.25	0.12	
99	63487	-86192 ~ -86193	N-51°-W	0.29	0.28	0.15	
100	63486	-86193	N-90°	0.23	0.22	0.21	
101	63491 ~ 63495	-86202	N-0°	0.32	0.26	0.09	
102	63492 ~ 63493	-86203	N-42°-W	0.39	0.24	0.34	
103	63493	-86204	N-58°-W	0.22	0.16	0.14	
104	63518	-86199	N-32°-W	0.26	0.19	0.22	
105	63519	-86197	N-39°-E	0.21	0.21	0.22	
106	63520	-86196	N-35°-E	0.23	0.20	0.19	
107	63520	-86195 ~ -86196	N-63°-W	0.28	0.27	0.22	
108	63497	-86188 ~ -86189	N-10°-W	(0.36)	(0.38)	0.53	
109	63491	-86190	N-0°	0.26	0.23	0.16	
110	63490	-86189 ~ -86190	N-3°-E	0.17	0.17	0.13	
112	63493	-86193	N-62°-W	0.21	0.16	0.13	
116	63485 ~ 63486	-86188	N-30°-E	0.26	0.24	0.36	
117	63486	-86186	N-19°-W	0.30	0.23	0.19	
118	63486 ~ 63487	-86185 ~ -86186	N-68°-W	0.27	0.23	0.11	
119	63484	-86185	N-70°-W	0.27	0.26	0.17	
120	63496 ~ 63497	-86188 ~ -86189	N-47°-W	0.34	0.32	0.40	
121	63487	-86187 ~ -86188	N-41°-E	0.22	0.22	0.10	
122	63500	-86190	N-19°-E	0.31	0.31	0.23	
123	63488	-86193 ~ -86194	N-0°	0.21	0.21	0.14	
124	63488	-86193	N-6°-W	0.23	0.20	0.15	
125	63490	-86194 ~ -86195	N-13°-E	0.23	0.21	0.27	
126	63499	-86190	N-81°-W	0.42	0.38	0.45	
127	63499	-86191	N-16°-W	0.35	0.29	0.15	
128	63495	-86190	N-69°-W	0.30	(0.24)	0.33	

ビット計測表

番号	X座標	Y座標	主軸	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
129	63495 ~ 63496	-86190	N-31°-E	0.28	0.27	0.32	
130	63499	-86193	N-48°-W	0.31	0.26	0.40	
131	63496	-86192	N-25°-W	0.18	0.16	0.22	
132	63489	-86193	N-71°-W	0.24	0.20	0.28	
133	63500	-86190	N-7°-E	0.28	0.27	0.19	
135	63496	-86191 ~ -86192	N-74°-E	0.35	0.23	0.22	
136	63495	-86189 ~ -86190	N-44°-W	0.25	0.19	0.13	
138	63495	-86190	N-57°-W	0.30	0.24	0.30	
139	63496	-86189	N-95°-E	0.29	0.21	0.09	
140	63499	-86193	N-72°-E	0.24	0.23	0.24	
141	63499	-86191	N-84°-W	0.33	0.24	0.24	
142	63488 ~ 63489	-86208	N-17°-E	0.33	0.31	0.58	
143	63488	-86208	N-29°-W	0.26	0.16	0.20	
144	63486	-86207	N-4°-W	0.32	0.25	0.57	
145	63486 ~ 63487	-86208	N-20°-W	0.41	0.32	0.57	
146	63476	-86210	N-49°-E	0.24	0.20	0.21	
147	63476	-86210	N-17°-W	0.33	0.27	0.24	
149	63490	-86206	N-84°-E	0.36	0.35	0.28	
150	63490	-86208	N-90°	0.31	0.30	0.68	
152	63483	-86211	N-59°-E	0.36	0.25	0.32	
155	63482 ~ 63483	-86192	N-38°-W	0.28	0.25	0.33	
156	63480	-86192	N-31°-E	0.21	0.20	0.17	
157	63476	-86208	N-0°	0.33	0.29	0.33	
161	63484 ~ 63485	-86208	N-25°-E	0.39	0.33	0.49	
162	63478 ~ 63479	-86206	N-20°-E	0.24	0.19	0.27	
163	63486 ~ 63487	-86209 ~ -86210	N-3°-W	0.16	0.15	0.64	
164	63472 ~ 63473	-86212	N-61°-W	0.23	0.18	0.35	
165	63473	-86212 ~ -86213	N-76°-W	0.45	0.35	0.34	
166	63479	-86211	N-16°-W	0.36	0.25	0.20	
167	63478	-86193 ~ -86194	N-49°-W	0.22	0.20	0.12	
168	63477	-86193 ~ -86194	N-47°-E	0.39	0.33	0.20	
169	63475	-86196	N-57°-W	0.36	0.28	0.43	
170	63477	-86195	N-40°-E	0.25	0.24	0.39	
171	63477	-86195	N-34°-W	0.20	0.18	0.24	
172	63477	-86197	N-60°-E	0.28	0.26	0.17	
175	63490	-86202 ~ -86203	N-28°-W	0.37	0.30	0.28	
176	63490	-86203 ~ -86204	N-43°-W	0.38	0.31	0.20	
178	63486	-86205	N-28°-W	0.33	0.31	0.42	
179	63490	-86204	N-23°-E	0.37	0.33	0.24	
180	63477	-86207 ~ -86208	N-41°-E	0.23	0.20	0.36	
181	63490	-86208	N-5°-W	0.22	0.19	0.31	

第7表 遺物観察表

1. 縄文時代
5号塚6建物

棟号 Pl.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10R Pl.23	1	縄文土器 深鉢	伊 胴部中央90%		細砂多/焼成良/ 褐色	胴部に隆線で楕円区画文を施し、区画内を縦位沈線で充填。 胴部に隆線が対向する満卷文を施し、そこから2条の懸垂 隆線と上端に親手文を伴った沈線帯を並下させて、隆線間 に方向を変えた沈線を充填する。伊内面直上縁、口縁部と 胴部下半を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設したもので、下半 部が焼熱により変色・劣化している。	塚上式
第10R Pl.23	2	縄文土器 深鉢	伊 体部上半1/4	口 (25.0)	砂粒少/焼成良/ 灰黒褐色	口縁部に満卷文と楕円区画文。内面ナデ。縄文R。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	3	縄文土器 深鉢	榑方 体部上半1/5		砂粒少/焼成良/ 赤褐色	口唇部外面に割目。体部の懸垂無文帯間に縄文Rを充填。 内面研磨光沢。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	4	縄文土器 深鉢	2号塚6建物 体部1/4		砂粒少/焼成良/ にぶい赤褐色	体部に長方形区画文。内面研磨光沢。縄文R。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	5	縄文土器 浅鉢	口縁～同下半 1/5	口 19.0	細砂多/焼成良/ 褐色	口縁部沈線下に縄文R。内面研磨光沢。内外面に赤色塗彩。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	6	縄文土器 深鉢	伊 口縁～胴部1/5	口 (28.0)	砂粒少/焼成良/ にぶい褐色	口縁部無文。胴部上位に2条の沈線がめぐる。内面ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	7	縄文土器 深鉢	榑方 体部上半1/5	口 (16.0)	砂粒少/焼成良/ 褐色	口唇部に櫛歯状飾文が目目。体部に同飾文目で縁付文 飾文。口縁部に2条の沈線で連貫文。内面に粗い横ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	8	縄文土器 深鉢	榑～胴部1/4		砂粒少/焼成良/ 明赤褐色	口縁部に楕円区画文。胴部沈線下に楕円区画文。縄文R。 内面ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	9	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 暗褐色	外面に隆帯で満卷文等の文様を施文。内面入念ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	10	縄文土器 深鉢	胴部下半～底 部1/3	底 6.2	砂粒少/焼成良/ 黒黒褐色	3本単位の懸垂沈線間に縄文Rを施文。内面研磨光沢。底 面無文。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	11	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/焼成良/ にぶい褐色	外面に満卷文。内面入念ナデ。縄文R。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	12	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/焼成良/ にぶい黄褐色	口縁部に横位の縁付文飾文。内面入念ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	13	縄文土器 深鉢	口縁～胴部片		砂粒少/焼成良/ 暗赤褐色	口縁部に沈線を伴う隆帯。体部上位に縄文Rと斜行する太 沈線。内面に粗い研磨。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	14	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒少/焼成良/ 褐色	口唇部内面に折り返し状。口縁部に満卷文。内面ナデ。	塚上式
第10R Pl.23	15	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒少/焼成良/ 黒黒褐色	外面に条線を縦位飾文。内面ナデ。	加曽利E 3式
第10R Pl.23	16	縄文土器 浅鉢	口縁部片		砂粒少/焼成良/ にぶい赤褐色	内外面無文。研磨光沢。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	17	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 暗赤褐色	外面の縄文Rを地文に2条単位の沈線で懸垂文と弧状文を 施文。内面研磨。	加曽利E 2式 新
第11R Pl.23	18	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 明赤褐色	胴部に横位沈線。胴部上位に3条の沈線で連貫文。内面粗 い研磨。縄文R。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	19	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 明赤褐色	胴部に横位沈線。胴部上位に3条の沈線で連貫文。内面粗 い研磨。縄文R。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	20	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ にぶい褐色	胴部に隆線を縦位飾文。胴部に2条の隆線で懸垂文を施し、 その間に矢羽根状沈線を施文。内面ナデ。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	21	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 赤褐色	外面に1～2条の隆線懸垂文と斜行する沈線を施文。内面 に粗いナデ。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	22	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ にぶい赤褐色	外面に縦位の条線や波状文を施文。内面ナデ。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	23	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ にぶい褐色	外面に矢羽根状沈線。内面研磨。	加曽利E 3式
第11R Pl.23	24	縄文土器 深鉢	伊 胴部片		砂粒少/焼成良/ 明赤褐色	胴部に横位沈線。懸垂無文帯間に横位短沈線を重複飾文。 内面研磨光沢。	加曽利E 3式
第12R Pl.23	25	石鏡	完形	長 2.54 幅 2.12 厚 0.32 重 1.0	黒曜石	無基、大型	
第12R Pl.23	26	打製石斧	刃部欠損	長 (6.70) 幅 3.40 厚 1.03 重 33.4	頁岩	短冊形、小型	
第12R Pl.23	27	打製石斧	柄端部のみ	長 (4.80) 幅 4.05 厚 1.27 重 27.3	安山岩	短冊形	
第12R Pl.23	28	打製石斧	完形	長 11.82 幅 4.40 厚 1.56 重 85.0	安山岩	短冊形、小型、未使用	
第12R Pl.24	29	打製石斧	完形	長 19.80 幅 8.36 厚 2.44 重 514.4	頁岩	短冊形、大型、未使用。柄部端に自然面	
第12R Pl.24	30	磨石	完形	長 12.0 幅 6.9 厚 3.6 重 390.0	輝石安山岩	両平直面に磨り面。中央部に最打痕。片側の側縁に最打に よる平坦面。内側縁に最打痕。	
第12R Pl.24	31	打石	完形	長 20.0 幅 15.9 厚 6.0 重 2910.0	安山岩	扁平な用原石を使用。両平直面に磨り磨り面と最打痕があ る。	

遺物観察表

1号埋土部

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第138号 PL.24	1	縄文土器 深鉢	胴部下半～底部70%	底 10.0	砂粒多/焼成良/ にぶい赤褐色	3本単位の懸垂沈線跡に縄文様と波状沈線懸垂文を施す。 内面に入念ナデ。底面に刷代肌。	加曾利 E 3式

20号土坑

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156号 PL.24	1	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ 褐色	胴部に2条の隆線がめぐり、胴部に2条の隆線と沈線の懸垂文を施す。縄文は目。ナンバー上げの5点が報告。胴部下端が焼熱しており、逆で土坑内に埋没されていた可能性が高い。	加曾利 E 2式 新

23号ピット

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第198号 PL.24	1	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/焼成良/ にぶい褐色	外面に縄文様と波状懸垂沈線。内面軽い研磨。	加曾利 E 3式

遺物群

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第200号 PL.24	1	縄文土器 深鉢	7号型穴建物 口縁部片		砂粒・金泥多/ 焼成良/灰褐色	口縁部隆線上方に刺突文。楕円区画内に押印文。内面軽い研磨。	阿玉台 1 b 式
第200号 PL.24	2	縄文土器 深鉢	5号型穴建物 胴部片		砂粒多/焼成良/ にぶい褐色	外面に押印沈線でV字状の文様を施す。内面ナデ。	阿玉台 1 a 式 か
第200号 PL.24	3	縄文土器 深鉢	2号型穴建物 口縁部片		砂粒少/焼成良/ 褐色	口縁部に2条の大沈線と2字文。内面軽い研磨。縄文様。	加曾利 E 3式
第200号 PL.24	4	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/焼成良/ 灰褐色	刺突を伴う懸垂沈線と2条の沈線による波状文を施す。内面に軽い研磨。縄文不明瞭。	加曾利 E 3式
第200号 PL.24	5	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/焼成良/ にぶい黄褐色	外面に矢羽根状沈線。内面研磨。	加曾利 E 3式
第200号 PL.24	6	石鏡	6号型穴建物 ほぼ完全形	長 5.00 幅 1.58 厚 0.65 重 4.2	黒色頁岩	有茎。大型	

2. 古墳～平安時代時代

1号型穴建物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224号 PL.24	1	土師器 杯	カマ下 口縁～腰部	長 4.6 幅 3.2	高 (4.1) 粗砂粒/酸化塩/ 褐色	焼成やや不良。口縁横撫で。腰部内面撫で、外面掘削り。	
第224号 PL.24	2	土師器 甕	腰部～底部外 周破片	底 (7.4)	高 (4.6) 粗砂粒/酸化塩/ 灰黄褐色	焼成良好。内面呪尻。腰部～底部内面横位の撫で、腰部外面横位の掘削り、底面掘削り。	
第224号 PL.24	3	土師器 小型甕	カマ下 口縁下半～ 底部破片		高 (6.2) 粗砂粒/還元焼/ 灰黄褐色	焼成良好。口縁部欠損。口縁横撫で。体部内面横位の撫でで指頭痕残り、外面上方への掘削り。	破片 3片

2号型穴建物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第248号 PL.24	1	土師器 杯	口縁～体部破 片	口 (12.0)	高 (3.2) 粗砂粒/酸化塩/ 褐色	口縁横撫で。体部内面反時計回りの掘削り、外面横位の掘削り。	
第248号 PL.24	2	土師器 甕	口縁～体部上 位	口 (20.0)	高 (9.4) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい褐色	口縁横撫で。体部内面反時計回りの掘削り、外面斜方向への掘削り。	
第248号 PL.24	3	土師器 甕	腰部～底部破 片	底 (6.6)	高 (7.2) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい黄褐色	内外面呪尻。内面体部斜め左下へ、底面反時計回りの掘削り。体部外面斜方向の掘削り。底面掘削り。	
第248号 PL.24	4	鉄製品 不明鉄製品	一部	長 4.2 幅 0.7 厚 2.2 重 0.3		先端部に向けてややゆるくなっていく鉄製品。刃は付けられていない。表面に有機質塗料があるが、使用時の状況との関係は不明。	

3号型穴建物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第260号 PL.24	1	須恵器 甕	貯蔵穴 口縁部～腰部 破片	口 (13.0)	高 (5.2) 粗砂粒/還元焼/ にぶい黄褐色	焼成やや甘い。回転輪軸整形。腰部外面横位の掘削り。	
第260号 PL.24	2	須恵器 羽釜	口縁下端部～ 体部上位破片	長 4.5 幅 4.9	高 (3.9) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい褐色	厚1.0cm、長さ1.0cmを跨る器が付く。口縁横撫で。体部内面横位の掘削り、外面指痕への掘削り。	月夜野型羽釜
第260号 PL.24	3	須恵器 甕	体部破片	長 8.1 幅 10.4	高 (7.5) 粗砂粒/還元焼/ 灰白色・褐色	外面に自然釉。外面平ら引き、内面同心叩き。	
第260号 PL.24	4	灰輪陶器 甕	体部破片	長 4.1 幅 3.3	高 (3.6) 粗砂粒/還元焼/ 灰白色	回転輪軸整形。外面上位に灰釉。	

4号形穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第27回 PL.24	1	土師器 杯	口縁部～底部 破片	長 2.8 幅 5.2	高 2.3	細砂粒/酸化塩/ 褐色	口縁横線で、体部内面反時計回りの窪地で、外面横位の窪 削り。	

6号形穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第29回 PL.25	1	土師器 杯	口縁～体部一 口欠損	口 15.0 底 8.4	高 4.4	細砂粒/酸化塩/ 明赤褐色	口縁横線で、体一底部内面反時計回りの窪地で、体部外面 上位指頭痕を残し、下位～底面回しによる窪削り。	
第29回 PL.25	2	土師器 杯	カマド 1/4	口 (15.0) 底 (10.4)	高 (4.1)	細砂粒/酸化塩/ 褐色	焼成良好。口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの窪 地で底面に指頭痕を残す。外面体部反時計回り、底面回しな がらの窪削り。	
第29回 PL.25	3	須恵器 蓋	底部片	底 9.3	高 (2.0)	粗砂粒/還元焼/ 灰褐色	右回転轆轤成形。回転脱起し。底面外周に幅0.9cm程の 高台の剥離痕を残す。	
第29回 PL.25	4	鉄製品 カスガイカ	3/4	長 7.7 幅 4.9	厚 0.6 重 14.8		じ字状に曲げられている断面四角形のカスガイ状の製品。 脚部先端より約3.5cmのところまで曲げられている。脚部先 端は尖らずに丸みを帯びる。	
第29回 PL.25	5	鉄製品 不明鉄製品	完形か	長 7.3 幅 0.65	厚 0.4 重 7.8		断面四角形の棒状鉄製品。緩やかに蛇行するように曲がっ ている。	

7号形穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第32回 PL.25	1	土師器 杯	口縁～体部1/6 欠損	口 15.3 底 8.8	高 4.5	細砂粒/酸化塩/ 褐色	口縁横線で、体部内面横位の窪地で右上への提磨き。外 面左側への窪削り。底部内面回転による窪削で、外面回し ながらの窪削り。	
第32回 PL.25	2	土師器 襷	カマド 口縁～肩部片	口 (20.0)	高 (7.9)	細砂粒/酸化塩/ 明赤褐色	口縁横線で、胴部内面(左方へ)横位の窪削で、外面(左 方へ)横位の窪削り。	
第32回 PL.25	3	須恵器 蓋	折り方 2片、1/4	口 (18.0)	高 (1.8)	細砂粒/還元焼/ 灰褐色	回転轆轤成形。返しは口縁を下方へ0.6cm引く。内面に自然 輪痕を残す。	
第32回 PL.25	4	須恵器 蓋	3/4	口 15.4	高 2.9	細砂粒/還元焼/ 灰褐色	右回転轆轤成形。頂部に径4.6cm、高さ0.7cm、深さ0.3cm の窪み測る輪状窪削り。内面口縁寄り1.2cm内側に幅0.4 cm、高さ0.4mmの返し付く。	
第32回 PL.25	5	砥石	完形	長 39.3 幅 27.2	厚 15.6 重 25,000	粗粒輝石安山岩	大きな楕円形の円盤を使用した置き砥。平ら面大半に平滑 な磨り面がある。右手上方に欠けがあるが、そこも磨りつ ぶて修正している。手前が高いので、しゃがんで使用する と、うまく力が加わる。	
第32回 PL.25	6	鉄製品 不明鉄片	完形か	長 3.65 幅 1.2	厚 0.3 重 2.7		鉄片。全体が波を打ったように歪む。平円形に近いが、製 品を意図したものでないと思われる。	

遺物類

種 別 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第36回 PL.25	1	土師器 杯	110号ビット 腰部～底部破 片	口 (14.0)	高 3.6	細砂粒/酸化塩/ 褐色	口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの窪地で、体部外 面左方への窪削り、底面窪削り。	
第36回 PL.25	2	土師器 襷	口縁～肩部上 端破片	口 (21.0)	高 (3.8)	細砂粒/酸化塩/ にぶい、褐色	内外面部分的に喫現。口縁横線で、内面に縦位の窪削で 残る。肩部外面窪削り、内面横位の窪削で。	
第36回 PL.25	3	須恵器 杯	腰部～底部1/3 破片	底 16.9	高 (2.6)	細砂粒/酸化塩/ にぶい、褐色	回転轆轤成形。底面回転糸切り。内面磨き様処理。	
第36回 PL.25	4	須恵器 襷	1号溝 頸部下位～右 端破片	長 8.3 幅 10.7	高 (6.5)	粗砂粒/還元焼/ 黄褐色	焼成良好。外面と内面頸部に自然轆轤。外面と内面頸部横 位の窪削で、肩部内面窪削で。	
第36回 PL.25	5	灰釉陶器 蓋	1号溝 腰部～高台1/4	長 6.6	高 (2.2)	細砂粒/還元焼/ にぶい、黄褐色	内外面に灰釉塗掛け跡。回転轆轤成形。頂部回転糸切り後、 鋸削付時に撫で、上位内外面に撫削で縦線を残す。	大原

3. 中世
154号土坑

種 別 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第38回 PL.25	1	銭貨 伊弉波貫	完形	外 径 2.39 内 径 1.962	厚 0.12 重 2.6		面、背ともに彫が深く文字、輪、郭が明瞭。特に面の彫が 深い。	
第38回 PL.25	2	銭貨 熊牟元貫	完形	外 径 2.316 内 径 1.819	厚 0.197 重 3.2		面の彫は深く、背の彫はやや浅い。文字、輪、郭が明瞭。	
第38回 PL.25	3	銭貨 太平通貫	完形	外 径 2.375 内 径 1.866	厚 0.142 重 1.7		面の彫は深いのが文字が見えづらい。やや磨損している。背 の彫は浅く輪、郭が確認できない。	

遺物観察表

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38回 PL.25	4	瓦貨 開元通寶	ほぼ完形	外径 2.454	厚 1.929	内径 1.131		全体に劣化が見られ、面の文字の一部もやや不明瞭。背の彫は浅く、輪、郭が不明瞭。	
162号ビット									
種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46回 PL.25	1	砥石	1/3か	長 (8.7)	厚 5.2	幅 6.9	重 267.7	粗粒安山岩	多孔質の安山岩を使用。側面3面に平滑な使用面があり、一部に溝ならしや敲打痕が残る。

第8表 非掲載遺物集計表

陶磁器			集計：左が点数、右が重さ(g)						
区	層位・面	遺構番号	遺構種	近 世		近 代		近 現 代	
				国産磁器	陶産磁器	国産陶器	陶産陶器	陶磁器	重量
				点数	重量	点数	重量	点数	重量
		7	竪穴建物 表採	4	50	1	15	2	52
北1				4	50	1	15	2	52
計				4	50	2	17	2	52
総数				8	119			2	52
				近世 6 67		近代 2 52			

縄文・古代

区	番号	遺構名	備考	計測	土師器		須恵器		縄文土器	石器・石製品	黒曜石	小計
					大型	小型	大型	小型				
1	1	竪穴建物		重さ	280	22	60		20	10		392
					個数	49	8	2		1	2	62
1	2	竪穴建物		重さ	122	38	42		90	30	8	330
					個数	20	9	1		5	3	5
1	3	竪穴建物		重さ	260	110	40		232	28	2	672
					個数	37	22	2		15	5	1
1	4	竪穴建物		重さ	90	6	10		100	12		218
					個数	11	4	2		8	3	28
1	5	竪穴建物		重さ					5400	2170	2	7572
					個数					318	79	2
1	6	竪穴建物		重さ	426	286	14		18	147		891
					個数	105	46	1		1	7	160
1	7	竪穴建物		重さ	906	20	54		12	32		1024
					個数	146	4	1		1	8	160
1	1	土坑		重さ					50			50
					個数					1		1
1	20	土坑		重さ					24	27		51
					個数					2	2	4
1	48	ビット		重さ	6							6
					個数	1						1
1	52	ビット		重さ	8							8
					個数	1						1
1	68	土坑		重さ	14							14
					個数	1						1
1	85	ビット		重さ	3							3
					個数	1						1
1	87	ビット		重さ	4							4
					個数	1						1
1	90	ビット		重さ	3							3
					個数	2						2
1	110	ビット		重さ	56	48	6		17	50		177
					個数	18	14	1		1	2	36
1	111	土坑		重さ	10				8			18
					個数	3				1		4
1	115	土坑		重さ	62	52						114
					個数	18	13					31
1	1	溝		重さ	29					3		32
					個数	5					1	6
1	1	試掘トレンチ		重さ	2							2
					個数	1						1
1	2	試掘トレンチ		重さ	14							14
					個数	1						1
1	4	試掘トレンチ		重さ	14	10						24
					個数	1	1					2

非掲載遺物集計表

区	番号	遺構名	備考	計測	土師器		須恵器		縄文土器	石器・石製品	黒曜石	小計
					大型	小型	大型	小型				
1		包含層I		重さ	48	6	14	9	74		1	152
				個数	9	3	1	1	3			1
1		北表探		重さ	170				220	108		498
				個数	16				5	3		
1		北トレンチ As-B下		重さ		4						4
				個数		3						
1		北FA脱上面		重さ		54	60					114
				個数		7	1					
1		北FA下		重さ				20	35		55	
				個数				5	2			7
1		北流れこみ		重さ				110			110	
				個数				5				5
1		北側自然河道 東		重さ	116	24	18					158
				個数	9	2	1					
1		北粕川脱上		重さ		3					3	
				個数		1						1
1		南		重さ	130		28	100	59		317	
				個数	28		1	11	9			49
1		南包含層		重さ				750	53		803	
				個数				66	4			70
1		南沢		重さ			98				98	
				個数			1					1
1		その他		重さ						17	17	
				個数								24
1		南隣層横粕川 下		重さ	136	60		54	9		259	
				個数	39	13		3	2			57
1		縄文包含層		重さ							6	
				個数								6
小計				重さ(g)	2,899	753	444	63	7,195	2,823	36	14,213
				個数	520	153	15	4	448	133	39	

写真図版



1 調査区空中写真(南から)



2 調査区全景(手前北)



1 調査区中東部(手前東)



2 調査区中西部(手前南東)

縄文時代(竪穴建物)



1 5号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2 5号竪穴建物の遺物出土状況(南から)



3 5号竪穴建物遺物全景(東から)



4 5号竪穴建物埋裏炉と柱穴(東から)



5 5号竪穴建物の炉全景(南から)



1 5号竪穴建物が断ち割り(北東から)



2 5号竪穴建物ビット4土層断面(南から)



3 1号土坑全景(北から)



4 2号土坑全景(南から)



5 7号土坑全景(南から)



6 8号土坑全景(東から)



7 9号土坑全景(東から)



8 17号土坑全景(東から)



1 18号土坑全景(北東から)



2 20号土坑全景(北東から)



3 30号土坑全景(東から)



4 36号土坑全景(南から)



5 37号土坑全景(南から)



6 153号土坑全景(北から)



7 3号ピット全景(北東から)



8 4号ピット土層断面(南から)



9 5号ピット全景(南東から)



1 6号ピット全景(南から)



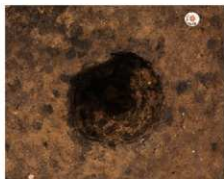
2 10号ピット全景(北東から)



3 11号ピット土層断面(南から)



4 12号ピット土層断面(南から)



5 13号ピット全景(北東から)



6 14号ピット全景(北東から)



7 15・16号ピット全景(北から)



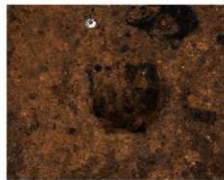
8 21号ピット土層断面(南から)



9 22号ピット全景(北東から)



10 23号ピット全景(東から)



11 28号ピット全景(北東から)



12 楕円形状配列の土坑・ピット群(東から)



1 31号ピット全景(東から)



2 32号ピット全景(東から)



3 33号ピット土層断面(南から)



4 34号ピット全景(南東から)



5 35号ピット全景(南から)



6 40号ピット全景(東から)



7 118号ピット全景(南から)



8 119号ピット全景(北から)



9 124号ピット全景(北から)



10 125号ピット全景(南から)



11 128・129号ピット全景(東から)



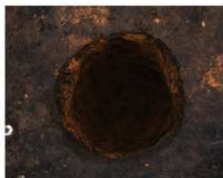
12 133号ピット全景(北から)



13 135号ピット全景(北から)



14 144号ピット土層断面(東から)



15 144号ピット全景(東から)



1 1号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2 1号竪穴建物全景(西から)



3 1号竪穴建物遺物出土状況(西から)

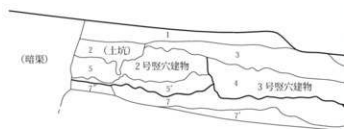


4 1号竪穴建物壙全景(西から)



5 1号竪穴建物壙掘り方全景(西から)

古墳～平安時代(竪穴建物)



1 2・3号竪穴建物土層断面(東から)



2 2号竪穴建物全景(西から)



3 2号竪穴建物壙全景(西から)



4 2号竪穴建物壙掘り方全景(西から)



1 3号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2 3号竪穴建物土坑1遺物出土状況(西から)



3 3号竪穴建物全景(西から)



4 3号竪穴建物掘り方全景(西から)



5 3号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)



1 4号竪穴建物遺物出土状況(北から)



2 4号竪穴建物掘り方全景(西から)



3 6号竪穴建物土層断面(西から)



4 6号竪穴建物竈全景(西から)



5 6号竪穴建物竈掘り方全景(西から)



1 6号竪穴建物全景(西から)



2 6号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3 6号竪穴建物掘り方全景(西から)



4 7号竪穴建物土層断面(東から)



5 7号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)



1 7号竪穴建物全景(西から)



2 7号竪穴建物掘り方全景(西から)



3 41号ピット全景(南東から)



4 120号ピット全景(南東から)



5 121号ピット土層断面(北東から)



6 122号ピット全景(北から)



1 123号ピット全景(南から)



2 126号ピット全景(北から)



3 127号ピット全景(北から)



4 130号ピット全景(東から)



5 131号ピット全景(東から)



6 132号ピット全景(東から)



7 136号ピット土層断面(北から)



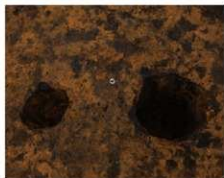
8 138号ピット土層断面(北から)



9 140号ピット全景(南から)



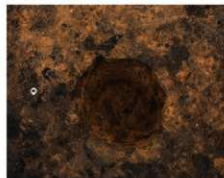
10 141号ピット全景(南から)



11 143・142号ピット全景(東から)



12 143号ピット土層断面(東から)



13 149号ピット全景(東から)



14 150号ピット全景(東から)



15 155号ピット全景(東から)

中世以降(土坑)



1 38号土坑全景(西から)



2 68号土坑全景(北から)



3 77号土坑土層断面(北から)



4 77号土坑全景(南から)



5 111号土坑全景(西から)



6 115号土坑土層断面(南から)



7 115号土坑全景(北から)



8 160号土坑全景(東から)



1 154号土坑全景(南から)



2 154号土坑銭貨出土状況(南から)



3 173号土坑全景(南東から)



4 174号土坑土層断面(南東から)



5 174号土坑全景(北東から)



6 177号土坑全景(北東から)



7 39号ピット全景(南東から)



8 42号ピット全景(北から)



9 43号ピット全景(北から)



1 44号ピット全景(北から)



2 46号ピット全景(北から)



3 49号ピット全景(南から)



4 50号ピット全景(北東から)



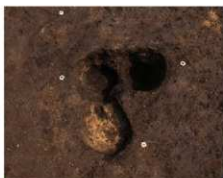
5 51・47号ピット全景(北東から)



6 53・52号ピット全景(北東から)



7 55・56号ピット土層断面(南東から)



8 54・56号ピット全景(北西から)



9 58・57号ピット全景(北東から)



10 60・59・89号ピット全景(北東から)



11 61号ピット全景(南東から)



12 62・63号ピット全景(北東から)



13 80・65・64号ピット全景(南東から)



14 66号ピット全景(東から)



15 67号ピット全景(東から)



1 69・70号ピット全景(南東から)



2 71号ピット全景(南東から)



3 72号ピット全景(南東から)



4 73号ピット全景(南東から)



5 74号ピット全景(南東から)



6 75号ピット全景(南東から)



7 76号ピット全景(南東から)



8 78号ピット全景(南東から)



9 79号ピット土層断面(南から)



10 85号ピット全景(南東から)



11 86号ピット全景(南東から)



12 88・87号ピット全景(北から)



13 90号ピット全景(北から)



14 91号ピット全景(北から)



15 92号ピット全景(北から)



1 93号ピット全景(東から)



2 94・95・79号ピット全景(南から)



3 96号ピット全景(南東から)



4 97号ピット全景(南東から)



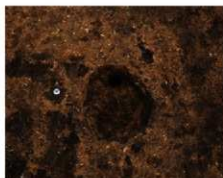
5 98号ピット土層断面(南西から)



6 99号ピット全景(南西から)



7 100号ピット全景(南から)



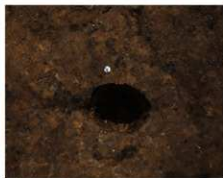
8 101号ピット全景(南から)



9 102号ピット全景(東から)



10 103号ピット全景(北から)



11 104号ピット全景(北東から)



12 105号ピット全景(北東から)



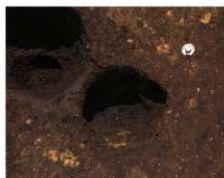
13 107号ピット全景(南東から)



14 108号ピット土層断面(北から)



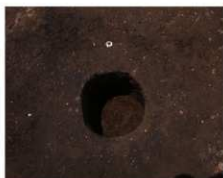
15 109号ピット全景(東から)



1 110号ピット全景(東から)



2 112号ピット全景(南から)



3 116号ピット全景(東から)



4 156号ピット全景(北東から)



5 157号ピット全景(南から)



6 161号ピット全景(南から)



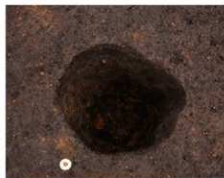
7 162号ピット全景(北東から)



8 167号ピット全景(北西から)



9 168号ピット全景(南東から)



10 169号ピット全景(南から)



11 172号ピット全景(南西から)



12 175・176・179号ピット全景(北から)



13 178号ピット全景(南東から)



14 180号ピット土層断面(西から)



15 181号ピット全景(東から)



1 1号溝全景(北から)



2 1号溝流水痕跡(東から)



3 1号溝硬化面(東から)



4 調査区南東部谷地形(西から)



5 旧河川(北東から)



6 旧河川埋土中As-Kk溜り



7 旧河川中Br-FA埋没状況



1 48号ピット土層断面(南から)



2 48号ピット全景(東から)



3 1号集石全景(西から)



4 調査区北半部遺構確認トレンチ(南東から)



5 旧石器確認調査トレンチ1(東から)

縄文時代
5号墓穴建物





1号埋設土器



20号土坑



23号ピット



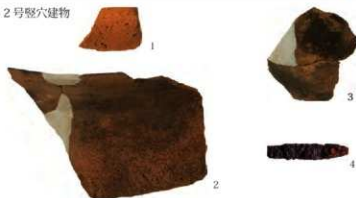
遺構外



古墳～平安時代
1号壱穴建物



2号壱穴建物



3号壱穴建物



4号壱穴建物



6号竪穴建物



7号竪穴建物



遺構外

中世
154号土坑

162号ビット



報告書抄録

書名 ふりがな	いけのさわいせき
書名	池ノ沢遺跡
副書名	上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	一
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	746
編著者名	石守晃
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20241028
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	いけのさわいせき
遺跡名	池ノ沢遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしがつままちおおあざこいずみ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字小泉
市町村コード	10429
遺跡番号	197
北緯(世界測地系)	363405
東経(世界測地系)	1385213
調査期間	20220601-20220731
調査面積	7,156.79
調査原因	道路建設
種別	散布地
主な時代	縄文/古墳～平安時代/中世
遺跡概要	縄文:竪穴建物1+土坑12+ピット36、縄文土器(中期)・石器・石製品/古墳～平安時代:竪穴建物6+土坑2+ピット24、土師器+須恵器+灰釉陶器+金属製品+石製品/中世:土坑13(含土壇墓1)+ピット86+溝1/土坑1+ピット1+集石1
特記事項	縄文時代中期の加曽利E3式期の竪穴建物1棟と、7世紀後半1棟、8世紀前半2棟、8世紀2棟、10世紀前半1棟の竪穴建物を調査した。
要約	本遺跡は吾妻川右岸の河岸段丘と榛名山から続く丘陵を開析した谷地形に立地する。谷地形内の微高地上に縄文時代と古墳～平安時代の竪穴建物や土坑ピット、中世の土壇墓と土坑・ピットと溝を調査し、調査区南端部に旧河道を確認し、南半部中央に時期不明の集石を確認した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第746集

池ノ沢遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年10月25日 印刷

令和6(2024)年10月28日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下道田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gumma1ban.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所
